

375.9  
Ta14  
資料室

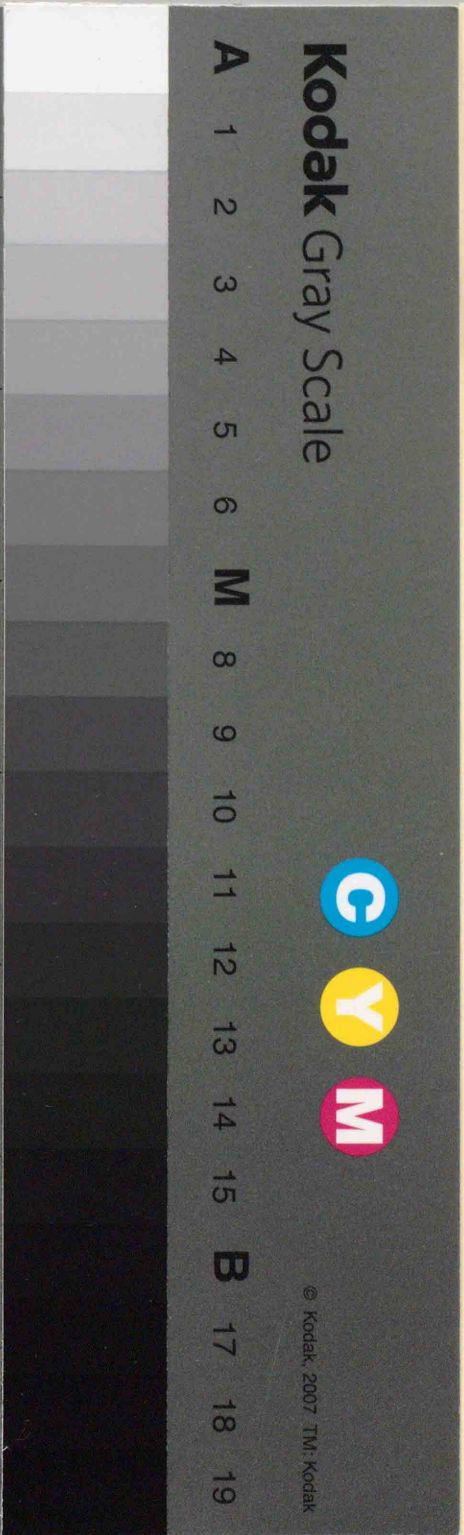
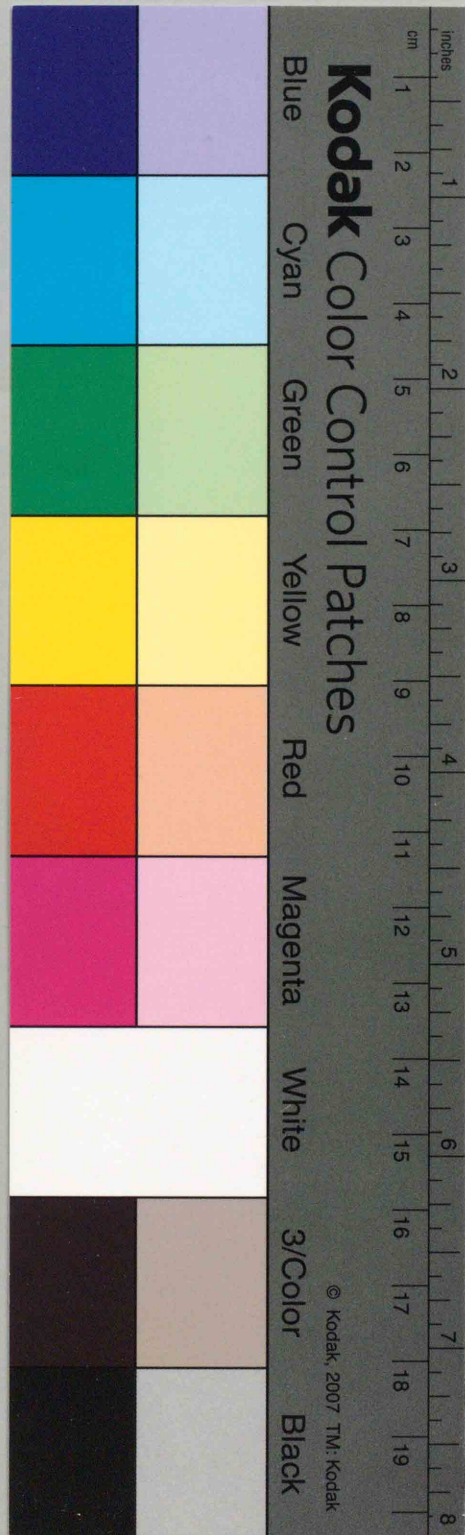
等中子女  
**說概理地**

版訂改

著爾啓中田

阪大 堂 省 三 京東

教  
42  
200



42882  
教科書文庫  
4  
290  
42-1941  
20000  
23816  
2-14  
180



日九十月二年六十和昭  
濟定檢省部文  
用科理地校學女等高

教科書文庫  
4  
290  
42-1941  
2000023816

資料室

378.9  
Tail

等中子女  
說概理地

版訂改

授教學大科理文京東  
授教校學範師等高京東  
著爾啓中田



阪大 堂 省 三 京東



我が國の收穫景(淺井忠氏筆)



歐洲の收穫景(ホッセ氏筆)

廣島大學圖書印



広島大学図書

2000023816





富士と櫻（河口湖）



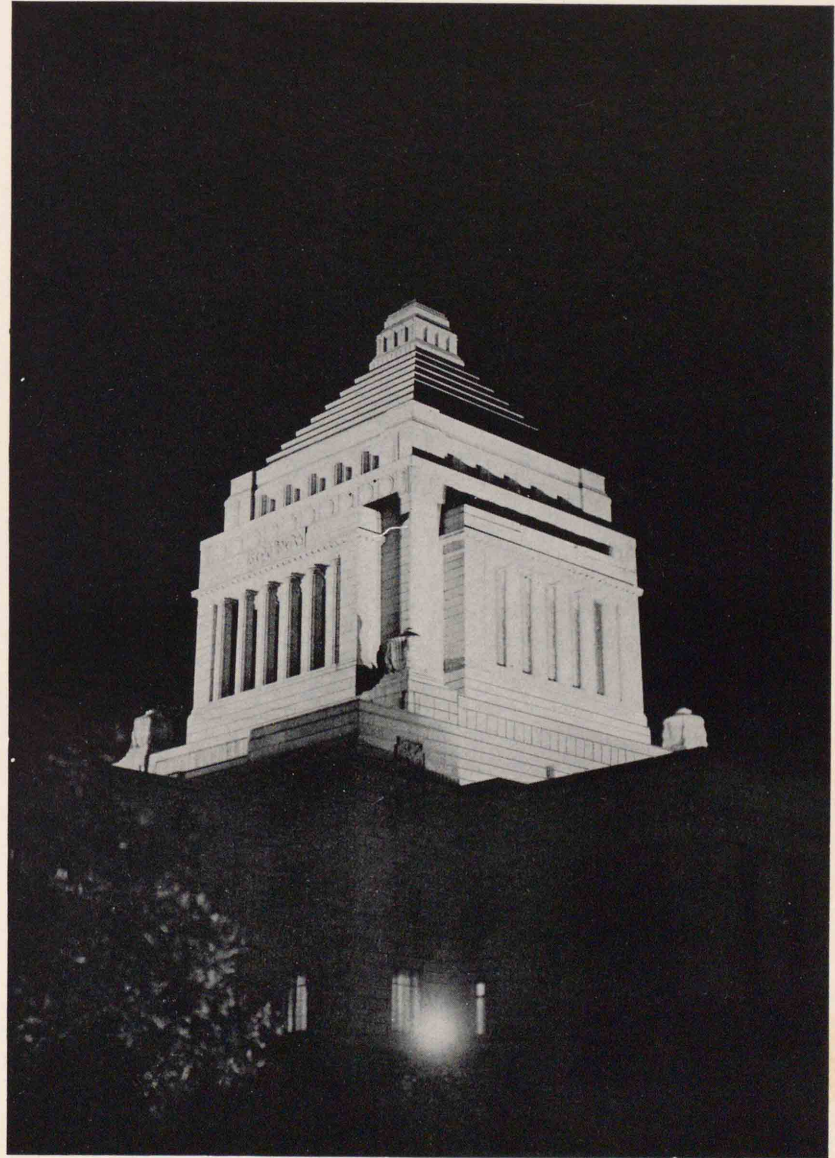
各國の人々(二)

(上) 倫敦橋上の朝の人々  
 (下) 紐育グランドセントラル停車場の人々



各國の人々(一)

(上) 銀座街頭の人々  
 (下) 伯林街頭の人々



夜の議事堂

## 緒言

本書は高等女學校新教授要目に準據して編纂し、拙著<sup>女子中等</sup>日本地理改訂版<sup>及</sup>及び<sup>女子中等</sup>外國地理改訂版と姉妹篇をなす。編纂に當つては、自然及び人類生活の情態並びに兩者の相互關係を明にし、特に人類が自然を利用開發して世界各地の文化を形成せる所以を知らしめ、我が國民性・國民生活・國勢發展の因由を明瞭にし、諸外國との比較によりて、我が國の特性及び世界に於ける地位を正しく把握せしめ、以て國民精神を涵養し、國家の興隆と民族の發展とに資することに力め、新教授要目の趣旨に適合せしめんことを期した。

その他編纂上特に留意した點をあぐれば左の如くである。

一、教材の選擇に當つては特に我が國に關する事項に立脚して、地理的理法を知らしむると共に、我が國勢を明にし之が發展に貢獻すべき識見の育成に力めた。

一、地球・陸地・海洋・氣候に關する事項に就いては産業・交通・住民・政治と關係深きものを説述した。而して兩者の比は一對二とし、後者に重きを置いた。

一、本書に於ては日本地理・外國地理の學習に於て、個々に地理的理法を會得した後を受け、之を世界的に總括歸納し、系統化することに力めた。即ち日本地理總括及び外國地理各大陸總括を更に總括歸納したものである。

一、最後の章の「世界に於ける我が國の地位」に於ては本書の眞の總括として論結してある。

一、産業・交通・住民・政治の章に於ては、地球・陸地・海洋・氣候等の自然的環境並びに他の經濟的社會的事象との關係について學習者の研究の餘地を多からしめた。學習者は地誌に於ける既習事項を基礎とし、隨時應用的、復習的に推究すべきである。

一、地圖・圓グラフ等の圖表は能ふ限り、我が國と外國と對比する如く配列してある。我が國內の分布圖に府縣別ドットマップ・圓グラフを多く用ひたのは數量的に國勢を理解することを容易ならしめたのである。生産地帯を表はす地圖には更に需給關係をも表示することにとつとめ、産業・交通・住民・政治等の發達過程を示す年代的統計も成るべく多く採録した。此

等各種の圖表は本文に説明の省略された部分について、學習者の隨時研究に便ならしめたのである。

種々の理由に依り統計は主として昭和十一年及び十二年度を用ひて支那事變前の常態を示してあるが、世界を通じこの戰時體制經濟による一時的の異動については、教授者に於て必要ならば隨時附説されたい。

一、別項の挿繪も我が國と外國との對比にとつとめた。

一、「日本地圖」「外國地圖」を隨時參照されんことを望む。

昭和十五年八月

著 者 識

目次

第一章	地球	一
第一節	地球と太陽	一
第二節	地球の性状	二
第三節	地球の運動	六
第四節	地球の圖示	一〇
第二章	陸地	一四
第一節	地表の形態	一四
第二節	地形の變化	一五
第三節	內的營力	一七
第四節	外的營力	二四

1 目次



第三章 湖沼と海洋……………三二

第一節 湖沼……………三二

第二節 海洋の形態……………三二

第三節 海水の運動……………三四

第四章 氣候……………三七

第一節 氣温……………三七

第二節 風……………三九

第三節 降水量……………四四

第四節 氣候と氣候區……………四五

第五節 氣候と生物……………四七

第五章 産業……………五二

第一節 農産……………五二

第二節 畜産……………六九

第三節 林産……………七五

第四節 水産……………七七

第五節 鑛産……………八一

第六節 工産……………八八

第七節 貿易……………一〇三

第六章 交通……………一〇八

第七章 住民……………一六

第一節 人種……………一六

第二節 人口……………一九

第三節 言語・宗教……………二一

第四節 衣食住……………一二二

第五節 聚 落……………一二三

第八章 政 治……………一二六

第九章 世界に於ける我が國の地位……………一三三



女子中等 地理概説 (改訂版)

田 中 啓 爾 著

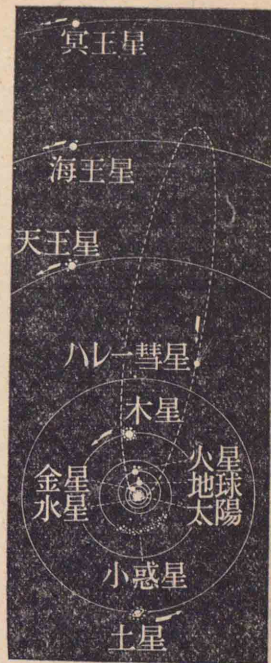
第一章 地 球

第一節 地球と太陽系

晴夜天空に輝く數多の星辰を總稱して天體といひ、その存在する空間を宇宙といふ。多くの星は我が太陽の如く自ら光を發し、相互の位置が一定であるが、少數の星は自ら光を發せず、常に相互の位置を變じて天空を運行する。前者を恒星と稱し、後者を遊星(惑星)といふ。我が地球も亦一つの遊星である。月(太陰)は地球に附隨する小天體で、かゝる星を衛星といふ。

太陽は遊星及びそれ等に附隨する衛星等と共に太陽系を形成する。太陽はその表面から熾烈

太陽の直径は、一三九萬軒地球の一〇九倍に達し、體積は地球の一三〇萬倍に及ぶ



太陽系と地球

な熱と光とを發し、一億五千萬  
 光を距てる地球も、その赫灼た  
 る光と熱とを受ける。又太陽  
 の表面には黒點が現れ、或週期  
 を以てその數に増減があり、そ

の變化は氣候地磁氣極光等に影響すると觀られてゐる。

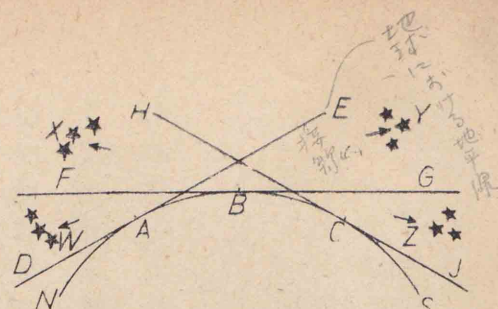
第二節 地球の性状

地球の形状

地球は兩極の方向に稍扁平な橢圓體で、その赤道半徑は六、三七八籽、兩極半徑は六、三五六籽で、その差は僅かに三〇〇分の一であることが知られてゐる。地球の表面は深海や高山があつて凹凸に富んでゐるが、地球の直徑に比すれば極めて微小で、大體に於て球體に近い形をなしてゐる。

地球球體の證

(一)海上又は平原に於て、地平線が圓形をなし、視線を高めるにつれて、その圓の面積が次第に増大すること、(二)海岸に近づく船を

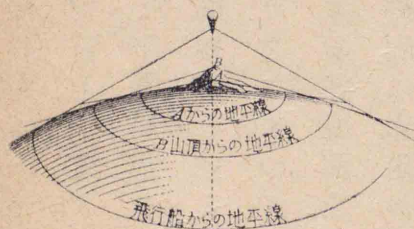


星の觀測と地球の球體

海岸から望めば、先づ水平線上に櫓が見え、次に船體が現れ、(三)或は船が陸地に近づくに従ひ、高地の頂から次第に低地が見えてくること、(四)月食の際、月に映ずる地球の陰影が常に圓弧を描くこと、(五)東に向つて出發した船が西から同じ港に歸航し得ること、(六)南北に離れてゐる兩地では同一の星の高度が異なり、(七)又甲地で見得る星が緯度を異にする乙地で見えないものがあること等である。

地球の内部

地球の外皮を地殼と稱し、これを構成する岩石の比重は平均二・八で、地球の比重の五・五に比すれば著しく小である。之によつて地球の内部が鐵その他の比重の大なる金屬物質から成ることが想像される。又火山温泉等の現象から地球の内部は著し



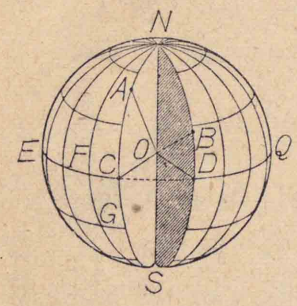
視限界の増大と地球の球體



出入船舶と地球の球體

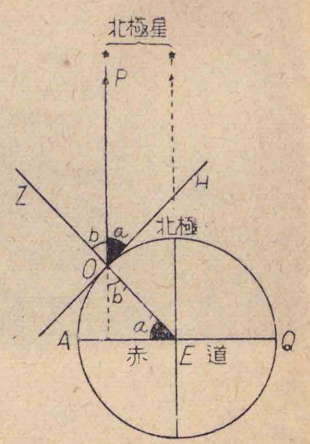
く高温で、固有の地熱を保つてゐることが推定される。

**経度・緯度及びその測定** 地表の一地点の位置を決定するには経度と緯度を用ひる。地球の兩極を通ずる大圏を子午圈(經線)といひ、これに直角に地球の周圍を東西に取り巻く線を緯度圈(緯線)といふ。この子午圈と緯度圈とは、地球表面上に環狀の網目を作り、之によつて地表上の相對的位置が決定される。兩極から等距離にある緯度圈を赤道といひ、赤道は地球を南北兩半球に分ける。或地點の緯度は赤道から子午圈に沿うて南北(南緯・北緯)に測られ、四分の一圓周に對して九〇度の割合で數へられる。北極星は殆ど地軸の延長上にあるから、北半球ではこの星の高



NOS は地軸、EFCD を子午線とす、BOD は赤道、AOC は緯度、COD は經度、角BOD、角CODにて表される

度(東經・西經)に測られ、半圓に對して一度を測ることによつて緯度を定める。經度は標準の子午線即ち本初子午線(英國グリニッチ天文臺を通過する子午線)から、緯度圈に沿うて東西



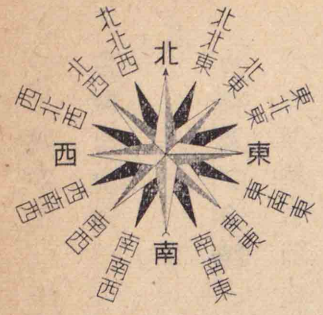
緯度と北極星の關係

八〇度の割合で數へられる。又地球は二四時間で一回轉をするから、經度一五度を距つる毎に、一時間の差を生ずる故、標準時計(クロノメーター)に依つて既に經度の知られた地の地方時との差を測つてその地

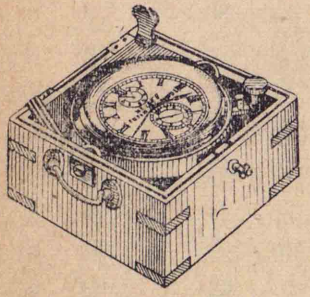
の經度を定める。

**方位**

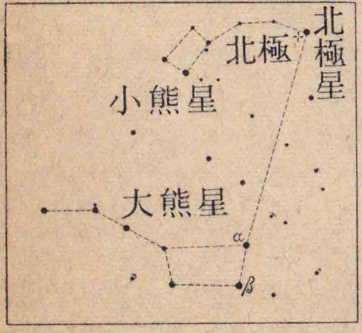
方位を呼ぶには、東・西・南・北の四方位を主體とし、之を更に八方位・三二方位に分ける。精密に方位を示すには、南北を基準とし、之より東西に各何度何分何秒と角度を以て呼ぶ。方位を



測定するには、通常磁針を用ひるが、磁針は所に



標準時計



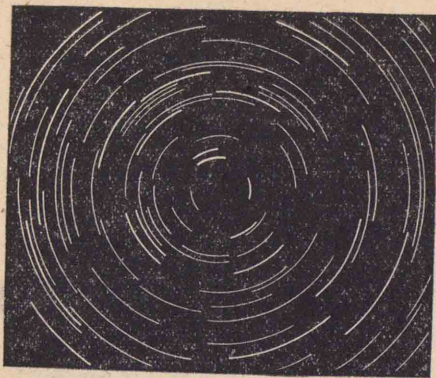
北極星と大熊星及び小熊星との位置的關係

よつて偏差(東京に於ては西偏五度)があるからこれを補正する必要がある。又方位を決定するには、北極星又は太陽を利用することもある。

### 第三節 地球の運動

#### 自轉及び公轉

地球の運動には自轉と公轉とがある。自轉とは地球がその地軸の周圍を約二三時五六分間に西から東へ一回轉する運動をいふ。日月の見かけ上の運行、北極星を中心とする星の環狀運動等は地球自轉の證である。而してこの自轉により晝夜の別が生ずる。公轉と



は地球が三六五日五時四八分四六秒の週期で太陽の周圍を圓に近い橢圓の軌道に沿うて回轉する運動をいふ。太陽は地球軌道の一焦點を中心とす。地球は一月一日頃太陽に最も近星環に在り、七月二日頃最も遠い遠日點に北極星の存在する。地球の公轉が直接人生に影響を與へるのは、四季の變化と晝夜の長短とである。

#### 眞太陽日と平均太陽日

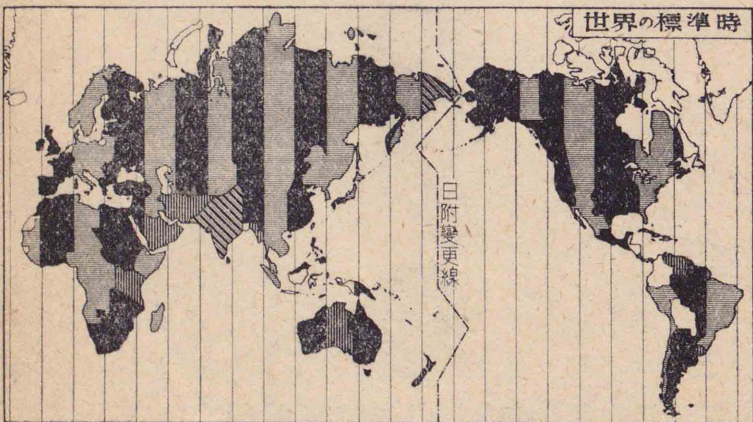
太陽の南中から次の南中に至る時間を眞太陽日といひ、一年中の眞太陽日を平均したものを平均太陽日と稱する。これを二四等分したものを吾人の用ふる時計の一時間とする。

#### 地方時と標準時

某地の平均太陽日の時間を以て示す時刻をその地に於ける地方時とする。地球は自轉するため各地は地方時を異にする。この不便を避けるために、或地域を限つて共通の時刻を定め、これを標準時とする。我が國の標準時は、明石市を通過する東經一三五度の子午線を標準となし、英國グリニッチ時よりも九時間早い。

#### 日附變更線

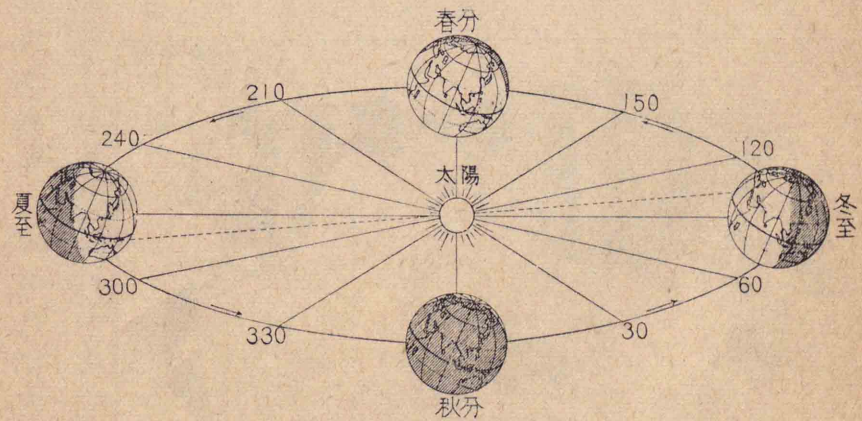
經度一五度につき一時間の差を生ずるから、地球を一周すれば一日の差異



を來すこととなる。この不便を除くため、太平洋を通過する一八〇度の經線に多少の修補を加へて日附變更線を設けた。東航する場合には此處で同一の日附を反覆し、西航する場合には一日を省き、次の日附を用ふるのである。

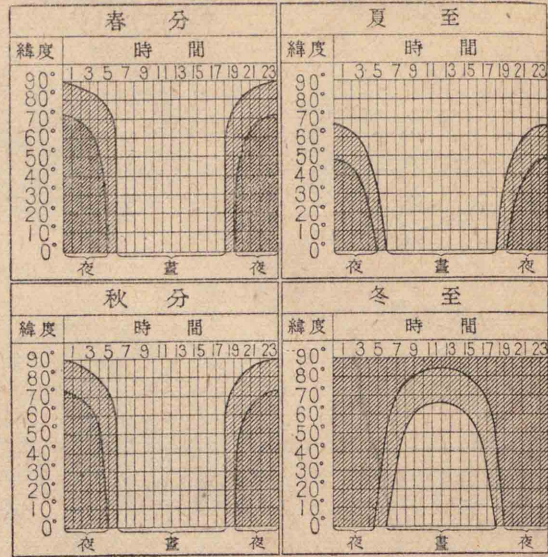
**四季と晝夜の長短**

地軸は軌道面に對して六六度半の傾斜をなしてゐるので、赤道以外の地では晝夜の長短と四季の區別とを生ずる。春分及び秋分に於ては地球上到る所晝夜の長さが等しく、北半球に於ては夏至に晝が最も長く、冬至には最も短い。北緯二、三度半の北回歸線と南緯二、三度半の南回歸線との間の地域は太陽が年二回直射し、北緯



四季の循環と地球の太陽に對する位置の變化

晝夜の長短及薄明



地球の一公轉に要する時間は、三六五

日五時四八分四六秒であるが、太陽曆の曆年では、便宜上三六五日を以て一年とし、これを平年といふ。その端数は四年に一日弱となる故、四年目には三六六日

六六度半の北極圏以北と、南緯六六度半の南極圏以南は、夏冬兩季に於ては終日の晝又は夜が續くことがある。従つてこの地域は夜半の太陽が見られ、又薄明の時間も極めて長い。

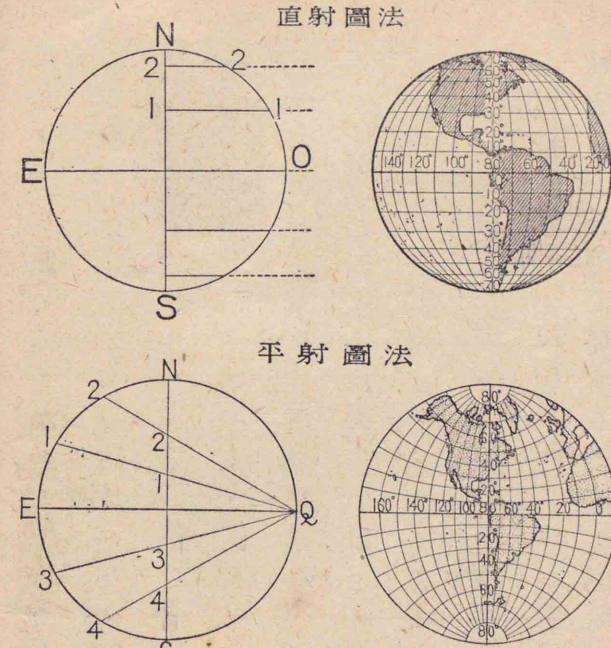
【曆】 太陽によるものを太陽曆といひ、太陰によるものを太陰曆といふ。

神武天皇紀元年數の四を以て整除し得る年を閏年とする。但し紀元年數より六六〇を減じ、一〇〇を以て整除し得べきものの中、更に四を以てその商を整除し得ない年は平年とする

を以て一年とし、これを閏年といふ。尚その端数は四〇〇年間に約三日となるから、四〇〇年間に約三日の閏を除くことになつてゐる。

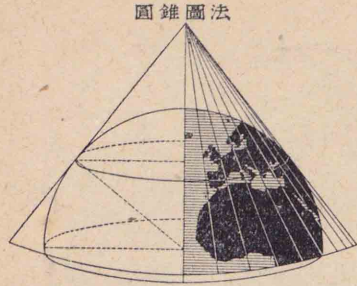
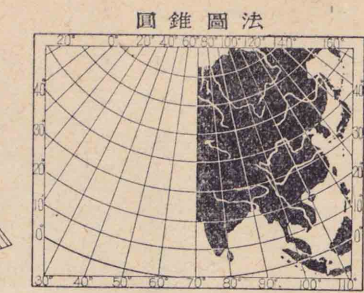
第四節 地表の圖示

地球表面の状態を圖示するものに球面のまゝ表す地球儀と、平面に表

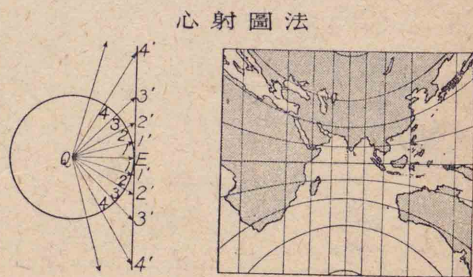


す地圖との二種がある。球面は如何なる方法によるも、平面に展開できないから、地圖を描く場合には、その表現の目的に依つて種なる投影法を用ひて經緯線を描かなければならない。地圖投影法には透視圖法・圓錐圖法・圓柱圖法等の別がある。透視圖法は視線と直角の位置に投影面を置き、これに地表の状

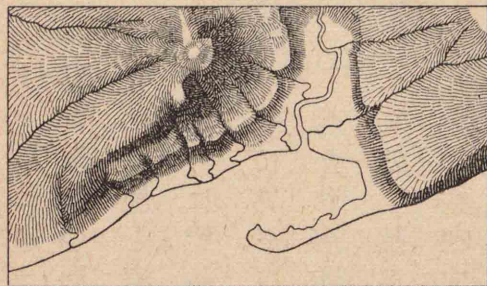
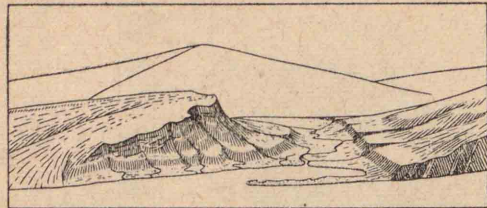
態を投影する描法である。視點を無限大の距離に置くか、地球上の一點に置くか、或は地球の中心に置くかに従



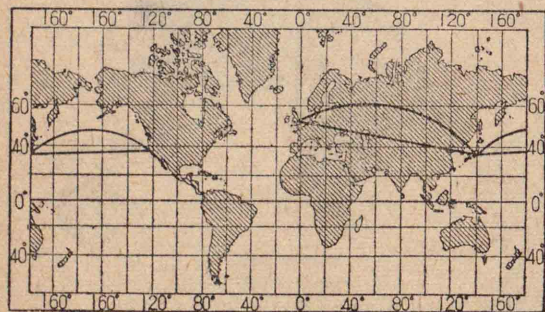
つて、直射圖法・平射圖法又は心射圖法を生ずる。前二者は半球全體を描くに適する。直射圖法は周縁部が稍小に、平射圖法は中央部が稍小に表される缺點がある。心射圖法は又大圈圖法とも云はれ、半球全體を描き得ない缺點はあるが、地圖上の任意の二點間の最短距離が直線にて表されるので便利とされてゐる。地球上の二點間の最短通路即ち大圈航路は之等二點を通過する大圈の弧で、從來の北太平洋航路や最近の航空路は之によつてゐる。圓錐圖法は一地方を比較的正しく描くに適する。之に改善を加へて面積を正しく表すも



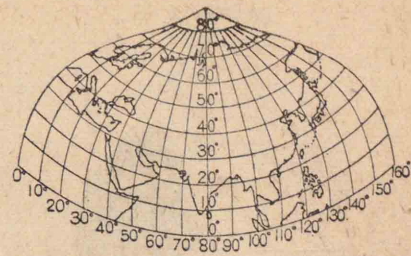
地形描寫の三様式



メルカトル圖法



海洋の狀況と海岸の地形を示すものを海圖といふ。海圖は深度を數字或は等深線にて示し、海流潮流等も記入してある。地圖にはその他地質圖、産業圖、交通圖、政治區劃圖、航空圖等がある。地形を模型的に示した立體圖式は、實感を與へ觀察を容易ならしめる。

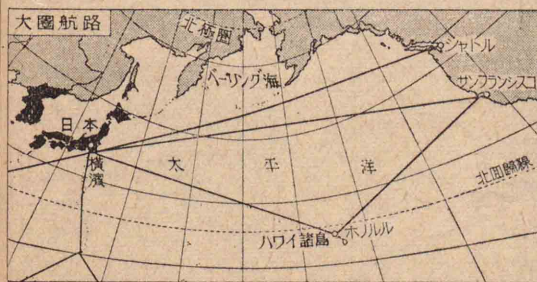


ボンヌ圖法

のにボンヌ圖法がある。圓柱圖法は經緯線が互に直交する直線で表される。この圖の一種にメルカトル圖法があり、方位を正確に表す特徴があるから、航海用に専用されるが、高緯度地方では面積が過大に表れる缺點がある。

これ等の投影法で描かれた經緯線上に、その目的に應じて地圖が描

かれる。位置、距離、面積を決定するには三角測量により、各地點の高距を知るには水準測量による。近年は寫眞測量によつて精細な地圖を作ることもできる。陸地の形狀を種々の縮尺と圖式に従つて表したものを地形圖といふ。地形圖に於て土地の高低起伏を表すには等高線又ははげば暈滲ウンゾウを用ひ、時にぼかし暈渲ウンセン又は段彩を施すこともある。

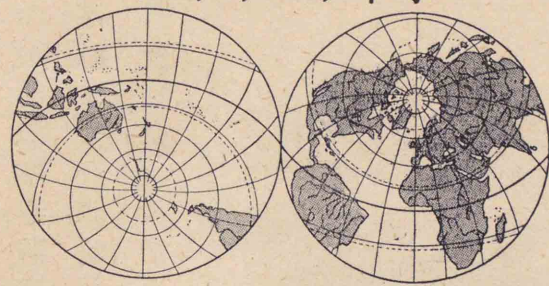




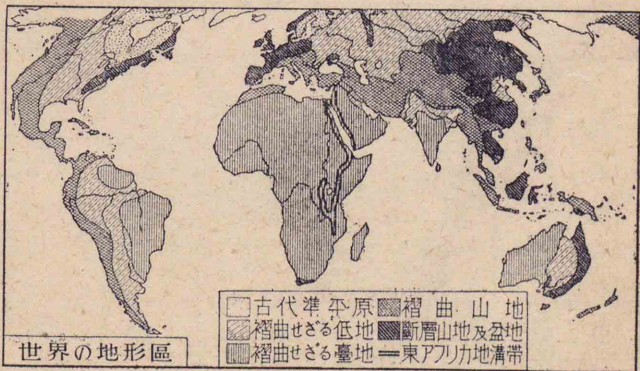
## 第二章 陸地

### 第一節 地表の形態

#### 陸地と海洋



地表は陸地と海洋とより成り、陸地一に對して海洋二・七の割合である。陸地は六大陸に分たれ、海洋は三大洋に分たれる。陸地の大部分は北半球に偏在するが、若し西部歐羅巴の一點とその對蹠點とを兩極として地球を二分すれば、陸地の最も多い陸半球と海洋の最も多い水半球とに分つことができる。



世界の地形區

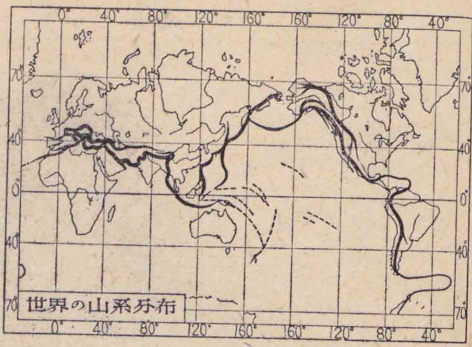
### 陸半球と水半球

#### 水平的肢節と垂直的肢節

大陸の軀幹に對して半島・岬角・地峽・島嶼等

の水平的肢節が發達し、海岸線を複雑ならしめてゐる。島嶼には大陸の一部であつた陸島と火山島・珊瑚島の如き洋島とがある。

陸地は垂直的肢節の發達により、山嶽・丘陵・臺地・谿谷・盆地(斷層盆地・侵蝕盆地等)・平原・段丘(河成段丘・海成段丘等)・扇狀地・三角洲等の地形を生ずる。各大陸の高度分布を見ると、一〇〇〇米以下の低地は面積甚だ廣く、三、〇〇〇米以上の高地は極めて少い。亞細亞の



世界山系分布

南部、阿弗利加の東部、南北米の西部は世界に於ける高地帯である。高地は多く脈狀に連互して山脈・山系等を形成し、谷には縦谷・横谷の別がある。

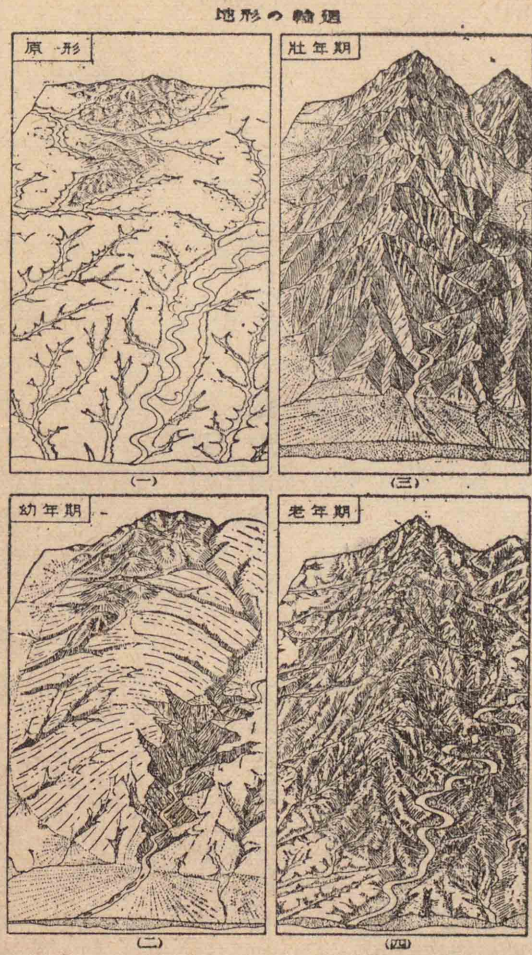
### 第二節 地形の變化

#### 內的營力と外的營力

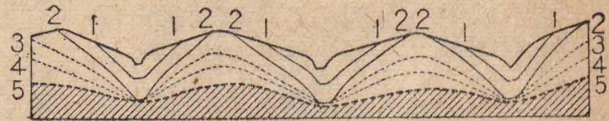
地形に變化を與へる原因を營力といひ、火山作用・地震等は之を內的營力といひ、流水・地下水・水波・大氣・生物等の諸作用を外的營力といふ。

**侵蝕の輪廻**

地形が或原因により生じたまゝのものを原形といひ、これが外的營力によつて次第に侵蝕され、原形を遠ざかるにつれて漸次幼年期、壯年期、老年期の地貌となり、遂に基準面近くまで削剝される。この削剝面を準平原といふ。一地形の原形から準平原に至る系統的變化の系



侵蝕の連續的變化



列を名づけて地形の輪廻(侵蝕の輪廻)といふ。

幼年期は谷幅狭く、且つ比較的深く、原形面を多く存して、起伏は單調であるが、壯年期は谷の幅と深さを増し、峯は尖りて殆ど原形面を失ひ、老年期に至れば谷は益廣く且つ著しく淺くなり、起伏は再び減じて圓味を帯びるに至る。かくて地盤の隆起によつて再び幼年期の状態が復活する。之を地形の若返りといひ、次の輪廻が始まる。

第三節 內的營力

**地殼の昇降**

地球の表面は徐々に隆起して海底が陸地化し、或は徐々に沈降して海水が陸地内へ浸入することがある。之を造陸運動(汀線の移動)といふ。現在の海岸より遙かに内地又は高所に往昔の砂濱、波浪の痕跡を有する海崖、洞窟、海岸段丘、海蝕臺地、海棲生物の遺骸たる隆起珊瑚礁、穿孔介の蝕痕等の存在は、地盤隆起の證である。又陸上の建築物、森林等の遺址が海中に存在し、淺海



イギリス近海に於ける森林の遺跡



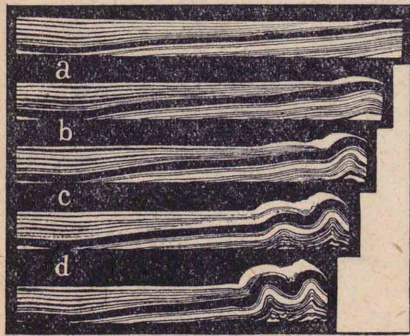
青森縣參澤附近の海岸段丘

にのみ棲息する珊瑚が深海に発見され、谿谷の沈水した溺れ谷の地形が到る處に見出される等の事實は、地盤沈降の證である。我が國に於て最も多く見られる現象は、海岸段丘と溺れ谷の現象である。

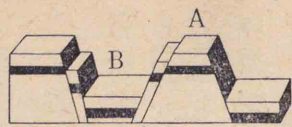
**造山運動**

地殼の昇降運動が繼續し、横壓力が加はる時は、水成岩の地層は褶曲隆起して褶

曲山脈を生ずる。かくの如き山脈を形成する地殼運動を造山運動といひ、造陸運動に比して更に急激に行はれる。褶曲が更に甚だしくなれば地殼は斷層作用により截斷され、一部は隆起し、一部は陥没することが多い。その隆起部を斷層山地といひ、急峻な斷層崖が山地の一方にのみあれば傾動地塊、兩側にあれば地壘と稱



横壓力を受けて褶曲せる地層の模型



地壘(A)と地溝(B)

する。我が國は各種の斷層地形に富み、木曾山脈、關東山脈、近畿の地壘群等はその適例である。又略平行した斷層崖に挟まれた陥没地を地溝といふ。

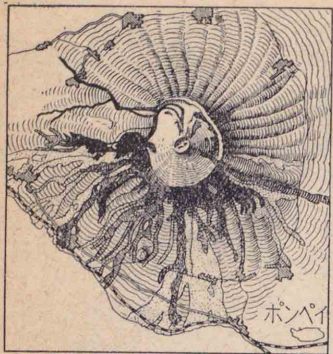
**火山作用**

地球内部の高熱體を岩漿といひ、それ等が地殼の弱所に沿うて外部に向つて噴出する作用が火山作用、その噴出物の堆積せるものが火山である。火山の噴火は岩漿中に含まれた水分

**火山活動と噴出物**

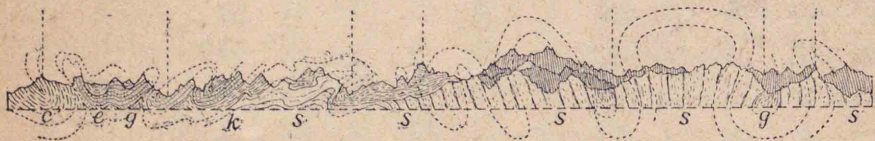
が水蒸氣に化する張力に起因する。その張力が強大で、急激に山體を破壊する時は、火山の爆裂(破裂)といひ、磐梯山、駒ヶ岳、クラカタウ島の爆裂の如きはその例である。

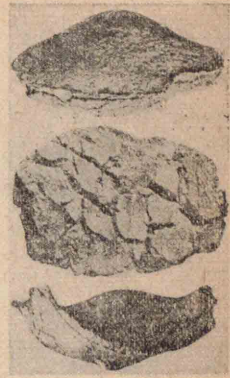
火山活動の今尙繼續するものを活



火山の噴出物

アルプス山脈の複雑な大褶曲





火山弾

火山と稱し、然らざるものを休火山・死火山と稱するが、休火山・死火山は一朝にして活火山となることがある。

火山噴出物の主なものは瓦斯體と熔岩とで

ある。瓦斯體の大部分は水蒸氣であるが、それ以外に亞硫酸瓦斯、鹽化水素、炭酸瓦斯等をも伴ふ。熔岩流には富士山や三原山で見るとやうな餅狀熔岩もあるが、一般には塊狀熔岩が多い。時には熔岩が霉爛若しくは粉碎して泥土狀をなし、泥流となつて噴出することもある。富士山・櫻島・雲仙岳等は熔岩流を流し、磐梯山・有珠岳・十勝岳等は泥流を噴出した。爆發性を帯びた火山では火山灰・火山砂・火山礫・火山弾・火山毛等を噴出する。火山灰は時に驚くべき遠地へ運ばれることがある。

**火山の構造と形態**

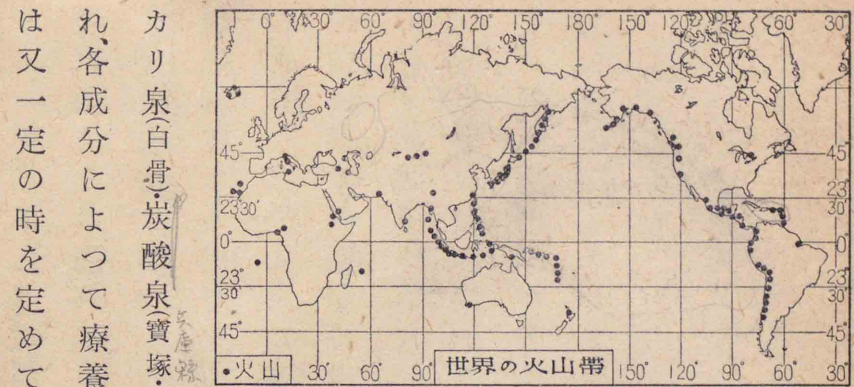
火山には富士山・男體山等の如き單一な峯からなる單式火山と、箱根山・阿蘇山等の如く舊火口に更に新火口丘を生じた複式火山とがある。複式火山では外輪山と中央火口丘との間に、火口原

か火口原湖があり、川が火口壁を破る所は火口瀨をなしてゐる。箱根山・阿蘇山にその適例がある。

又火山には熔岩灰・砂・礫等の噴出物が交互に層狀をなして堆積して山體を構成する成層火山と、熔岩のみが一時に凝固して生じた塊狀火山とがある。富士山・櫻島・淺間山等は前者に屬し、コニーデ(圓錐狀火山)と呼ばれ、圓錐形で緩傾斜の裾野を有し、愛知縣の鳳來寺山・箱根の駒岳・二子山等は後者に屬し、トロイデ(鐘狀火山)と呼ばれ、鐘狀をなしてゐる。屋島・デカシ高原等の如き流動性の強い熔岩流によつて造られた臺地を熔岩臺地といひ、阿蘇山・箱根山等の如く既成火山の火口が陥没又は爆發によつて大火口と變じたる場合はカルデラといふ。

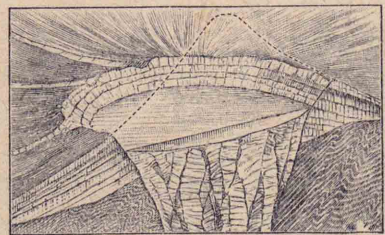
**火山の分布**

火山は地殼の弱所に沿うて噴出するため自ら線狀に排列され、所謂火山脈(火山帶)をなす。亞細亞の東岸、南北米の西岸の如き陸上には大褶曲山脈隆起し、近海に大海溝の陥没せる大陸邊緣地帯は地殼が不安定で、火山發生の條件を備へてゐる。世界の火山帶は環太平洋火



山帯以外に、地中海・紅海及び東阿弗利加地溝帯に沿ふものがある。東西兩印度諸島の如きは、我が國と等しい火山列島である。我が國の火山帯は東北日本・西南日本共に縦走し、中央日本に於ては南北兩彎山系の接觸地域に於て横斷系をなしてゐる。

**温泉** 地熱のために温められた地下水が湧出して温泉となる。温泉はその成分に應じて、單純泉伊東道後・鹽類泉(鹽原熱海別府伊香保修善寺・硫黄泉(上諏訪・蘆湯・登別・アルカリ泉(白骨・炭酸泉(寶塚別府・酸性泉(津那須等に分けられ、各成分によつて療養上種々の効能がある。温泉には又一定の時を定めて週期的に噴騰する間歇泉がある。



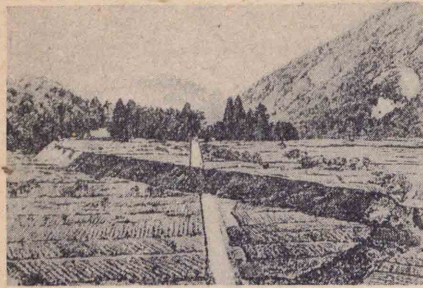
カルデラの断面圖

り、鬼首はその適例で、アイスランド・黄石公園等にはその大規模なものがある。海も登別もこれである。

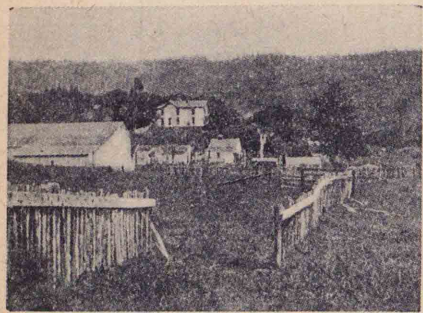
**地震**

地震の原因は未だ明瞭ではないが、地殻内部に於ける物質の移動及び之に伴ふ地塊の急激な變位に起因すると信ぜられてゐる。地震は地表に斷層を生じ、地盤の隆起・沈降及び水平移動を起し、又地盤に無數の龜裂を生ぜしめる。若し震源が海中にあれば海水を震動せしめて津波を起す。かくして道路・橋梁・家屋を破壊し、更に火災を誘發して生命

財産に大災害を與へる。



濃尾地震に於ける根尾谷斷層

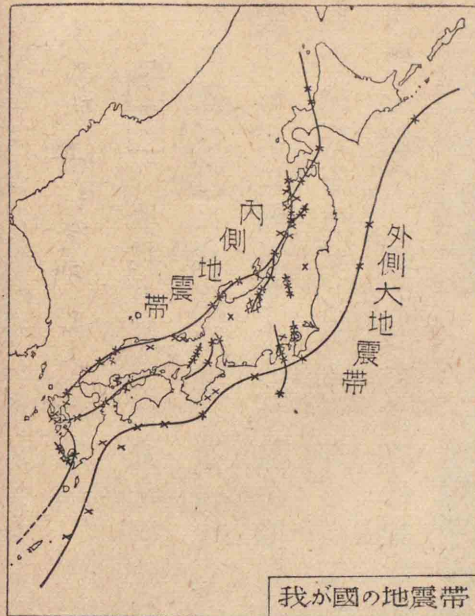


地動大正十二年九月一日の關東大地震や、明治二十四年の濃尾大地震はその例である。木造建築も震動を考慮して造れば、震災を避け得られるし、耐震構造の

コンクリート建築は最も安全である。

**地震帯**

地震は地殻の弱所に生ずるため、その分布は略火山帯や褶曲帯に沿うて発達してゐる。環太平洋地震帯は世界最大の地震帯で、地中海沿岸と共に屢大震を起す。我が國は世界的に有名な地震國で、日本海岸に沿ふ内側地震帯と太平洋岸に沿

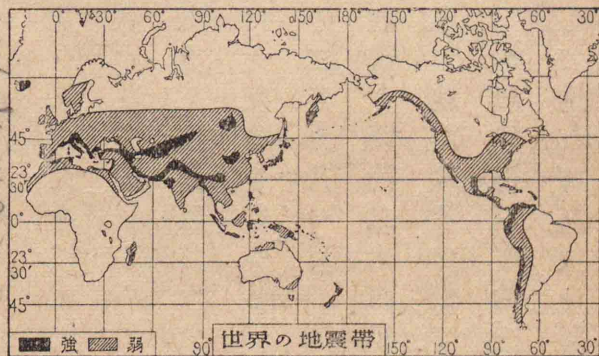


ふ外側地震帯との外、この兩地震帯を連ぬる多くの小地震帯がある。

第四節 外營力

**河流の侵蝕**

雨水は集つて河流となり、岩石に侵蝕を及ぼし、谷を穿

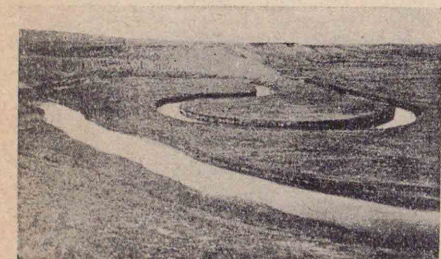
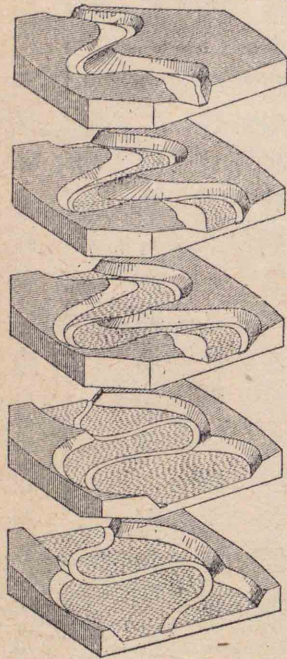


V字形の幼年期の谷。この作用を河蝕と名づける。河蝕は岩石の硬軟、谷の傾斜、流水の量及び水中に存する岩塊の多少に依つて強弱の差がある。一般に河の上流は急傾斜で下刻作用がよく行はれ、V字形の深い峡谷を造り、兩岸には平地の存在を許さず、硬い岩石の部分には急流瀑布を生じ、又甌穴を造る。かゝる地形は幼年

期の河谷である。かくて侵蝕が進むにつれて谷の傾

斜は次第に減じ、河床は擴げられ、その河岸に洪

河谷の發達を示す圖式



蛇行の一例

る。而して河道はその洪涵地上を蛇行曲流して流れ、蛇行の程度が甚だしくなれば河道が切斷され、舊河道は三日月沼となることがある。石狩川・幌内川等にその適例を見る。

谷の成長に伴つて、山形も亦變形する。山の形は最初は頂が平坦であるが、谷が深くなるに従ひ高さを増し、山稜は尖鋭となり、壯年期の地貌を呈する。やがて侵蝕作用が衰へると共に、高さを減じ、緩傾斜となつて山頂は圓味を帯び老年期の地形となる。この時侵蝕に抗して残つた丘陵又は山地を稱して殘丘といふ。

褶曲山地・火山・斷層崖・傾動地塊等もそれぞれ一定の順序を経て侵蝕せられる。

**河流の堆積**

河は流速が減ずるに従ひ運搬力を減じ、砂礫泥土を堆積し、河床に洲を形成して網狀河川となる。東海道式の荒川はこの例で、廣い河床を有し、氾濫の害を與へることが多い。谷口の部分



扇狀地の復成

で堆積が急に行はれると扇狀地を造り、河口に於て堆積が行はれると三角洲平野が形成される。甲府盆地や松本平の周縁には多くの扇狀地が見られ、ミシシッピーやナイルの河口には大規模な三角洲(デルタ)が發達してゐる。

**河蝕の若返り**

老年期に達した河が氣候の變化又は地殼の隆起により、侵蝕が若返れば下刻作用が旺盛となり、舊河床の一部が河岸に沿つて階段狀に残り、河成段丘(河岸段丘)を造る。河成段丘は我が國に到る處の河岸に見られる。

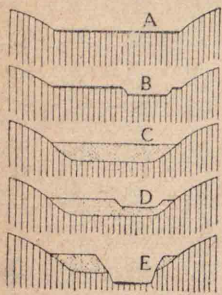
**地下水の作用**

雨水は地



鑽井を有する地層の断面

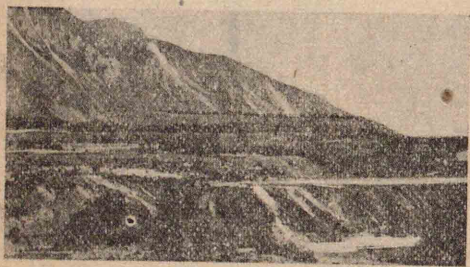
段丘の断面



中に滲入して地下



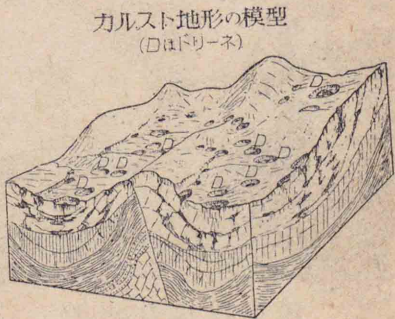
模式的段丘



河成段丘の一例

● 世界三角洲地域  
五一頁参照

水となり、不透水性の岩石上に停滞して地下水面を形成する。地下水面が地上に表れると泉となつて湧出する。含水層の傾斜せる地域は鑽井に適し、近年各地で大規模に利用せられる。石灰岩地方に於ける洞窟鍾乳洞、石灰洞は地下水の溶解作用の結果で、洞窟中に鍾乳石及び石筍を生じ、地上に石灰筍(下リ)が見られる。かゝる特有な地形を稱してカル



カルスト地形の模型 (D. フリーネ)

ストといひ、我が國に於ては長門の秋吉臺が有名である。



アルプスの氷河

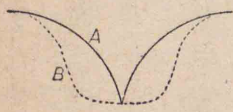
氷の作用 高山地方や高緯度地方には万年雪が堆積し、その限界線を雪線と稱し、赤道地方では海拔四、五〇〇乃至六、〇〇〇米に達するも、兩極地方では海岸線

● 世界氷蝕地域  
五一頁参照

にまで低下する。万年雪が次第に厚くなれば氷河となつて斜面を下り、侵蝕運搬堆積の諸作用をなす。氷河によつて侵蝕された谷はU字形をなし、兩側は絶壁で懸谷が之にかゝる。ノルウェー、智利等の海岸に見られる峽灣はU字谷に海水が侵入したものである。氷河の運搬した堆石は末端に厚く堆積して氷河湖を形成する。北米の五大湖、フィンランドの湖沼群はその例である。小さい氷河は山頂附近に特有の形状を有する圈谷を穿つ。圈谷は臺灣、本州中部等の高山にも發見せられる。高緯度地方では氷河が海中に流入して冰山を作り、海流に依つて低緯度地方に運ばれて航海に危険を及ぼすことがある。

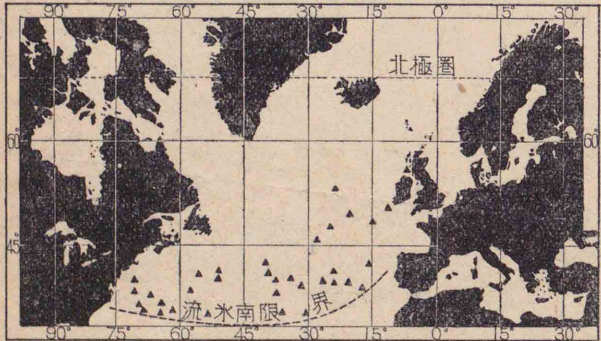
**波の作用**

波浪が岸に近づけば磯波となつて海岸を侵蝕し、海蝕崖及び海蝕



V字谷とU字谷

大西洋に於ける流水の南限







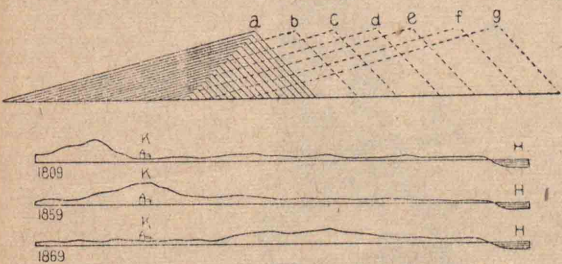
海成段丘

洞を造る。海蝕に依つて生じた岩屑は、波浪や潮流に依つて他に運ばれ、砂嘴、砂洲、陸繋島及び潟湖を形成する。本邦の海岸にはその例が多い。入江と岬に富む複雑な海岸は沈降海岸で、リアス式海岸と呼ばれ、隆起海岸には海蝕臺地及び海岸段丘（海成段丘）があり、海岸平野並びに隆起三角洲を伴つてゐる。樺太や北海道の海岸には見事な海岸段丘がある。

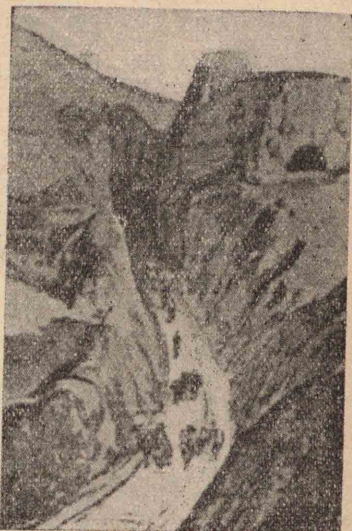
**大氣の作用**

地表の岩石が化學的或は機械的に崩壊して土壤となる現象を風化といふ。土壤は地に依つて差異があり、樺太のポドソル、臺灣の紅土等は農産に適せず、露國の黑土等は沃土として知られてゐる。

風は海岸、沙漠地方では砂丘を形成する。内陸沙漠地に生ずるものを内陸砂丘、海岸に生ずるものを海岸砂丘といふ。砂丘は風向に従つて次第に移動し、耕地



砂丘前進の實例



支那の黃土地方

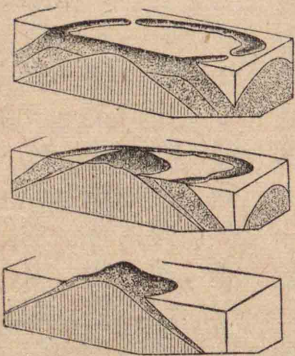
や森林を埋めることがある。

北支那地方に於ける黄土（レス）は、風に依つて運ばれた砂塵の堆積したもので、高さ數百米にも達し、所に依つては土人はこの中に穴居する。

**生物の作用**

海棲動物の遺骸の

堆積に依つて珊瑚礁の如き特殊な地形を造ることがある。珊瑚は暖海の清澄な淺海に繁殖し、熱帯太平洋中に最も多く分布する。珊瑚礁はその形によつて裾礁、堡礁、環礁に區別する。陸地上に存在する隆起珊瑚礁は地殼上昇の一例證で、我が臺灣、琉球列島等に見られる。又有孔蟲の骨骼は絶えず海底に沈澱して軟泥を造り、珪藻の遺骸は珪藻土を造る。



珊瑚礁の形式

### 第三章 湖沼と海洋

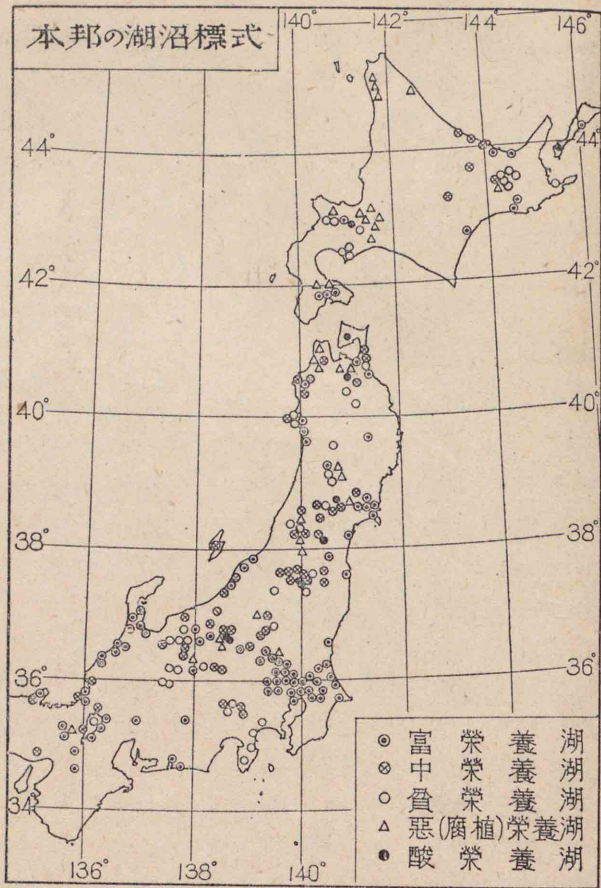
#### 第一節 湖沼

湖沼には淡水湖と鹹湖との別がある。淡水湖は水の成分・水溫・水色及び透明度等によつて分類されるが、水の榮養度から富榮養湖・中榮養湖・貧榮養湖・惡榮養湖・酸榮養湖に大別され、水産養殖上の利用度に差異がある。鹹湖は氣候の乾燥した内陸部に於て蒸發が繰返されて鹽分が濃厚となつたもので、グレートソルトレイク、死海の如きはその適例で、一般に魚類は棲息し難いが、中には曹達類を採取し得るものもある。

湖沼は又成因に依つて火口湖・火口原湖・堰塞湖・斷層湖・陷落湖・河跡湖・瀉湖・海跡湖・氷河湖等に分けられる。我が國は火山に富むため、火口湖・火口原湖・堰塞湖等の火山關係の湖沼が多く、芬蘭・米國北部等には氷河湖が多い。

#### 第二節 海洋の形態

海洋には太平洋・大西洋・印度洋の三大洋及び北極海の外、無數の内海・縁海等がある。大陸の周圍に概ね二〇〇米以下の深度を有する淺海があつて陸棚を形成する。陸棚の末端は急傾斜をなして海底平原と稱する平坦面へ下る。海底平原は三、四、乃至四、〇〇米餘の深さを有し、所々に堆と稱する淺海や海溝・海淵と稱する深所がある。堆は小區域の孤立的隆



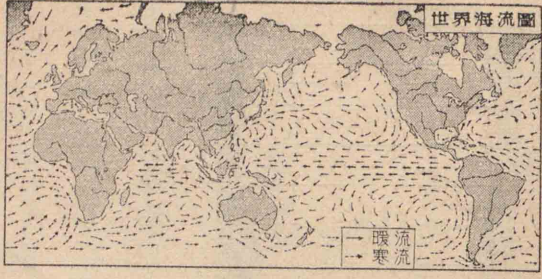
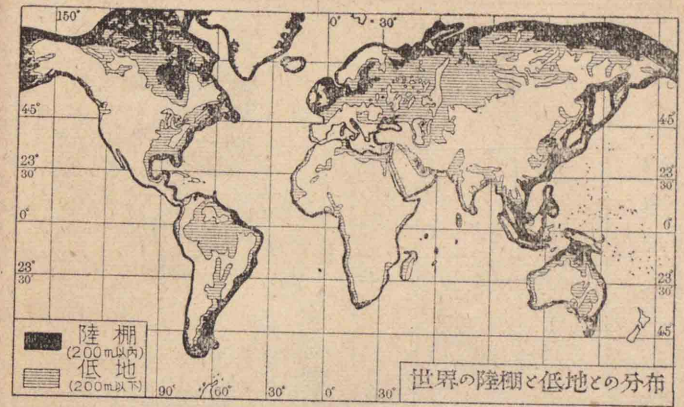
起で、漁場として重要視され、海溝は不安定な地殻の陥没部で、地震發生の虞がある。一般に六、〇〇〇米以上の深海溝は大陸の周縁に沿ひ陸上の山脈と著しい對照をなす。世界の深海溝の主なものゝ太平洋中にあり、

日本列島東方の日本海溝を始め、琉球海溝、比律賓海溝、トンガケルマデック海溝等はその代表的なものである。

海面は眞の球面でなく、所謂ゲオイド面をなし、これを陸地に延長して地球の眞形を表すものと定める。深海の底質は赤色粘土又は軟泥よりなり、浅海底は陸地から運搬された沈積物を以て蔽はれてゐる。

### 第三節 海水の運動

**海流** 海流は卓越風・水溫及び鹽分による比重の差等に起因する。環流をなす海流は、北



一、新  
二、運  
三、海  
四、流  
五、海  
六、流  
七、海  
八、流  
九、海  
十、流

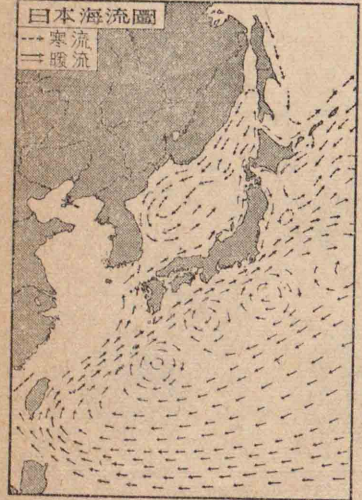
○ 湮に及び、又水溫は附近の海水よりも平均四度高い。海流はその地方の氣候・生物分布・産業・航海等に重大な影響を與へる。

**潮汐** 海面は一日に二回の昇降をなし、満潮及び干潮の現象を示す。これを潮

半球では時計の針と同方向に、南半球では之と反對に流動する。南北太平洋、北大西洋及び印度洋には各大きな環流を有する。環流の一部をなす南北兩赤道海流の間を反對の方向に赤道逆流が流れてゐる。

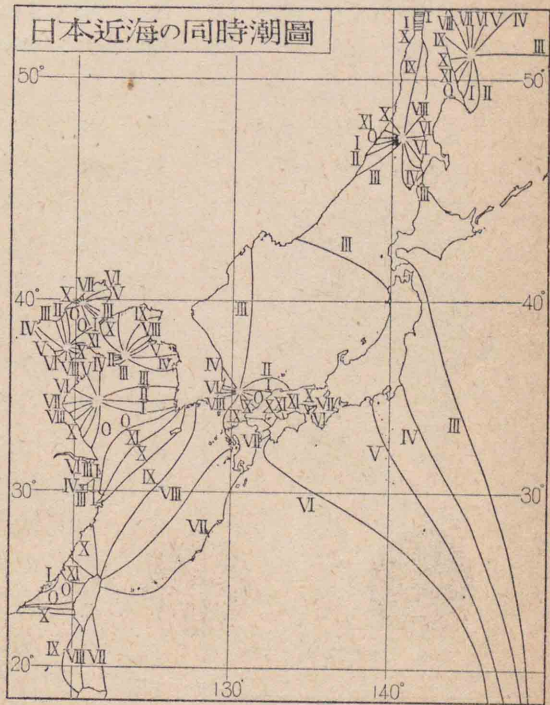
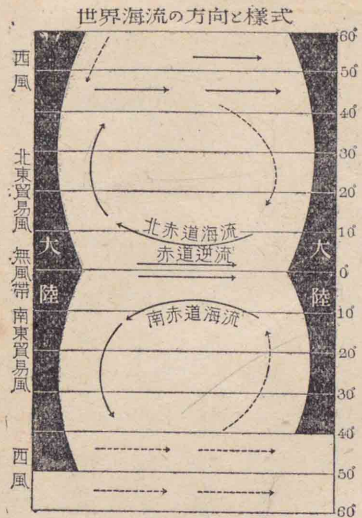
海流には暖流と寒流とがあり、暖流の主なものゝ日本海流(黒潮)、東オーストラリア海流、メキシコ灣流で、寒流の主なものゝラブラドル海流、千島海流(親潮)等である。

海流の速度は種々異なり、黒潮は九州南部に於て一日約五〇湮餘、四國沖で一〇



汐といひ、潮汐による海水の流を潮流といふ。鳴門海峡の潮流は有名である。

潮汐干満の差は水陸分布の状態や地形に依つて異なり、北米のファンデー灣は二〇米、我が近海では仁川附近が一〇米に及ぶが、日本海岸は僅かに三〇



糧内外に過ぎない。潮汐干満の時刻は所によつて異なり、その状態は同時潮圖によつて表される。  
**津波** 海底地震、海底火山の活動又は暴風のために生ずる激浪が陸地に浸入し

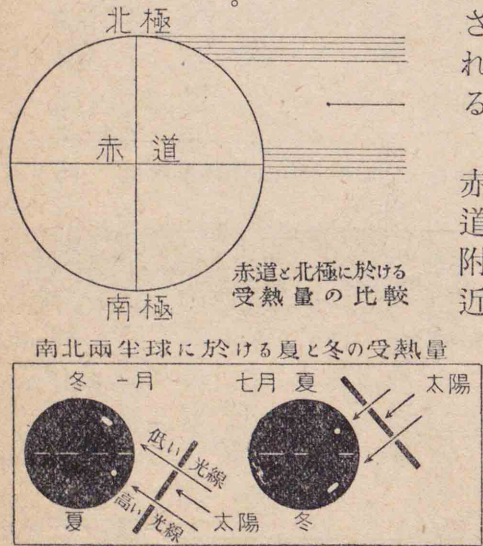
て大害を與へることがある。之を津波といふ。

## 第四章 氣候

### 第一節 氣溫

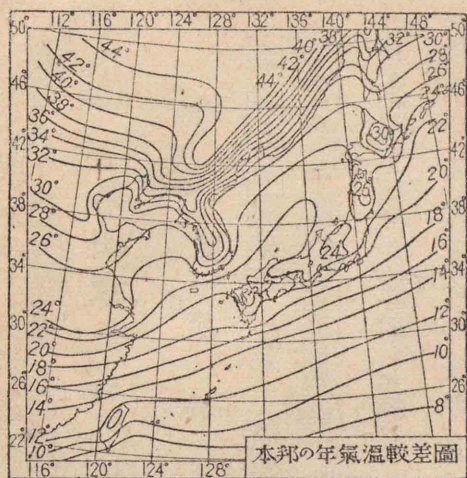
#### 氣溫と氣候帶

大氣の溫度を氣溫と名づける。氣溫は大氣の接觸する陸地又は海水面の溫度に著しく支配される。赤道附近では太陽光線が直射し、極地方では斜めに投射するので、その受熱量に差異があり、従つて氣溫の高低を生じ、赤道に略並行して熱帶、溫帶、寒帶の三氣候帶を造る。三帶の區別は緯度による場合と年平均氣溫による場合とがある。前者は緯度二、三度半と六、七度半とによつて區別され、規則的な帶狀排列をなし、後者は氣溫二〇度と零度との等溫線を以て

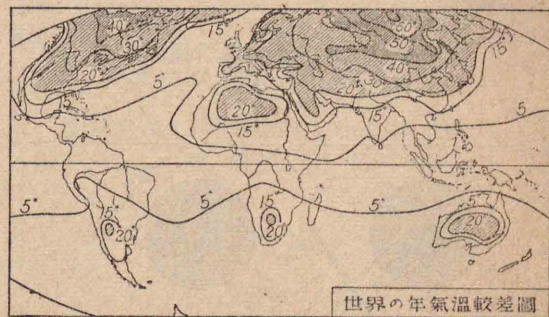
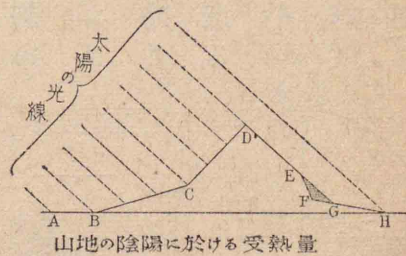


境とするので、不規則な帯状を示してゐる。

気温は又高度を増すに従つて低下するため、熱帯地方でも高地に於ては低温である。大陸内部に於ては海岸・島嶼に比して一日及び一年



の気温の較差が大である。大陸性気候及び海洋性気候の區別は之に依つて決定され、その差異は海水の気温調節作用の影響に基くのである。



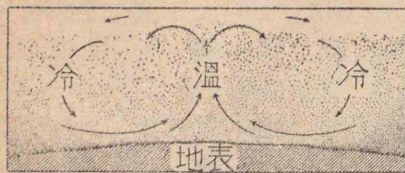
地點を連ねたもので、之に依つて気温の分布が示される。気温の分布は水陸の分布及び地形に支配せられ、そのため海洋の多い南半球は緯度に略並行な等温線を示し、陸地の多い北半球は屈曲の多い不規則な等温線を現してゐる。

我が國は大部分北温帯に屬し、海洋の影響を受けることが多く、気温の年較差は比較的少い。然し所に依つて各特色が見られる。臺灣の南部は熱帯に入り、恒春に於ける年平均気温は二四・三度に達し、樺太地方は寒冷で、敷香に於ては年平均零下〇・二度である。

### 第二節 風

#### 氣壓の配置と風向

等壓線とは各地の氣壓を海面更正して地圖上に記入し、等氣壓の諸點を連ねたもので、之に依つて氣壓の配置が知られる。世界の等壓線圖を見ると、季節に従つて高氣壓部と低氣壓部との位置に變化がある。冬季に於ては亞細亞大陸と北米に高氣壓があり、大西洋及



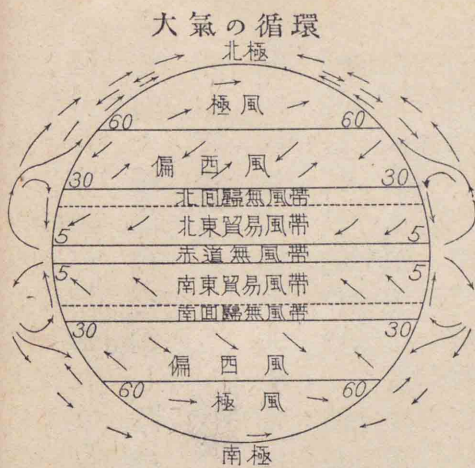
大氣の對流現象

び太平洋の北部に低気圧がある。夏季に於ては之に反し、太平洋及び大西洋の中部に高気圧があり、亞細亞大陸の南部に低気圧がある。之は地面の日射による加熱と、放射による冷却との結果、気温の高低を生じ、以て大氣の對流現象を起し、氣壓の差異を來すためである。

風向はこれ等の氣壓配置に依つて決定される。風は一般に高氣壓より低氣壓に向つて吹き、風速はその氣壓傾度の大小に伴つて増減し、氣壓傾度小なれば微風、大なれば強風となる。

**貿易風と偏西風**

赤道地方は一般に高温で、上昇氣流が發達し、風力が弱く、赤道無風帯をなしてゐる。この上昇氣流は極地に向ふに従ひ次第に冷却して、南北緯度三〇度附近に於て下降し、再び赤道に向ふ下層氣流となる。この赤道へ向ふ下層氣流を貿易風と稱し、地球自轉の影響を受けて、正しい南北に

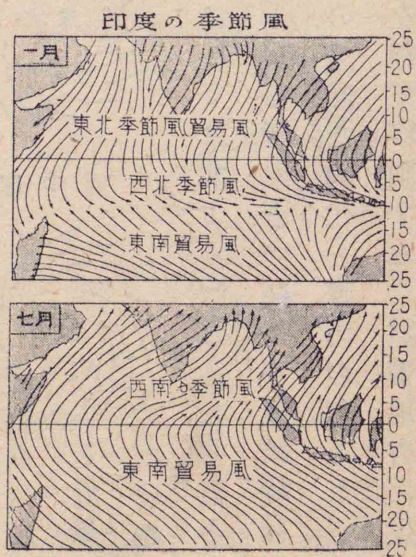


吹かず、北半球では北東風、南半球では南東風となつてゐる。之に對して赤道附近より貿易風と反對の方向に吹く上層の氣流を稱して反對貿易風といふ。反對貿易風の一部が下降する南北緯度三〇度附近は赤道地方と同じく風力が弱くて、回歸無風帯をなしてゐる。

中緯度地方には反對貿易風の延長である偏西風(卓越西風)が吹いてゐる。廣い熱帯から狭い兩極に近づくに従ひ、水が漏斗に入る渦流と同じく、極を周る旋回運動を起して西偏するのである。歐洲北米南米濠洲等の温帯西岸に於て著しい發達を見る。

**季節風**

冬季には低氣壓が大洋の上であり、高氣壓が大陸の内部にあるため、氣流は大陸から大洋に向ひ、夏季には凡て之に反する。このやうに季節に依り海陸の間を互

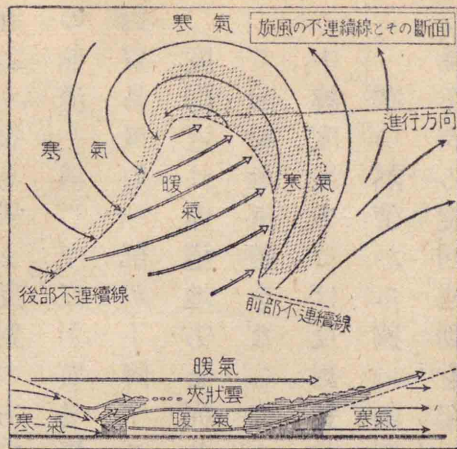


● 世界颶風地域  
五一頁參照

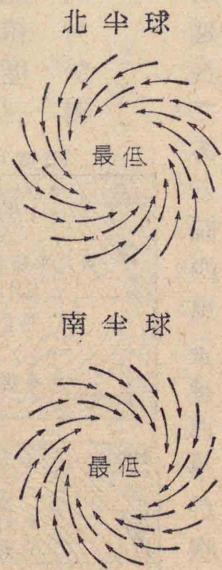
に反対の方向に吹く風を季(氣)節風といふ。亞細亞の季節風はその適例で、夏季には本邦では南東風、印度支那では南風、印度では南西風が吹き、冬季は之に反する。

**旋風・颱風**

局部的に濃厚な低氣壓が急に生じた時、四圍の空氣が之

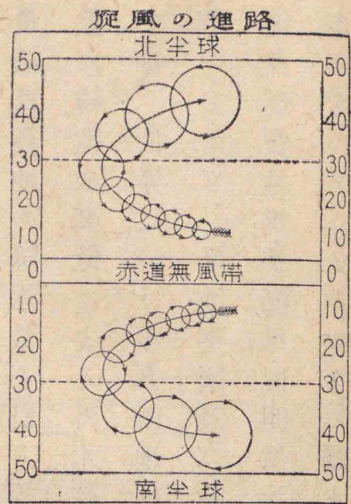


**旋風の風向**



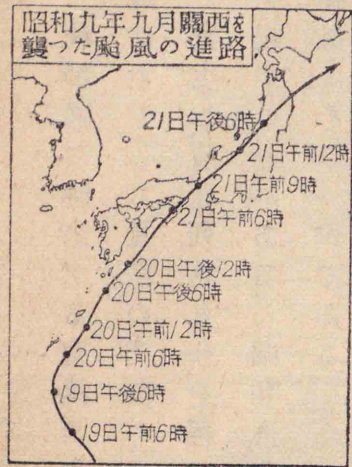
を生ずる。之を旋風といふ。

風線と稱する境を生じ、之に沿つて氣温の急激な變化と驟雨の起ることが稀でない。旋風の中心は一定の徑路を経て移動する。熱帯地方に生

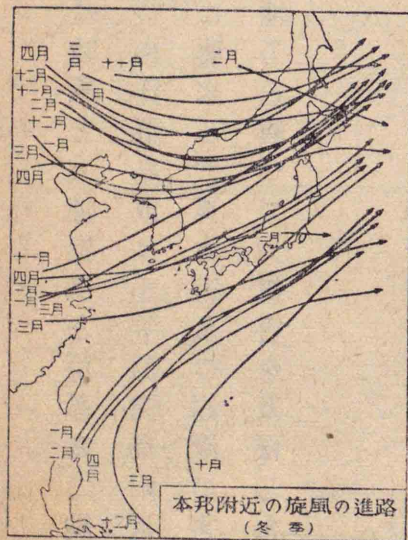
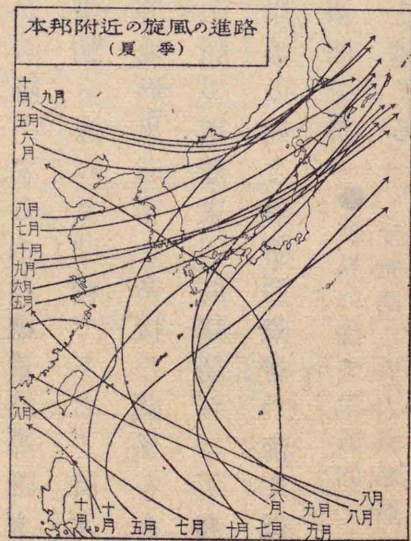


じた低氣壓は、北半球では最初北西に向ひ、北緯三〇度附近

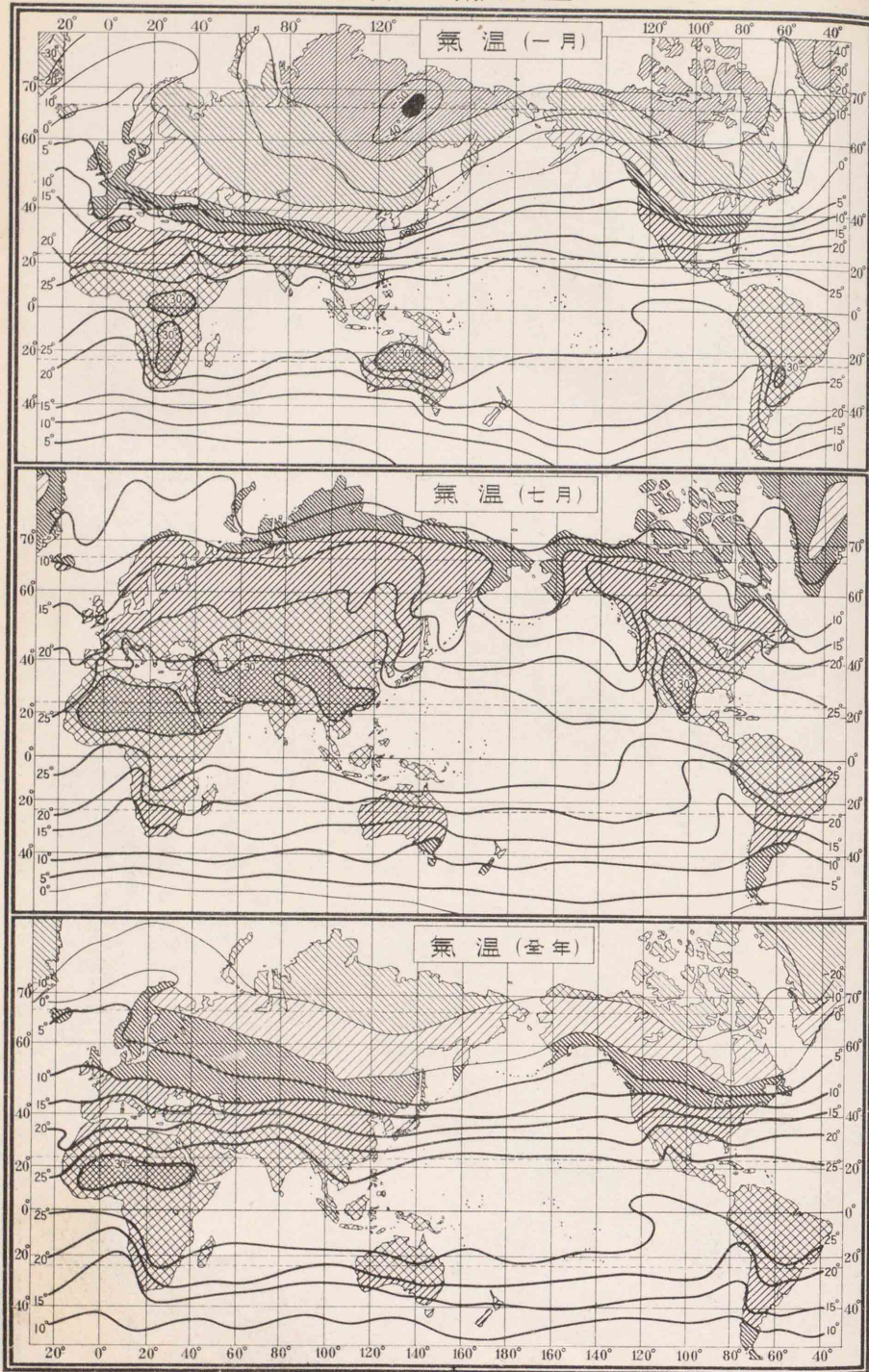
近から北東に轉向し、南半球ではこれと對稱的の進路をとる。世界の各地では



これ等の旋風のたぬめ甚だしい損害を蒙ることなく



世界の気温圖



我が國に襲來する旋風の主なものには颱風と大陸旋風とがある。颱風は主として夏秋の交即ち二百十日前後、南洋群島或は小笠原諸島附近に發生し、琉球列島・九州を経て本州方面に襲來し、大風水害及び高潮の害を起すことがある。昭和九年九月大阪地方を襲つて大被害を及ぼした颱風はその一例である。

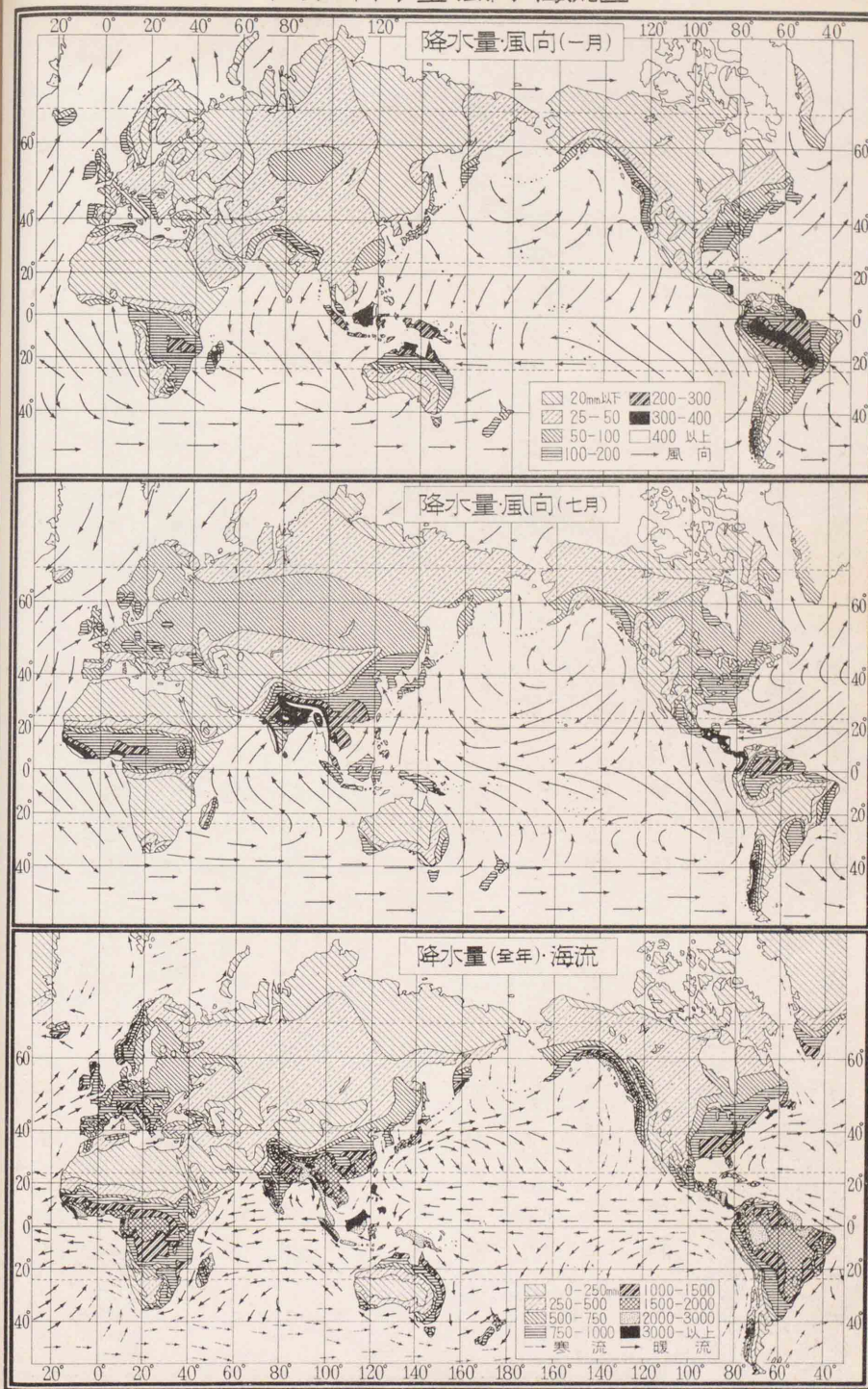
第三節 降水量

降水量(雨量)は雨・雪・雹等すべて空中から降下する水の總量で、等降水量線は各地の降水量を計り、等降水量の諸點を連ねた曲線である。降水量は緯度の高低による外、水陸の分布、海流、地形、風向等と密接な關係を有する。世界に於ける多雨地は、ヒマラヤ山脈の南麓、東印度諸島、ギニー灣沿岸、アマゾン盆地、英國及び北米の北西岸等の如き、熱帯・亞熱帯の海岸低地及び貿易風・季節風・偏西風等の風上の斜面で、英領印度のアッサムの如き年降水量一萬耗を越える。

●世界の降雨季節的分布圖 四六頁參照



世界の降水量・風向・海流圖



世界の寡雨地はサハラ沙漠・ゴビ沙漠・オーストラリア西部高地等の如き内陸の高臺又は盆地・秘露西部斜面の如き、高地のため定風の遮られる風下の地方及び加奈陀・西比利亞の北部低地の如き寒冷な地方で、これ等の地方では年降水量一〇〇耗以下の地がある。

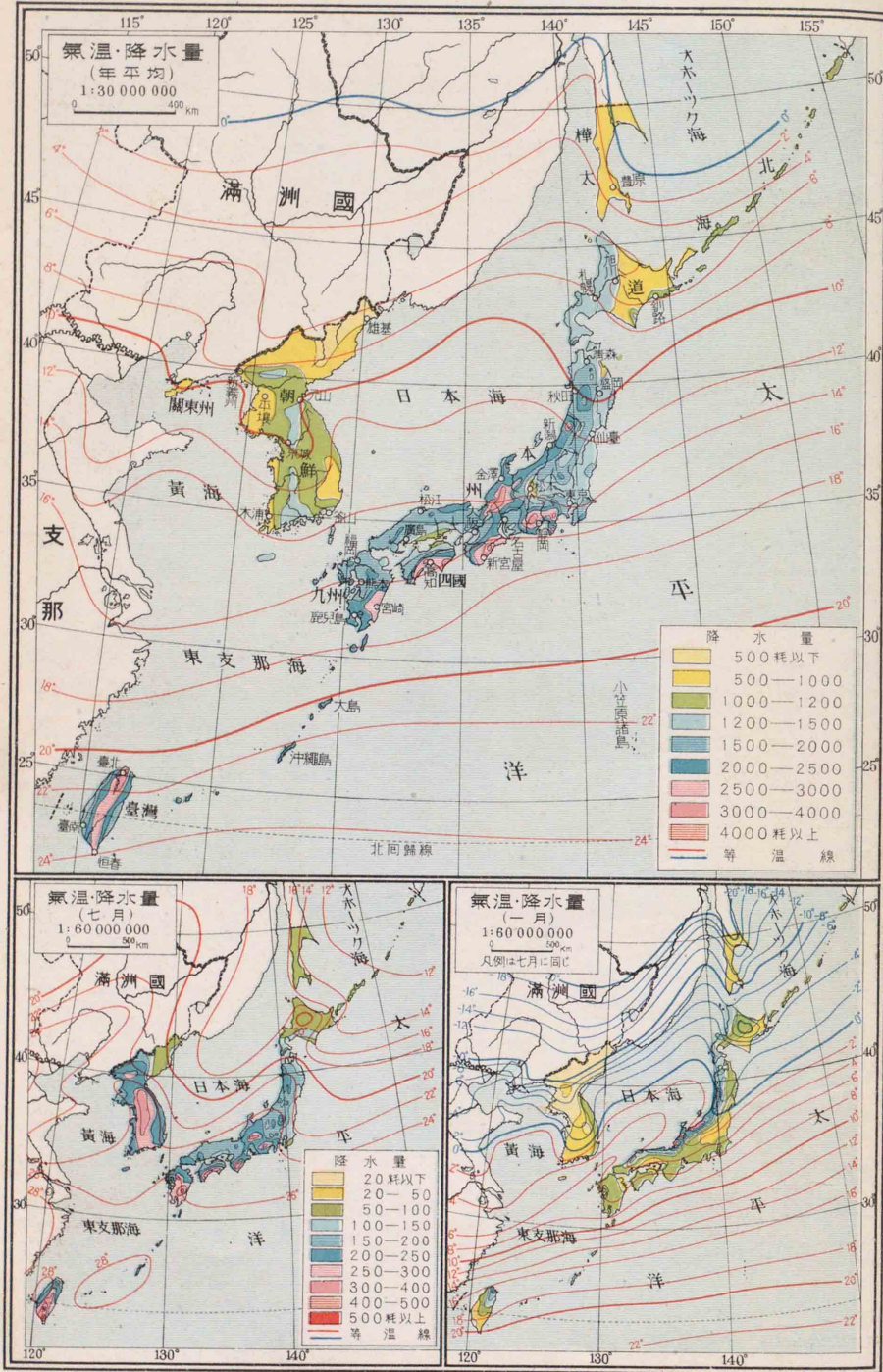
赤道無風帯は多湿で蒸し暑く、天氣は常に曇りがちで驟雨多く、常雨帯をなし、回歸無風帯では空氣乾燥し清澄な天氣が多い。

我が國の降水量は一般に多く、その分布は略前述の條件に支配されて多雨・寡雨の兩地域が決定され、又季節的の相違がある。表裏日本の各雨季、殊に梅雨と颱風來襲の時は多雨で、水害を起すことが尠くない。梅雨期には揚子江流域より九州に東進し來る低氣壓が、東北海上の高氣壓に妨げられて停滯し、九州・四國本州に連日霖雨を降らすのである。水害防止には植林と治水工事とに俟つことが大である。

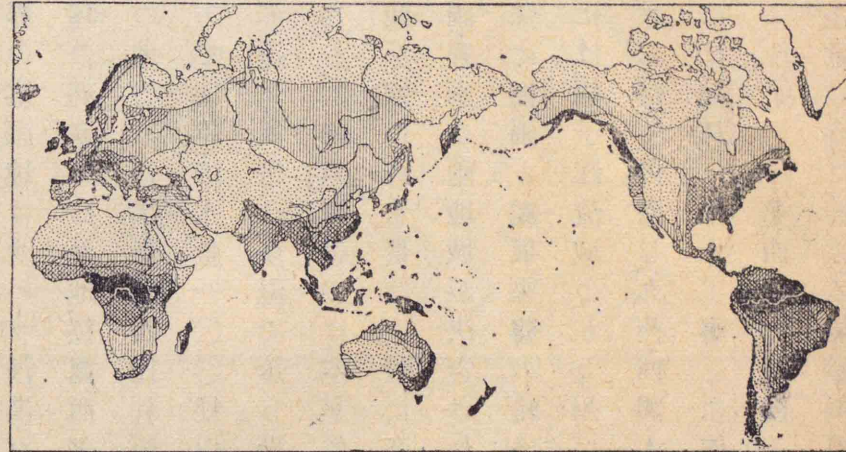
第四節 氣候と氣候區

任意の時に於ける氣壓氣溫晴雨風向風力等總て大氣の狀態を天氣と

本邦の氣候圖

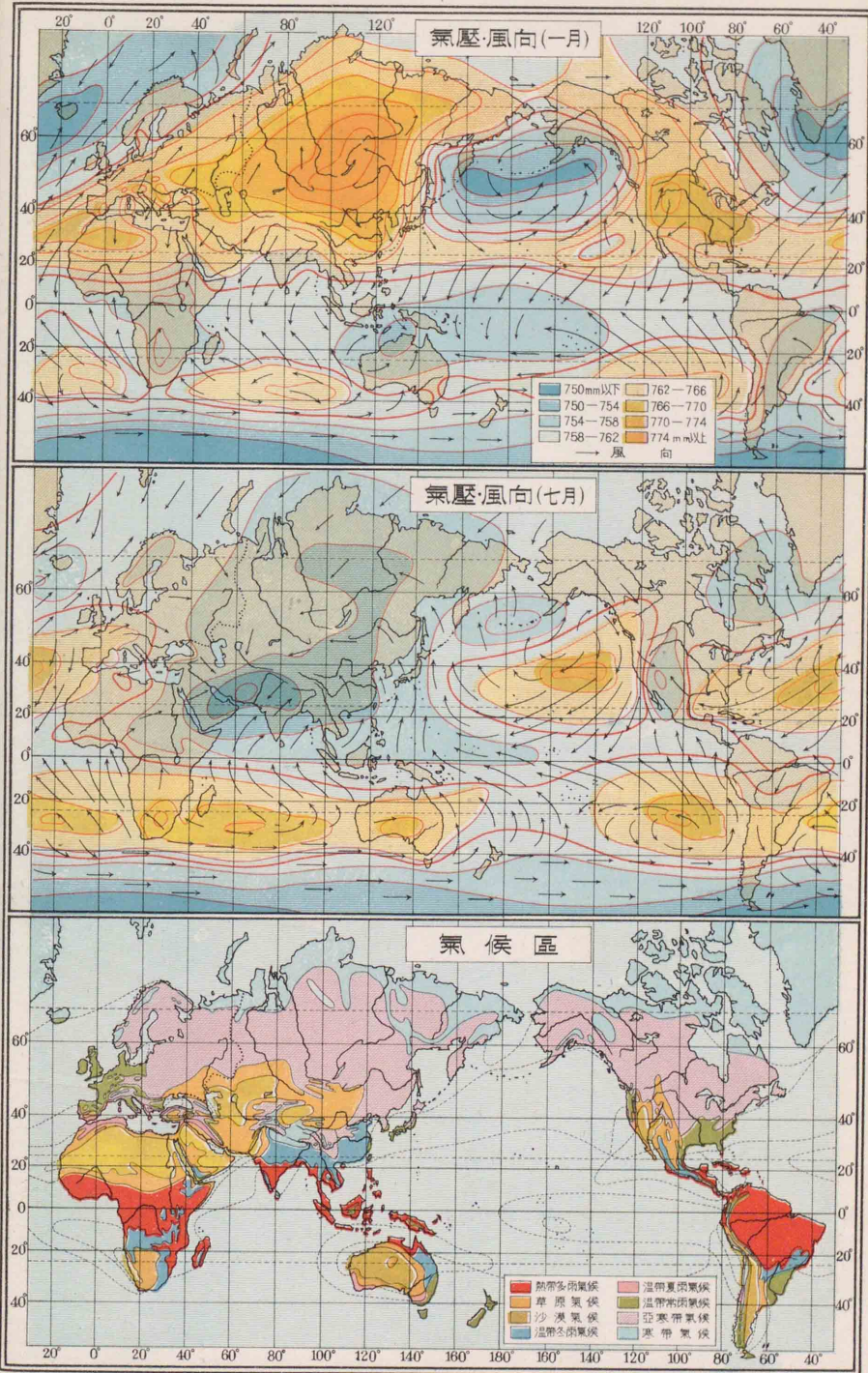


世界の降雨季節的分布圖



いひ、長期に亙る天氣の平均状態を氣候といふ。氣候の變化は緯度、地球の自轉による四季の循環、水陸の分布、地形等の條件が關與する。氣候の季節的變化は熱帯に於て乾季・雨季、寒帯に於て夏季・冬季の兩季に分たれ、溫帯に於ては四季の變化が顯著である。次に氣候を地域的に分類すれば、各地の氣候の性質(大陸性・海洋性・地中海性・季節風帶性等)によつて大無數の氣候區に分つことが出来る。世界を大氣候區に大別すれば、熱帶多雨區・草原區・沙漠區・溫帶冬雨區・溫帶夏雨區・溫帶常雨區・亞寒帶(亞極地・寒帶(雪地)の八大氣候區となり、我が國の氣候區を細別

世界の気圧・風向・気候区圖



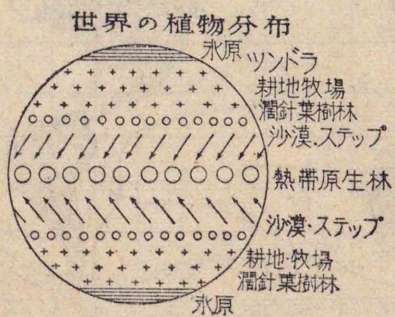
すれば樺太東部樺太西部北海道東部北海道西部奥羽東部奥羽西部東海・中央高地北陸及び山陰瀬戸内北九州南海及び南九州琉球臺灣東北部臺灣西南部朝鮮中部朝鮮北部朝鮮關東州南洋の二〇區となる。

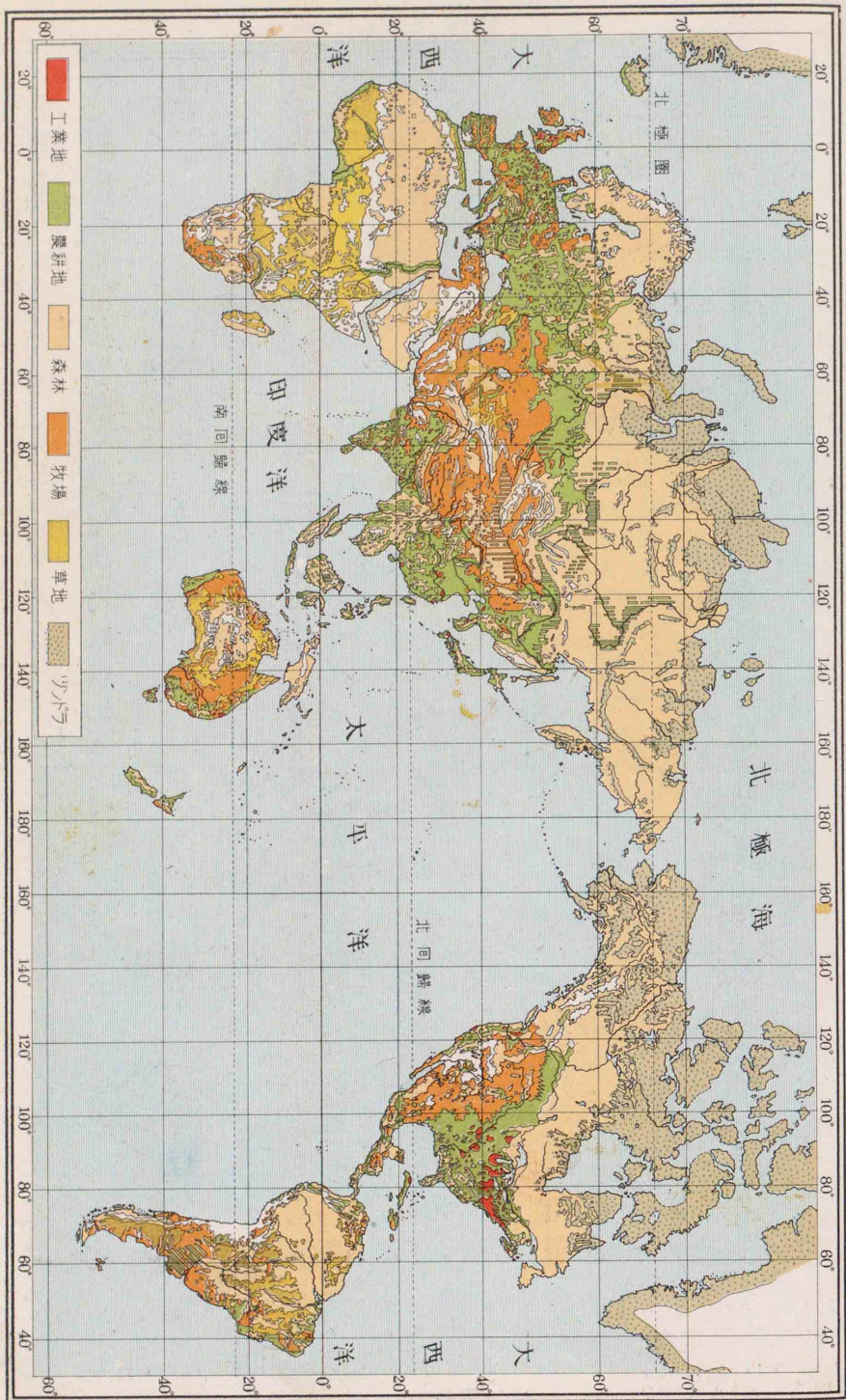
第五節 氣候と生物

生物は種々の自然的環境に支配されてその分布が決定されるが、その中で氣候の影響が最も大である。

熱帯の生物

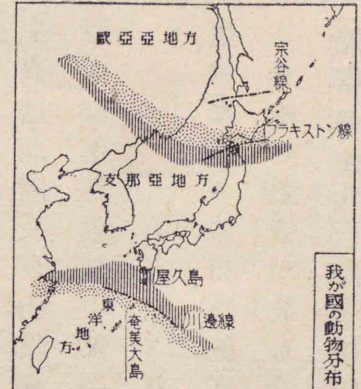
熱帯多雨地方は植物の生育に最もよく適し、従つて熱帯降雨帯と熱帯密林帯とは一致し、アマゾンのセルヴァ地方、アフリカのコンゴ河流域、馬來群島地方の如きはこれである。椰子、マンングロ、イヅは最も普通の熱帯植物で、その他榕樹、チーク、籐、芭蕉、羊齒の類が多く、熱帯寡雨地方には水分を貯藏するサボテンの類等が分布し、有用植物には甘蔗、珈琲、ア、棉、椰子類、ゴム、バナ、稻等があり、木材にはチーク、マホガニー等





世界の土地の用途

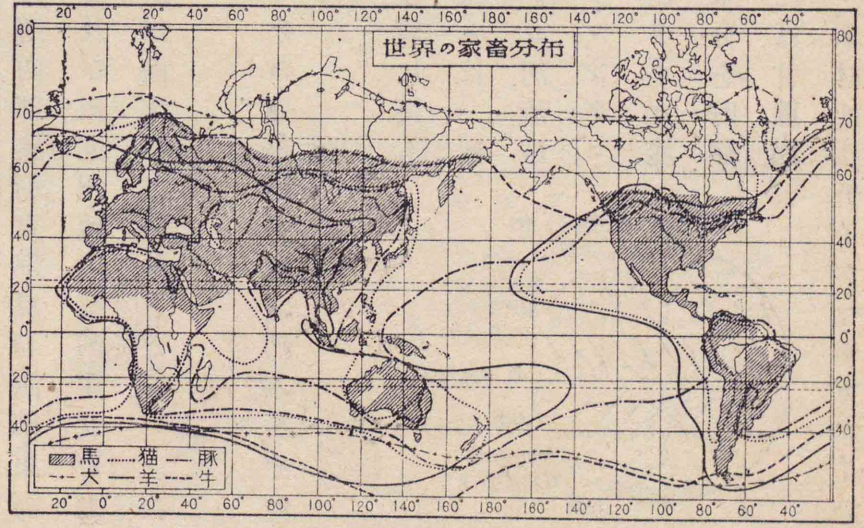
ので、又麥・茶・棉・稻・桑等の有用植物も栽培



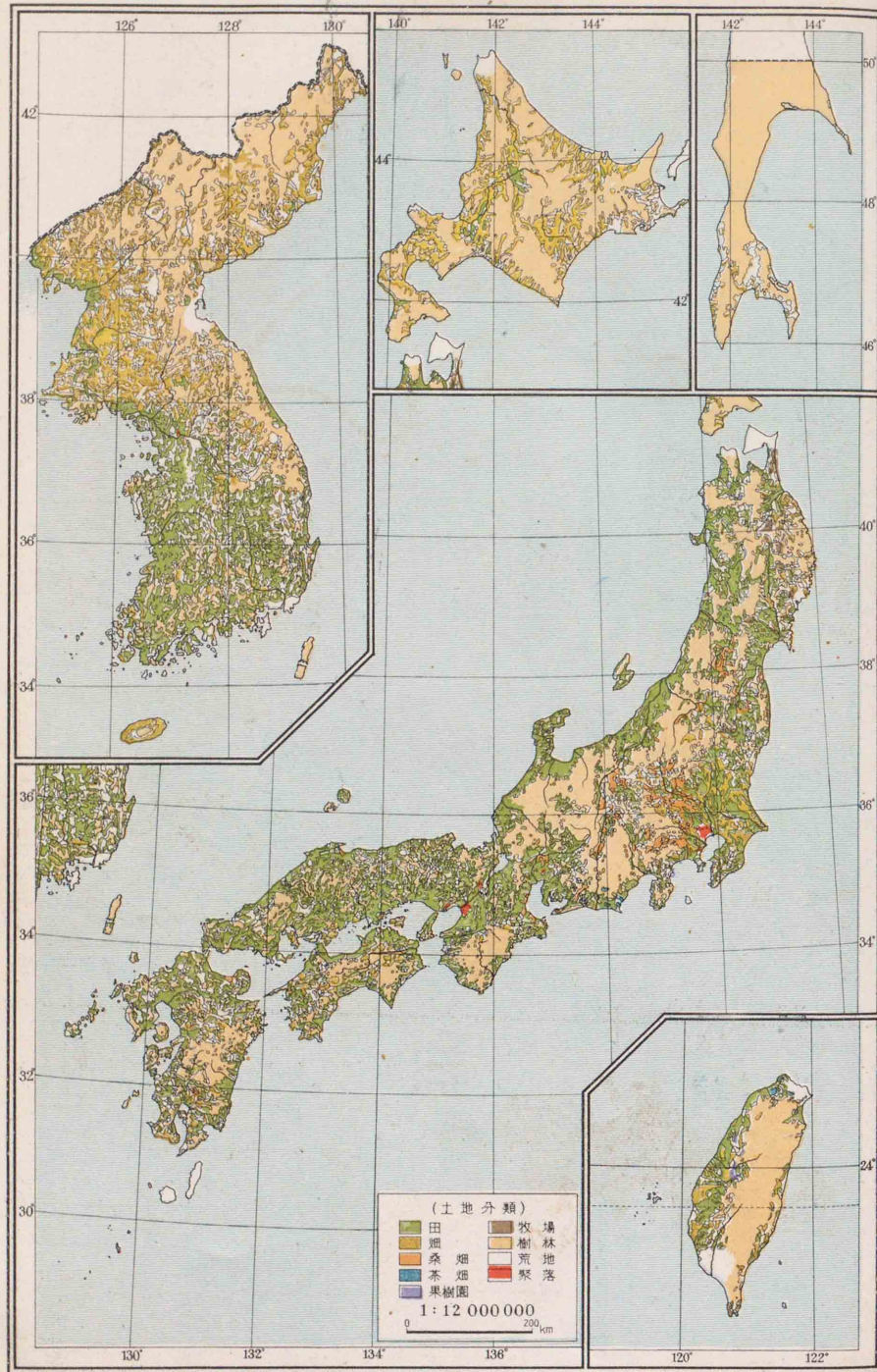
この地帯の生物は熱帯と寒帯との漸移地帯で、その分布も甚だ複雑であるが、松・椴・榆・榊等は、その代表的なものである。

がある。  
動物も亦種類に富み、象・犀・河馬・麒麟等の巨大なもの、虎・獅子・大蛇等の猛猛なものなどが棲息する。沙漠の周囲のステップ・サヴァンナに於ける生物も各地共通性がある。

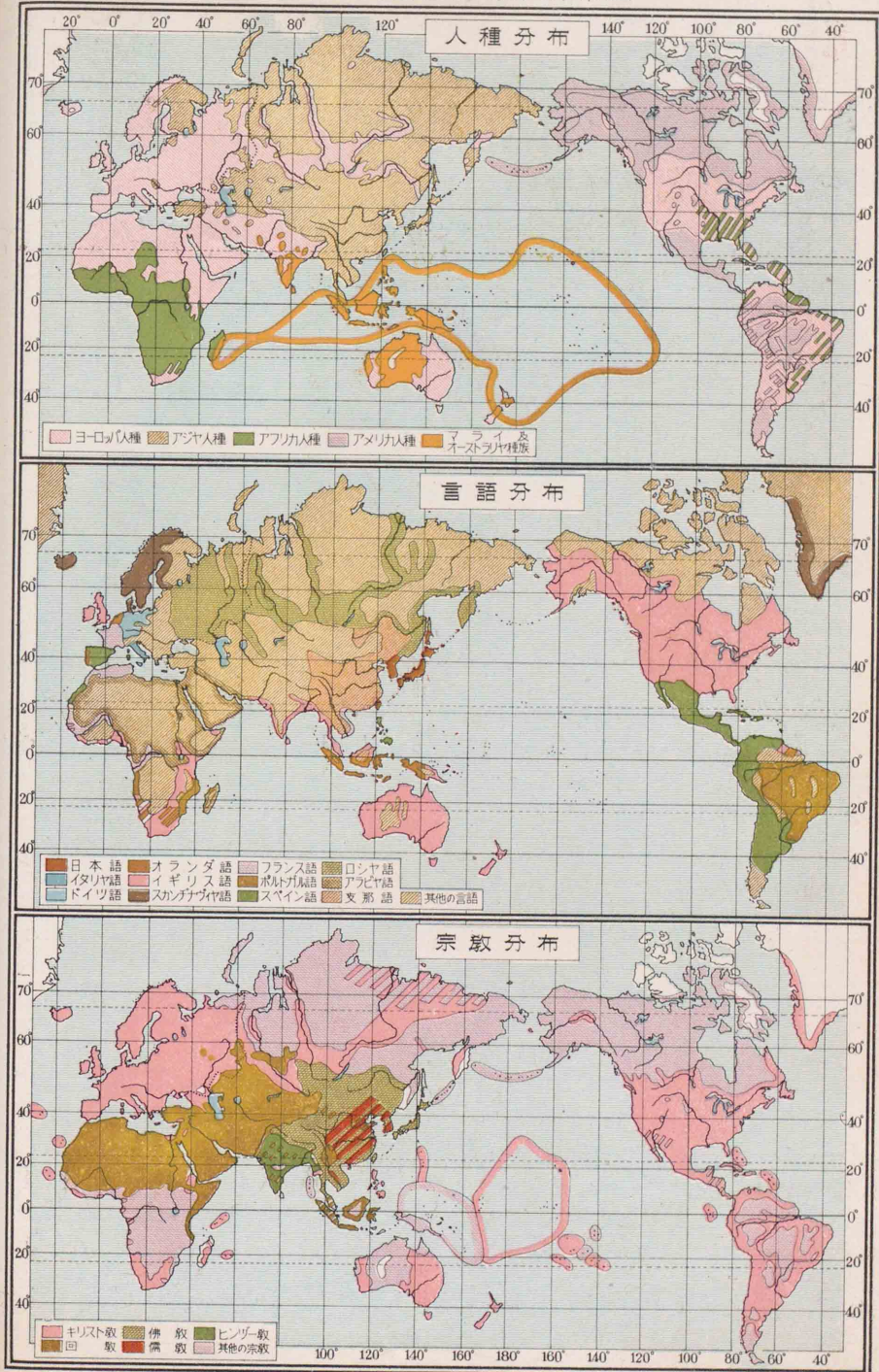
温帯の生物



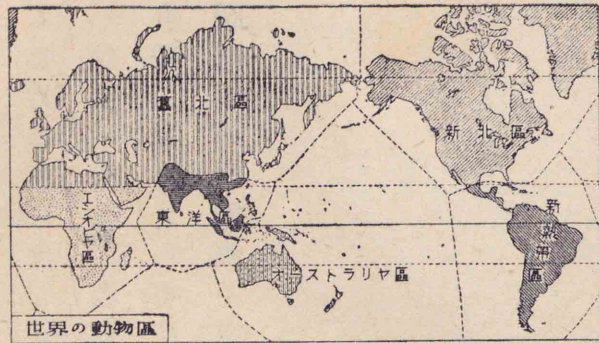
本邦の土地分類圖



世界の人種・言語・宗教分布圖

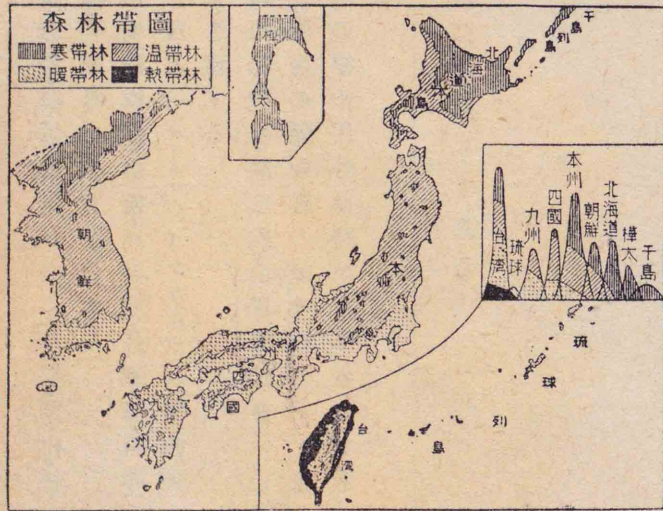


凍原の沿岸には北極熊、寒帯林には狐、麝香鹿等が棲息し、馴鹿の飼育が行はれる。  
**我が國の生物** 我が國は大部分温帯内にあるため、植物の分布は温帯的特色

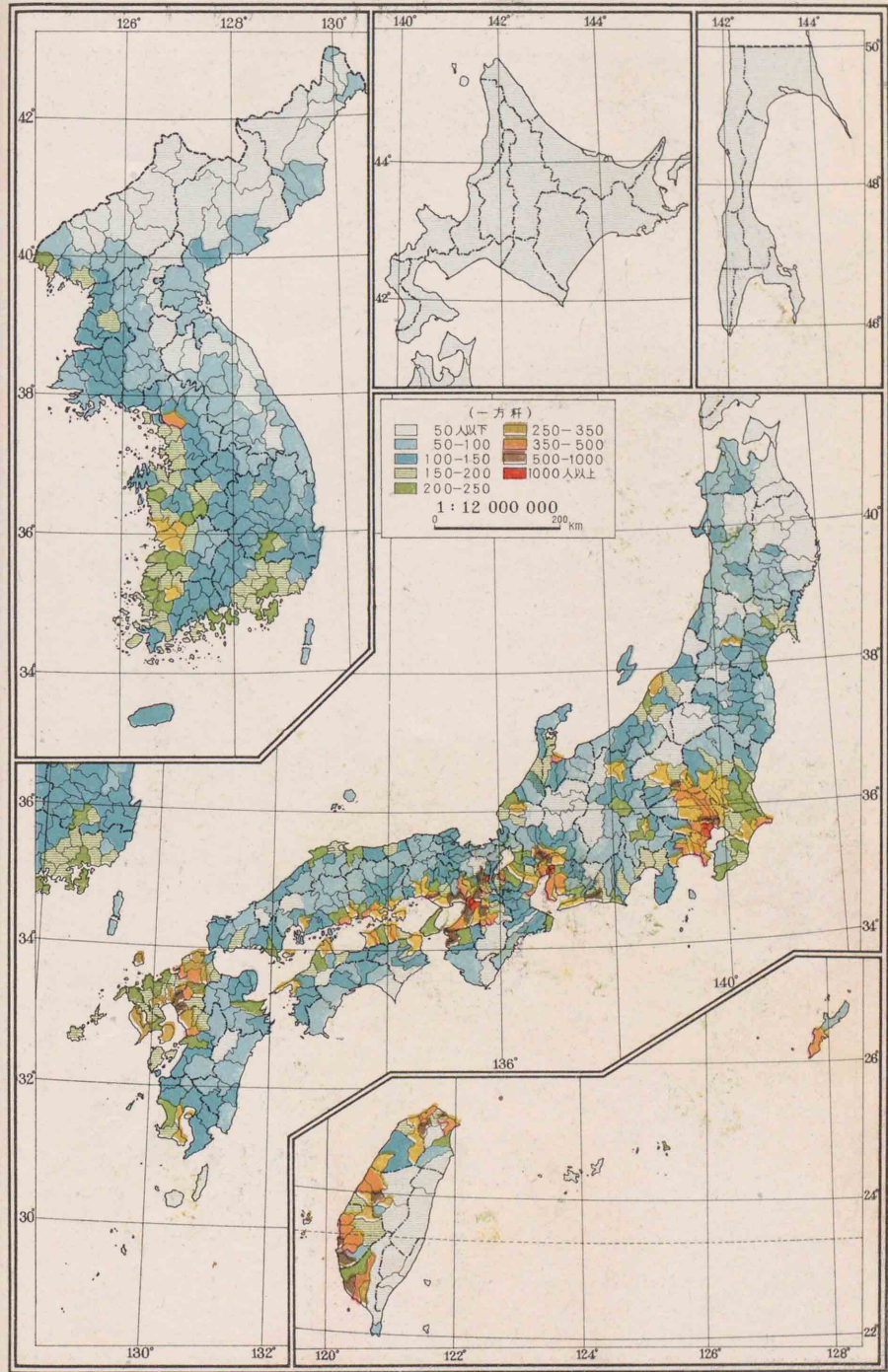


さ  
 ら  
 る。  
**寒帯の生物** 気温寒冷且つ寡雨のため植物の生育の悪い寒帯針葉樹の疎林をなし、植物の種類も数も著しく僅少である。育悪く、凍原では地衣類、蘚苔類に限られ、その邊緣部では、

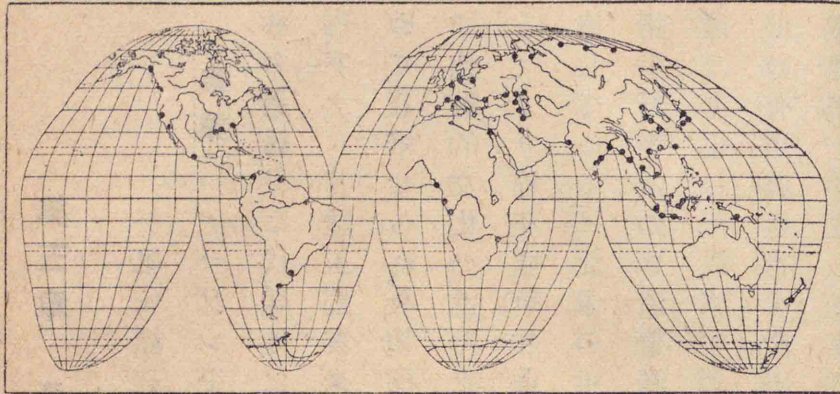
され、動物には牛、馬、羊等の有用家畜が飼育せられてある。



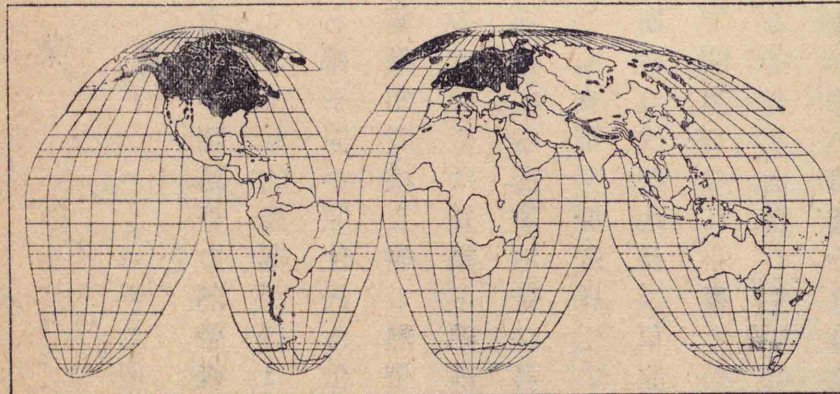
本邦の人口密度圖



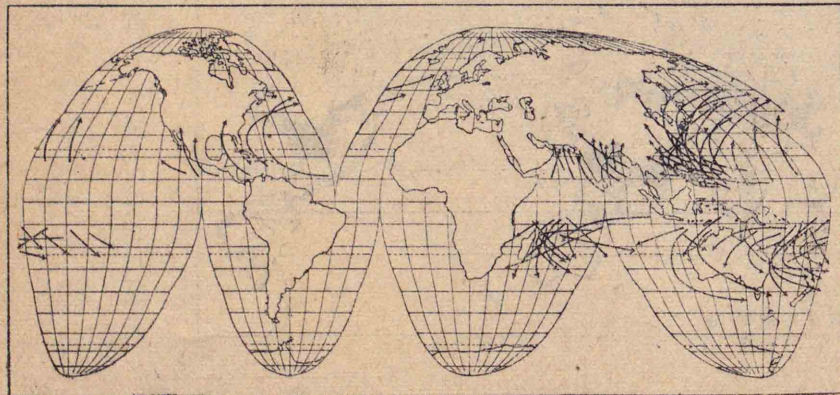
世界三角洲地域



世界氷蝕地域



世界颱風地域



を有するも、南北緯度約三〇度に互  
るため、琉球以南は<sup>2</sup>亞熱帶性で、津輕  
海峽以北及び北部朝鮮は<sup>3</sup>亞寒帶性  
の特色を持つ。動物は移動性があ  
るため<sup>4</sup>特色に乏しい。  
魚族は海水の溫度に左右されて  
寒暖二種に分れ、寒海性の鯨・鮭・鱈と  
暖海性の鰻・鯉・鯛その他多數の魚族が豊富に棲息してゐる。

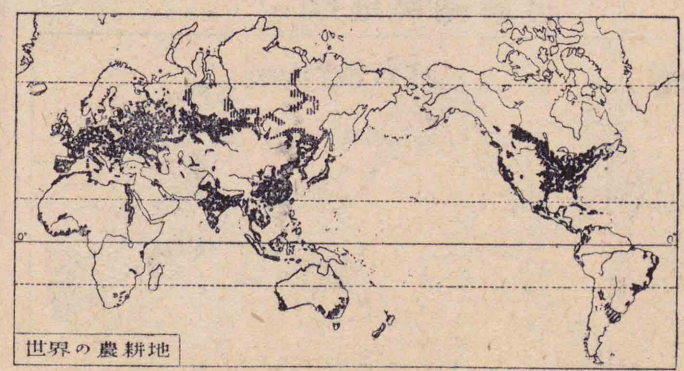
- 1 榲赤松・楡・黒松等が多く、苹果・蜜柑・桃・梨・葡萄等の果實を産する
- 2 榕樹・檳榔樹・抄羅林・投樹・蘇鐵・樟・竹等が茂り、バナナ、パイナップル等の果實を産する
- 3 蝦夷松・楡松・落葉松・白樺等が多い
- 4 北海道の熊、朝鮮の虎、琉球のハブ、臺灣の穿山甲等は特色あるものである

# 第五章 産業

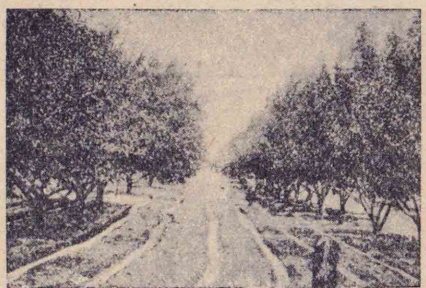
## 第一節 農産

### 農業

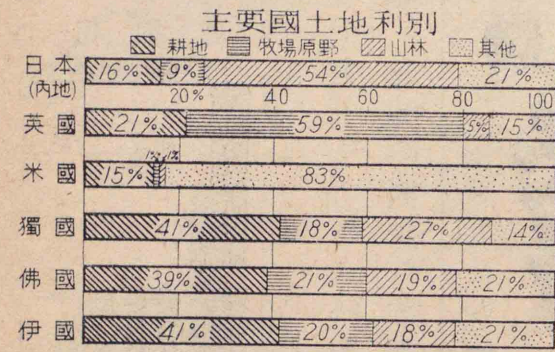
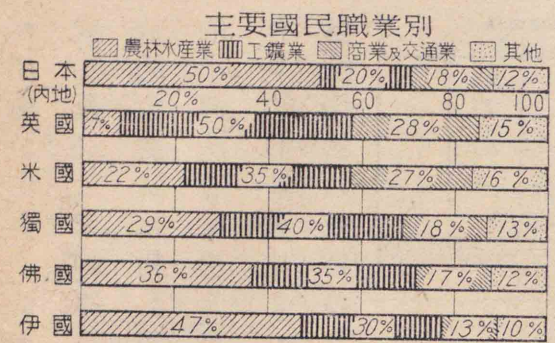
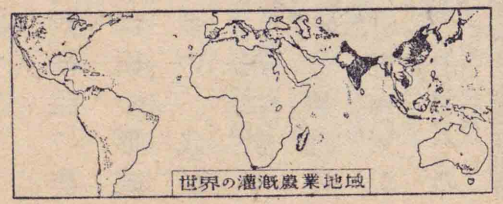
アマゾン平原太平洋諸島等の熱帯森林の邊縁又は伐採地に於ては原始的農業が行はれ、バナ、甘藷、玉蜀黍、米、コ、椰子等が原住民に依つて栽培せられ、英領印度、蘭領印度、埃及等の熱帯で比較的文化の進んだ地方に於ては、知識と熟練とにより、棉花、煙草、甘蔗等を産する農業地帯が發達してゐる。北米の中央平原、支那平原、歐羅巴の諸平野等の如き、温帯潤葉樹林の伐採地及び草原地は、進化した民族によつて開發せられ、小麥その他の有用農産物を産出するに至り、世界の主要農業地帯を形成してゐる。これ等の農産物は降水



量、氣温、成育及び成熟時期、土質、勞力、熟練、貿易、交通、運輸、政治等に應じて種類と生産額を異にする。殊に氣候と關係深く、冷害、旱害、風水害、霜害、雪害等を被ることが少くない。降水量の少い地域に於ては

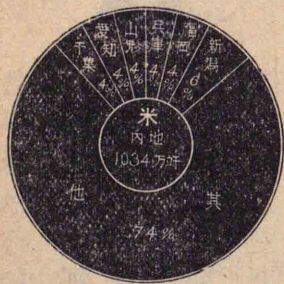
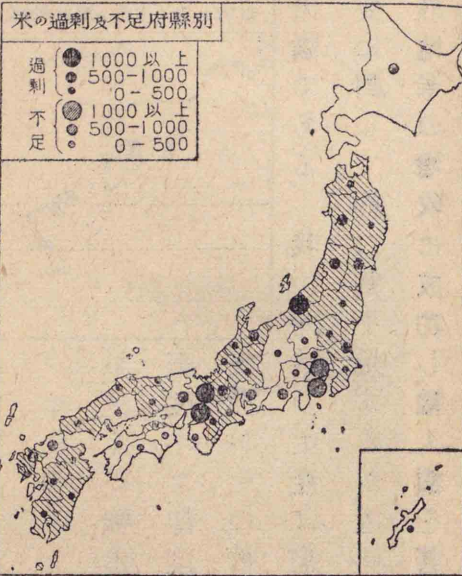
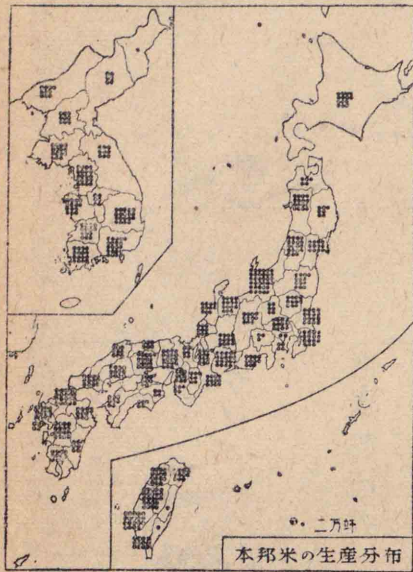


畑作にも灌漑が必要である。



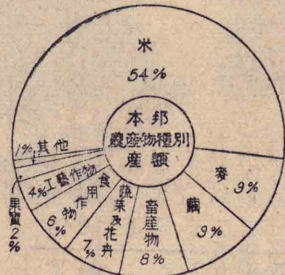
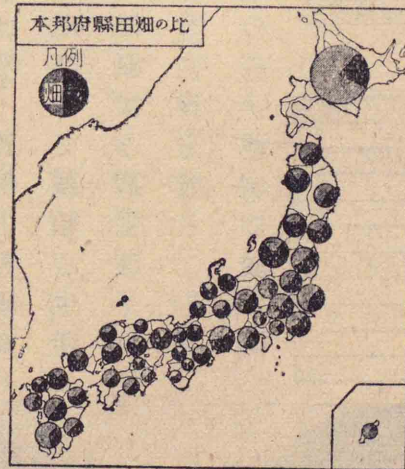
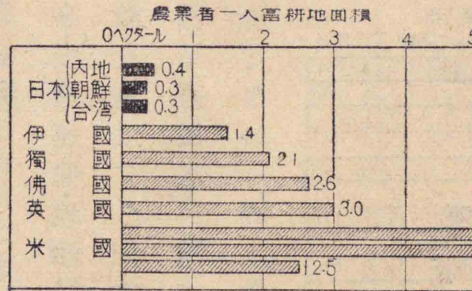
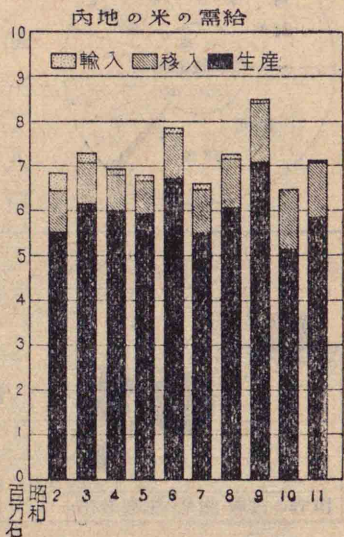
我が内地に於ては國民の半數が農民で、農業は我が國の主要産業である。然るに農業者一人に對する耕地面積は、我が國は米、英、佛、伊等の諸國に比す





米作地域は高温多湿の亞細亞の季節風帶と略一致し、熱帶三角洲温帶の灌溉可能な堆

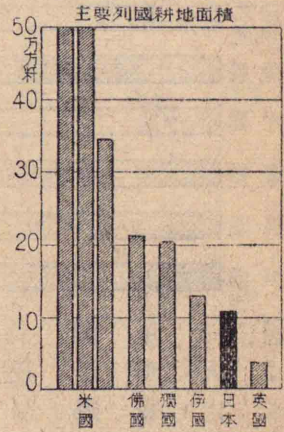
は裏作が可能である。我が國の農産物は米が首位で總額の半を占め、麥・繭と共に三大農産物をなしてゐる。



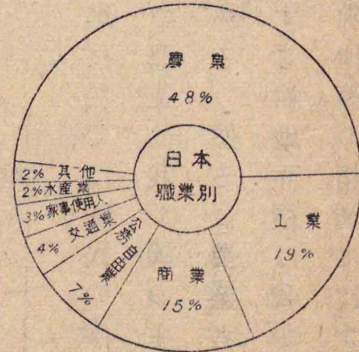
國に於ては耕地の五、四、三、二、一、の順で、その中約四割

れば遙かに少く、ために我が農民は米國等の粗放の大農法に對し、集約的小農法を採用し、普通作物の單一栽培より園藝的作物の多角農業に移化しつゝある状態である。

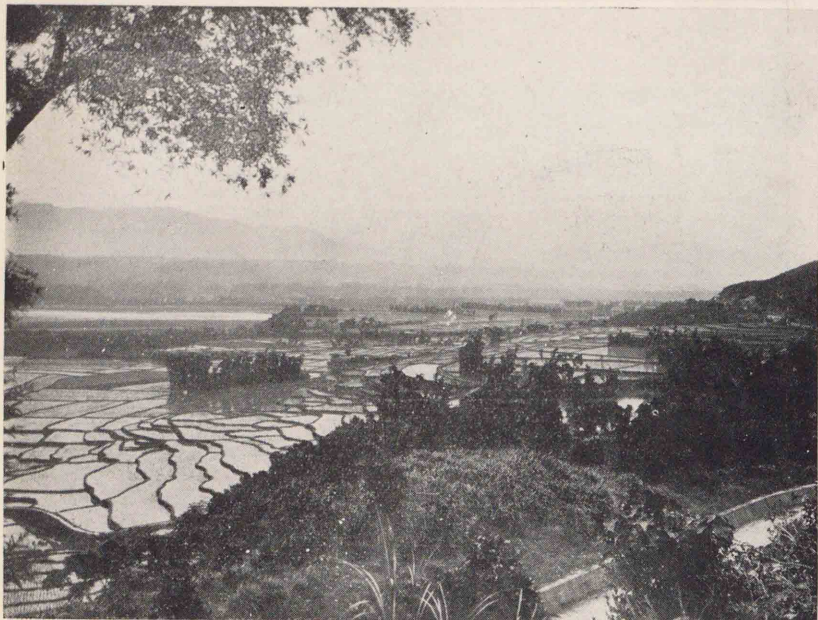
世界の耕地の大部分は畑地であるが、亞細亞の季節風帶に於ては田の形式をとるものが多い。我が



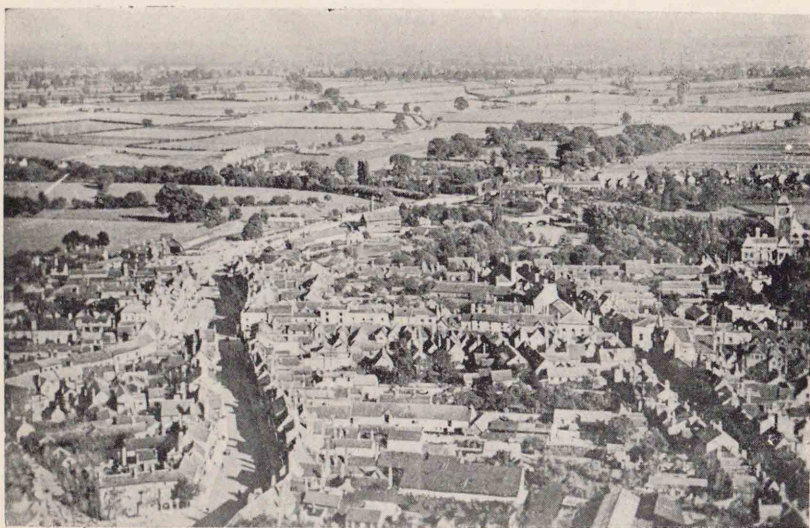
本邦有業者職業別



各國の耕作景(一)

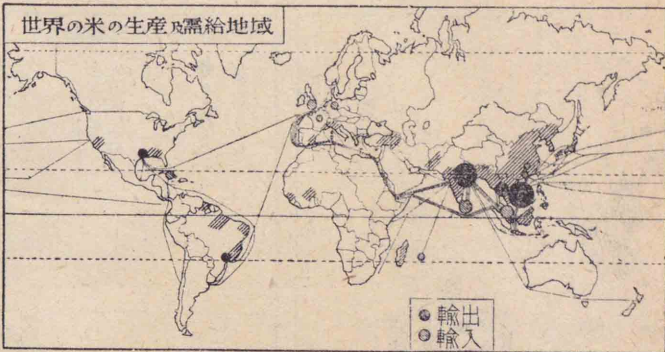


我が國(台灣)

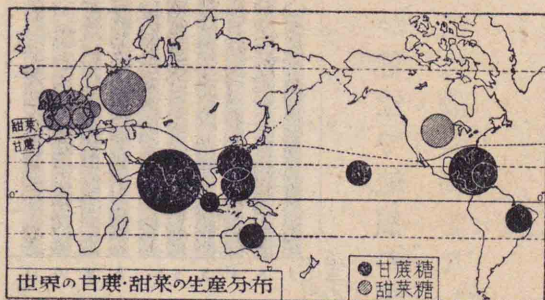
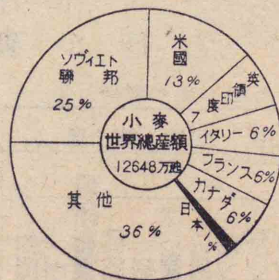
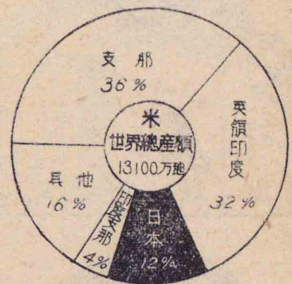


英國(中央イングランド)

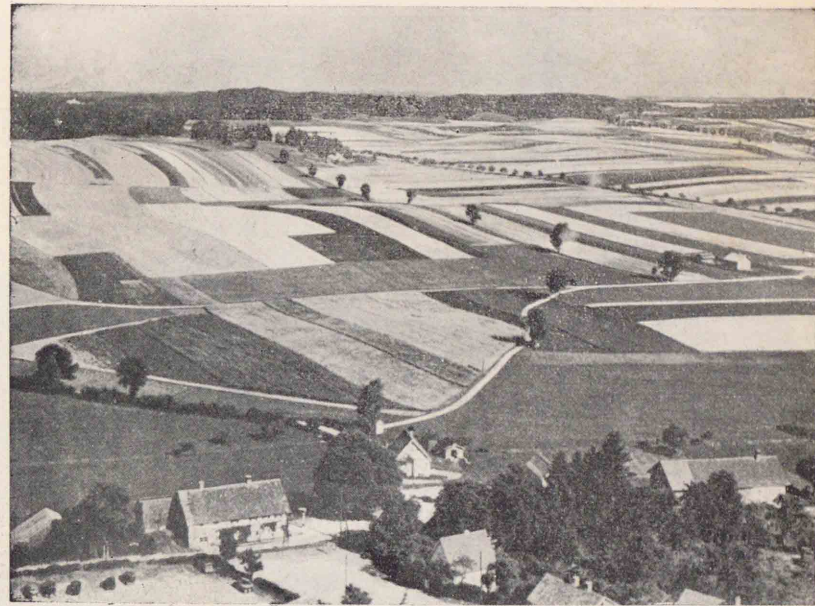
出國である。我が内地の生産は需  
要に對して約二割不足するが、近年  
外地米の増收に成功し、輸入額を著



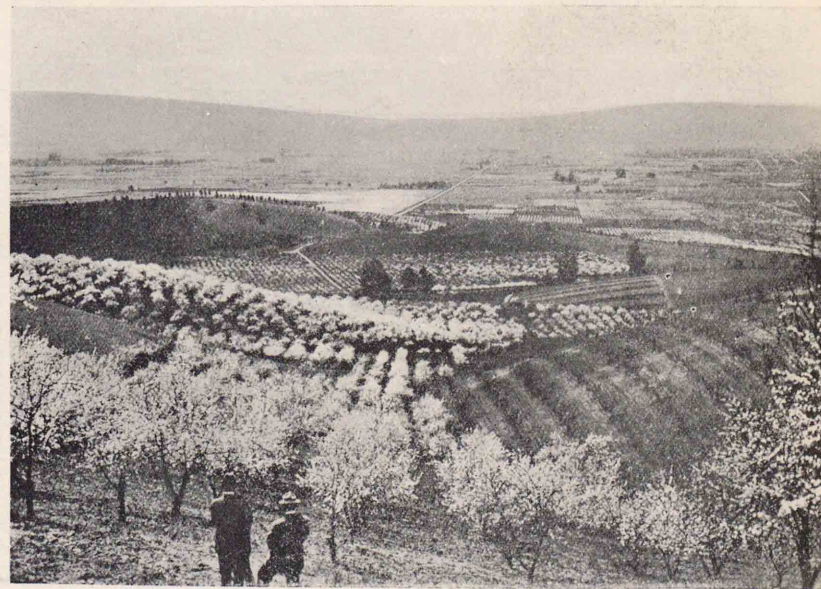
支那がその輸  
密度小な印度  
が多くて輸出米少く、却つて人口  
道奥羽地方に於ては早稻の栽培  
をする。



積平野に好結果が得られ、米を常  
食とする支那・英領印度・日本等は  
三大生産國である。氣候の關係  
上内地は一期作、臺灣は二期作、印  
度支那は三期作を行ふ。又北海



獨逸(バウァリヤ地方)

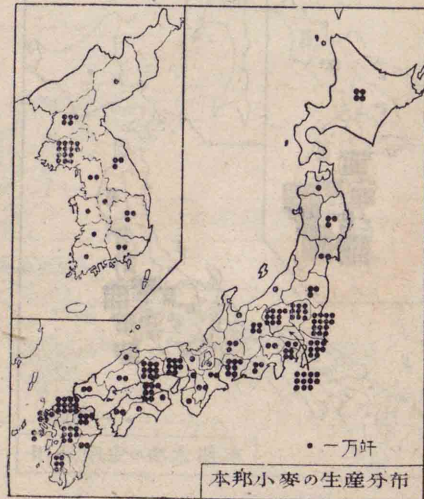
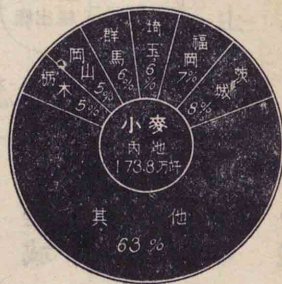
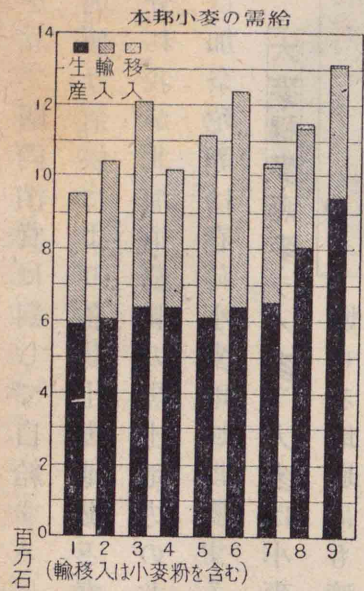


米國(カルフォルニヤ)

しく減じた。

**小麥** 小麥は温帯で

適度な降水量地域に産し、北半球及び南半球の文化地帯に廣く栽培せられ、乾燥地帯の周縁又は草原地帯に好結果が得られる。世界的に見れば最も重要な穀類で、歐米人の常食の原料となり、需要地は人口の密な歐洲が中心で、供給地は加奈陀、亞爾然丁、濠洲、米國等である。我が國の小麥の主産地は、西日本及び中央日本の寡雨地域で、近時増産計畫



は加奈陀、亞爾然丁、濠洲、米國等である。我が國の小麥の主産地は、西日本及び中央日本の寡雨地域で、近時増産計畫

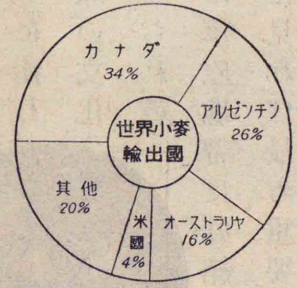
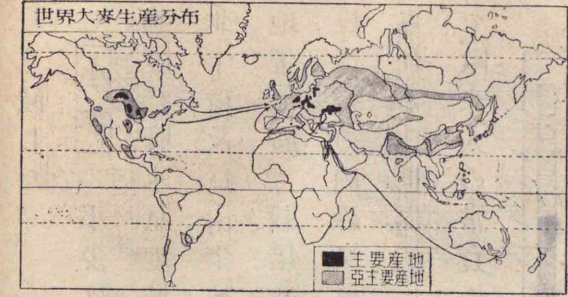
は加奈陀、亞爾然丁、濠洲、米國等である。我が國の小麥の主産地は、西日本及び中央日本の寡雨地域で、近時増産計畫

を立て國內消費に對して自給するに至つた。小麥作  
 地域は氣候により冬蒔小麥地域と春蒔小麥地域とに  
 分れ、我が北海道・蘇聯の黒土地方の北部米國の北部及  
 び加奈陀等は春蒔小麥地域に屬する。

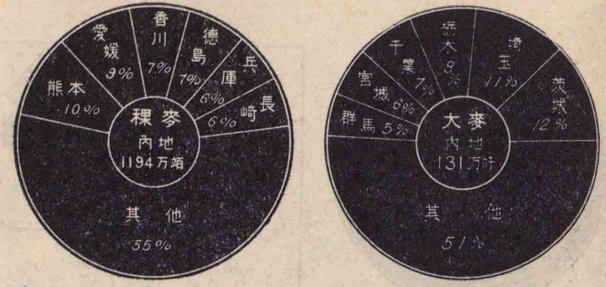
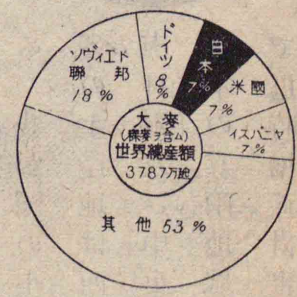
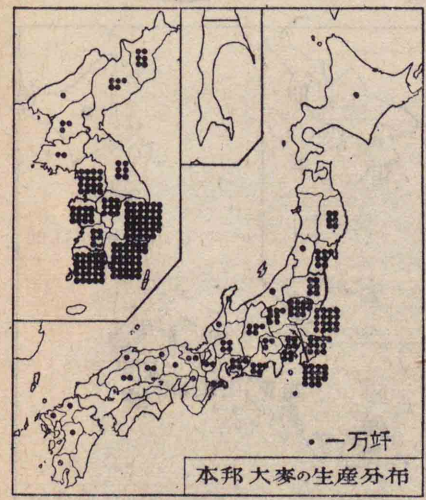
**大麥・裸麥・燕麥・ライ麥**

大麥は小麥より低溫で、且乾

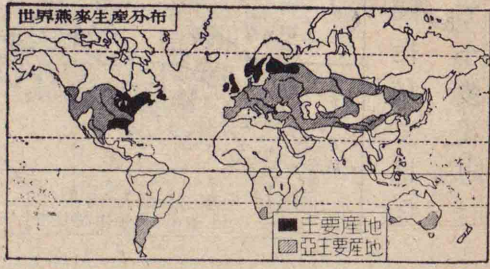
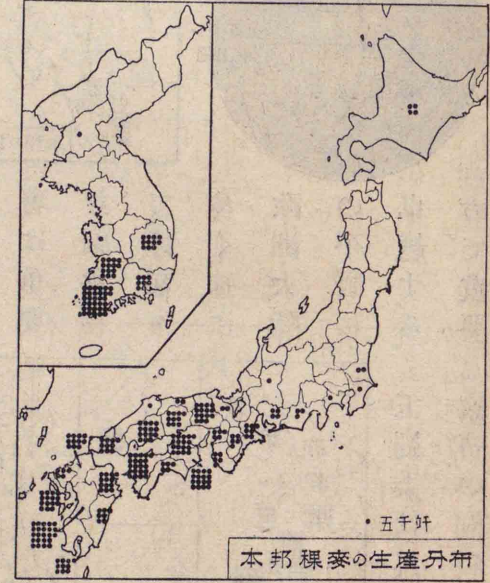
燥せる地域にも適するが、小麥と地域的條件の等しい  
 點も多い。裸麥は大麥作地域より高溫の地域に適し、



ライ麥は小麥作地域より低溫で、且貧弱な土壤の地域にも栽培される。燕麥の栽培

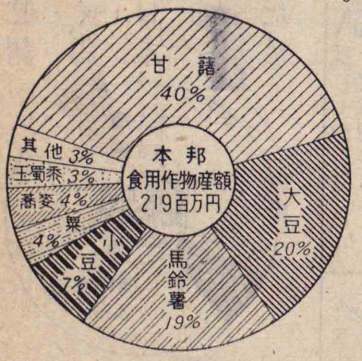


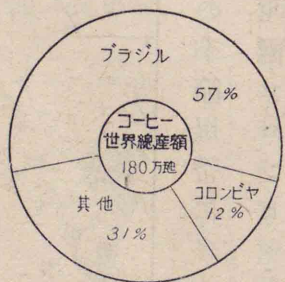
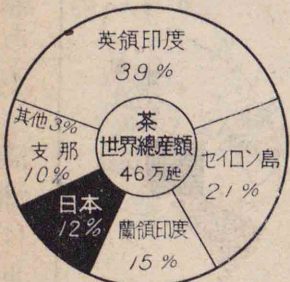
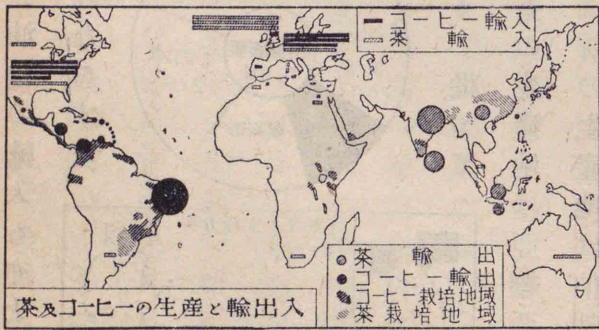
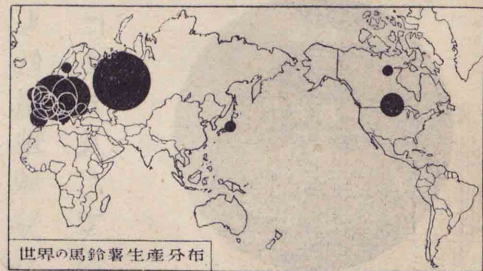
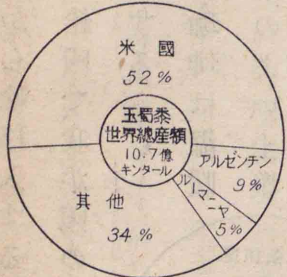
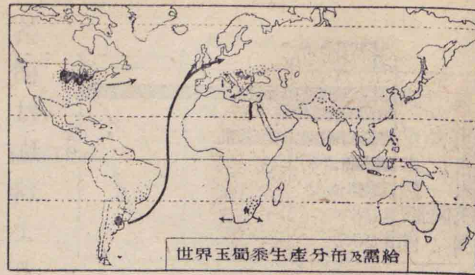
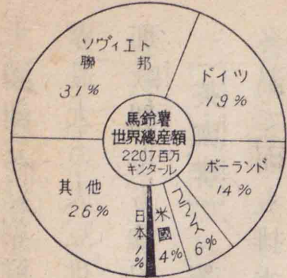
培條件は略ライ麥と等しく、ライ麥と燕麥との選定は、その住民の需要によつて決定される。



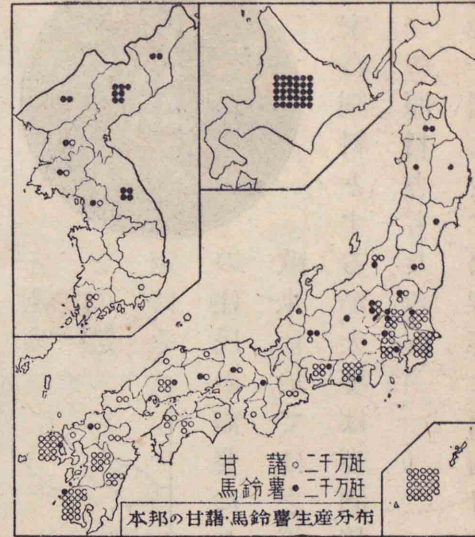
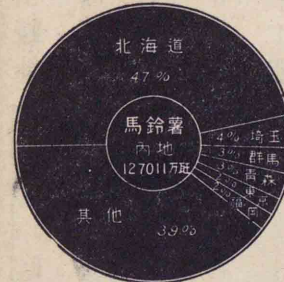
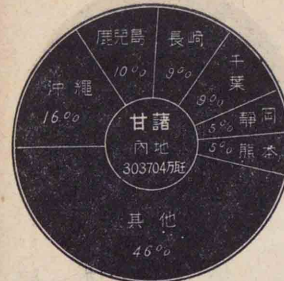
て家畜飼料とするが、大麥は麥酒醸造用、ライ麥は黒パンの原料ともなる。

我が國に於ては稗麥は西南日本に、大麥は中央及び東北日本に、燕麥は北海道に主として栽培される。

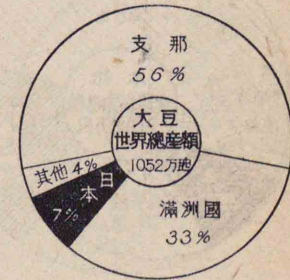
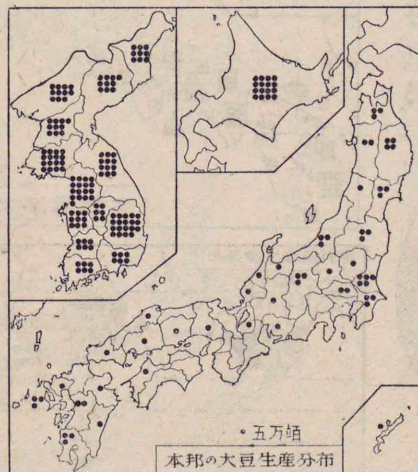




暖濕の地域を占め、米國は世界總産額の半を占める。大豆は東洋の特産で滿洲・支那に多く、我が内地産は需要の三割を充すに過ぎ



の産が著しく多く、馬鈴薯は近年東北日本に於て生産が増加しつつある。外國に於ては馬鈴薯は重要な副食物で、産額も多く、殊に歐洲大陸の平野に卓越する。玉蜀黍は外國に於ては極めて重要な家畜の飼料で、小麥よりは



その他の食用作物

我が國は外國に比すれば甘藷

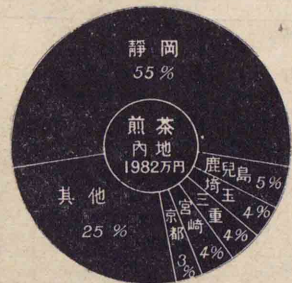
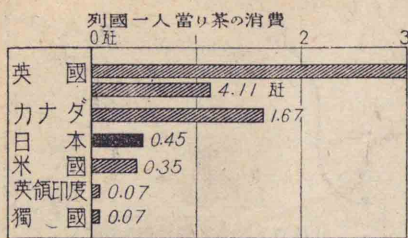
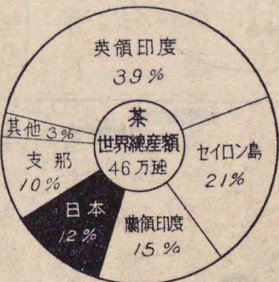
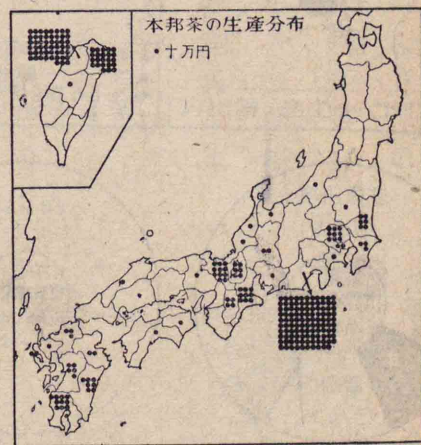
ず、滿洲及び朝鮮から輸入する。油粕の輸入も亦大である。滿洲は世界最大の大豆供給國で、我が國のみならず支那歐洲にも輸出する。

**茶珈琲**

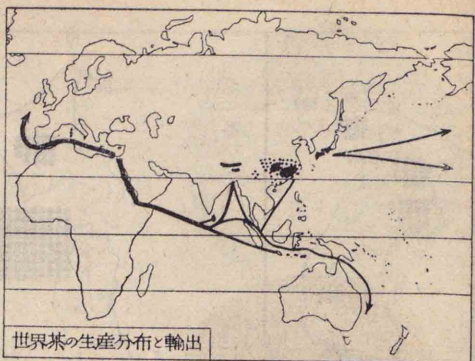
茶珈琲は温暖

多濕で、而も排水のよい土壤又は傾斜地に栽培されるが、茶樹は珈琲よりも低温地域

にまで及んでゐる。従つて



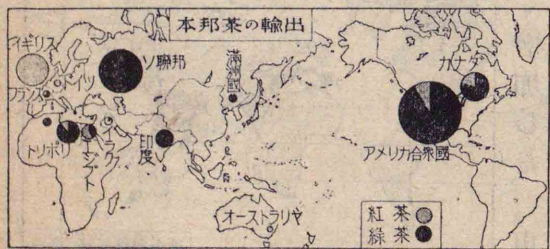
茶の生産地は亞細亞の季節風帯に多く、珈琲の生産地は伯刺西爾・コロンビヤ・蘭領東印度等の熱帶・亞熱帶地方を主とする。日・支・英・米等の諸國は珈琲よりも茶を多く消費し、殊に英國は甚だしく、獨逸等



世界茶の生産分布と輸出

の歐洲諸國は之に反し、蘇聯は茶・珈琲共に消費量が大きい。紅茶は茶の總産額の約七割、緑茶は約二割を占めてゐる。

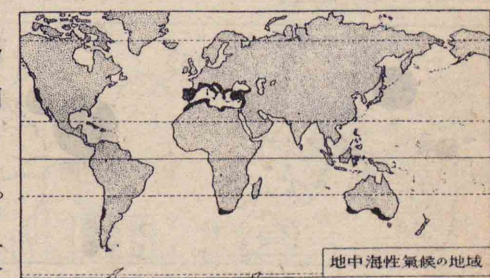
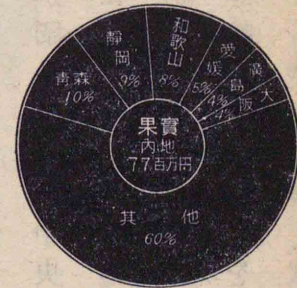
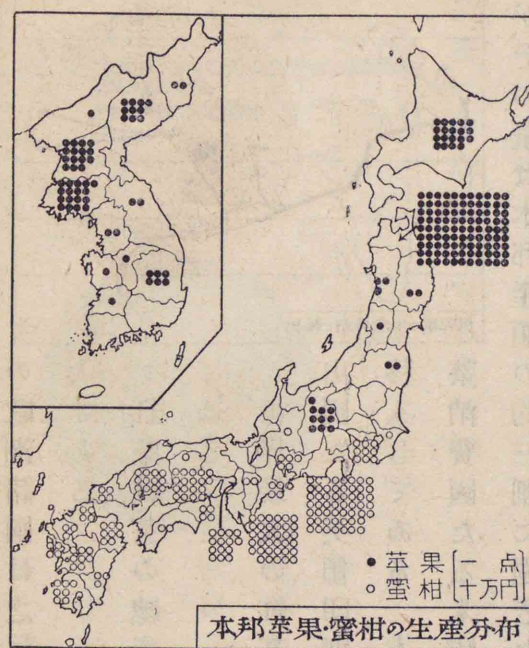
が、その量は本邦産額の約三割に過ぎない。支那も緑茶の産地で、我が國の競争國である。我が國の茶樹は中央日本以西に栽培せられ、近時紅茶生産にも進出しつつある。静岡縣は内地産額の半以上を占め、國內茶の大供給地である。臺灣は烏龍茶・種茶・紅茶等輸出向のものを産する。珈琲は世界的に見れば茶よりも産額が多く、歐



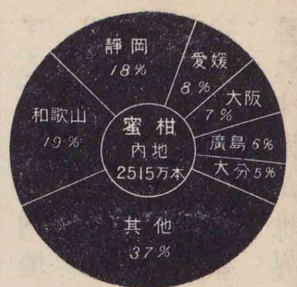
米諸國の重要な輸入品である。

**蔬菜花卉及び果實園藝農産物**

我が國の蔬菜は農村に於ては自給自足し、都市は農村より供給を受け、殊に大都市は全國的である。都市近郊の高



度な集約的蔬菜栽培は世界的傾向で、近時は遠郊蔬菜栽培も著しく増加した。東京近郊のメロン・花卉等の温室栽培、又は伊豆半島・室戸崎の冬季蒔豌豆、久能山南麓の早生苺等の如き冬季露地栽培等による促成栽培が行はれるに至つたのは、歐米

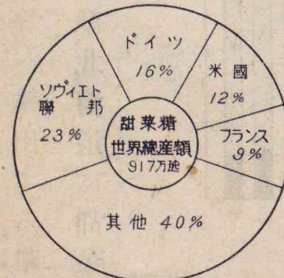
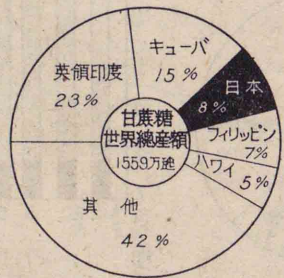


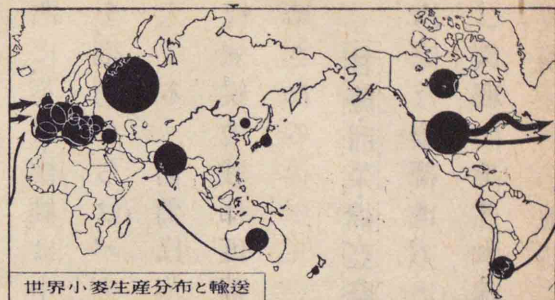
風の影響である。花卉及び果實に於ても近郊遠郊促成抑制等の栽培が行はれる。我が國に産する主な果實は柑橘類を第一とし、柿・梨・苹果之に次ぎ、その他葡萄・桃・梅・枇杷・櫻桃等がある。

氣候上柑橘類・枇杷は中央日本以西に、苹果・櫻桃は中央日本以北に産し、朝鮮からは苹果を、臺灣からはバナナ、パイナップル(罐詰)等を内地へ移入する。葡萄は苹果よりも温暖な地方に産し、地中海性氣候地域には葡萄・オレンジ・レモン・オリーブ等が栽培される。

**甘蔗・甜菜・棉・亞麻工業用農産物**

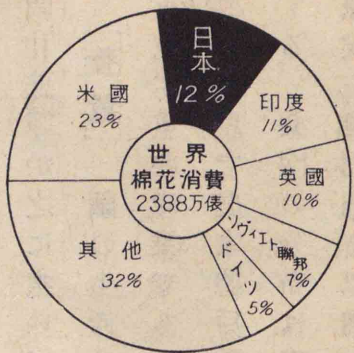
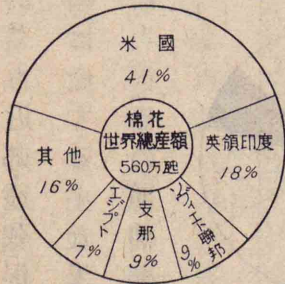
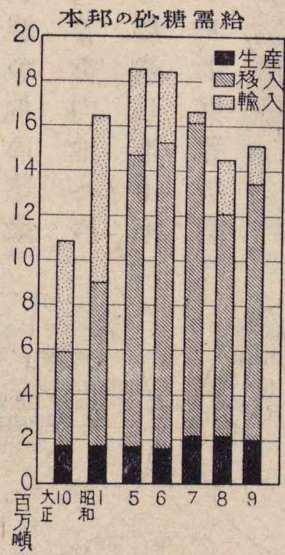
熱帯地方には甘蔗、冷涼な温帯地方には甜菜が適し、甘蔗糖は英領印度及び玖瑪に次ぎ本邦は世界第三位を占め、甜菜糖は獨逸・波蘭が核心地域である。甘蔗糖と甜菜糖との生産比率は四對三である。



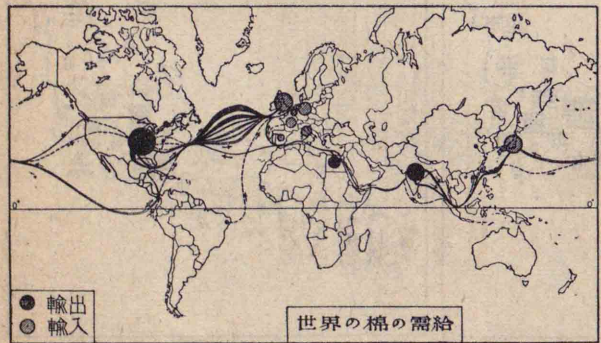


日本及び英領印度は自國消費が大であるから、玖瑪瓜哇比島等より砂糖の需要國米國英國等へ輸出する量が夥しい。我が國は西南日本に甘蔗糖、北海道に甜菜糖を産し、自給自足の域に達してゐる。

棉は我が國の重要工業原料品であるが、朝鮮産の外は輸入に仰ぎ、我が輸入總額の三割に達する。我が内地も中央日本以西は嘗て棉花を栽培してゐたが、廉價の輸入棉に壓倒された。棉花の産地は無霜季節二百日以上以上の暖地で、米英印の如く雨量の多い所か、埃及の如き灌漑可能地域かである。棉花の生産は米國が世界の首位を占め、英印、蘇支、埃及等之に次



料棉を産するが、尙高級品は米棉の輸入を仰いでゐる。我が國の輸入棉花は米英印埃及支那産でもとは米棉より印度棉を多く輸入してゐたが、最近我が綿製品の高級化と共に米棉を多く使用するに至つた。最近、中支北支と滿洲國とに我が資源として棉の増産計畫が立てられてゐる。

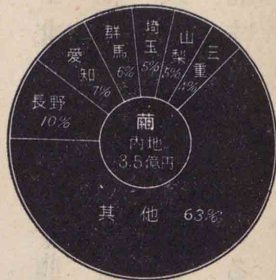
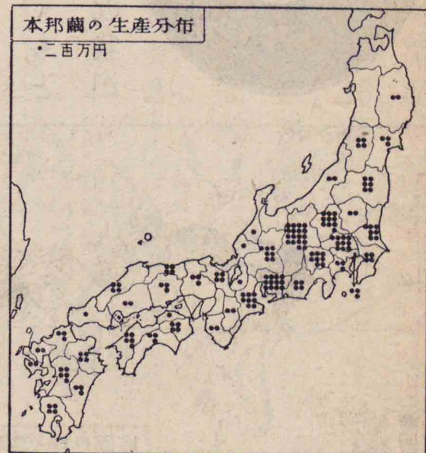


ぐ。世界の棉花消費高は米國が首位を占め、我が國は第二位で、英印英國之に次ぐ。世界棉産國米國及び英印は又主要消費國であるが、日英兩國は純然たる原料棉輸入國である。米國は自國需要を充し、尙餘剰は輸出し、英國は英印及び埃及に多量の原



朝鮮の實棉は臺灣の甘蔗と共に外地の特産で、前者は米國の陸地棉を移植して好成績をあげ、後者は布哇種瓜哇種を移植して在來種に代つたものである。亞麻は東歐米國英印亞爾然丁の四大中心地があり、我が北海道朝鮮にも産し、滿蒙にも栽培される。又我が國はマニラ麻を輸入する。我が内地の工藝用農産物の産額は葉煙草が首位を占め、茶種、蘭、甘蔗等が之に次いでゐる。

**養蠶** 繭の生産は我が農家にとり、米作と並ぶ重要産業である。全國養蠶戸數は約二百萬戸で、農家總戸數の三六%の多きに達する。桑園の分布は略繭の生産地と一致し、氣候上奥羽地方以南に適し、畑地の多い信州



を中心とした中央高地の山麓地方に比較的密集してゐる。世界の繭の産地は亞細亞南東部の季節風帯と南歐であるが、伊佛等の産額は日支兩國に比すれば極めて少い。

第二節 畜産

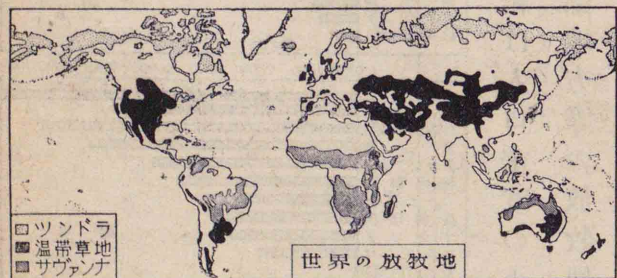
**牧畜業**

原始的には草地、準沙漠地の放牧の形に於て行はれ、近代的には温帯の飼料の栽培又は輸入による舍飼が行はれるが、常に氣候に對する關係が深く、鑽井が

列國人口百人に對する家畜數

日 本 (内地)	三 四
英 國	三 二
獨 國	四 三
佛 國	五 〇
米 國	七 五
亞 爾 然 丁	四 二 五
濠 洲	五 〇
新 西 蘭	六 一 二

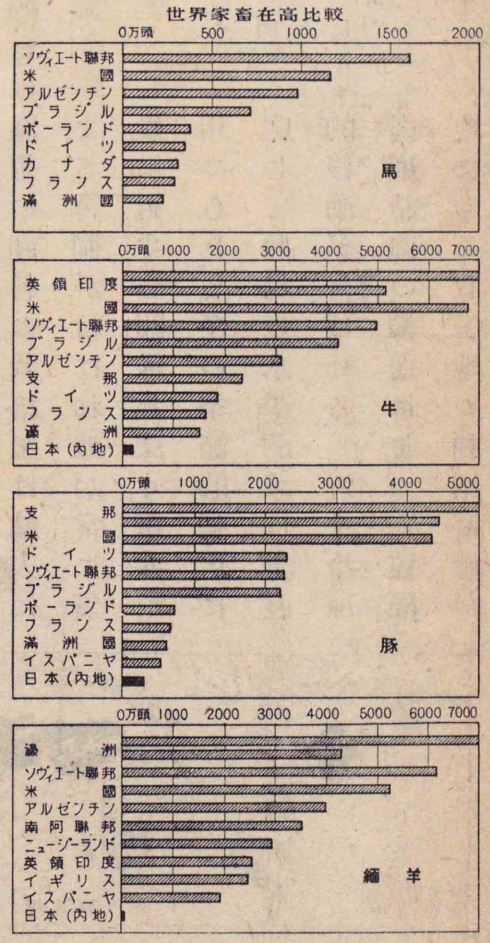
用ひられ、夏冬の季節的變化に應じて牧場の水平的又は垂直的移动が行はれる。近來冷凍肉、罐詰肉の輸送によつて遠隔地にある牧畜地の利用價值が



高められた。

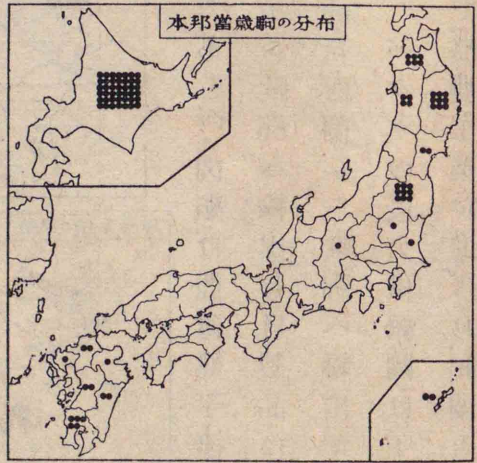
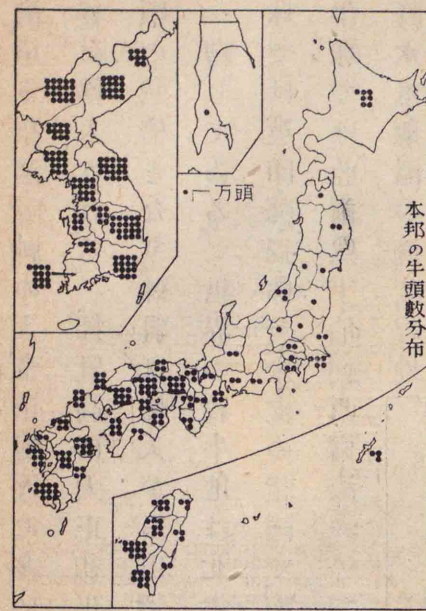
歐米人は夙に肉類・酪製品を常食とし、毛皮類を衣服必需品としたため、牧畜業の發達は顯著である。従つて消費

地は歐米の人口密度の大な工業地域であるが、之が供給は人口密度の小さな亞爾然丁のパンパの平原濠洲の中央平原、北米の西部地方等の放牧地か、北米の中央平原、英佛獨蘭丁等の比較的人口密度の大な舍飼地かである。大放牧地は温帯草地、サヴァンナに大規模なものが多く、寡雨地帯と一致する。山地及び寡雨地には、リヤマ、アルパカ、駱駝等の特色ある家畜を飼育するものもあるが、馬・牛・豚・羊・鶏の如きは最も普通の家畜である。

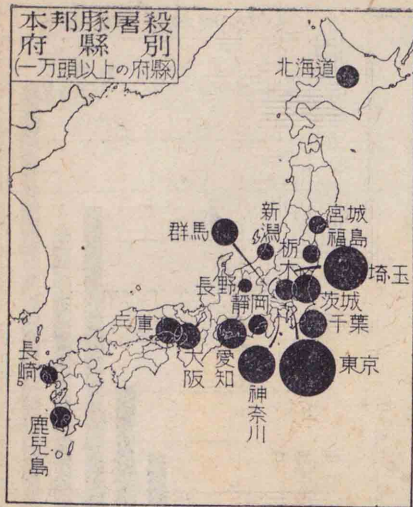


東亞の季節風帯は食料農業を主とするに反し、歐米の温帯半乾燥地帯は有畜農業を主とする。近時我が國民生活様式の變化は有畜農業を勃興せしめたが、未だ人口に對する家畜數は歐米諸國に比して遙かに少い。

馬 馬は温帯以北に限られ、中歐西歐の文化地帯と東歐の農業地帯とに多く、亞細亞は



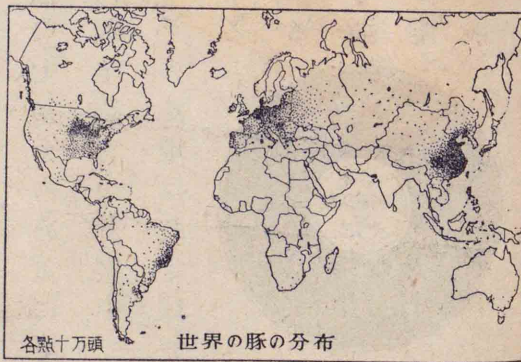
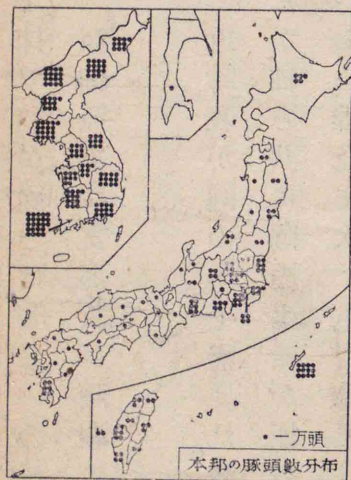
亞刺比 亞蒙古の乾燥地帯に多い。南米北米も亦盛に飼育される。 南米北 我が國の役肉牛は約九割を占め、乳牛は僅一割に過ぎぬが、需要の増加に伴ひ最近急増しつつある。 役肉牛は西南日本に多く、乳牛は北



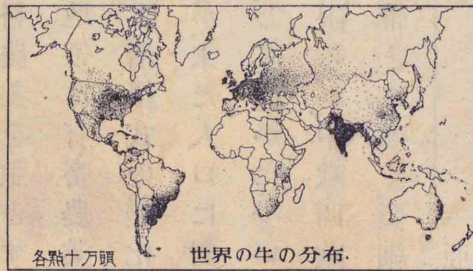
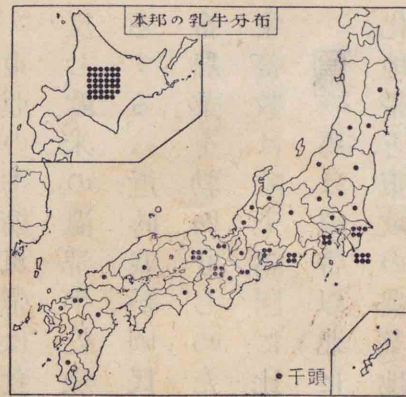
日	英	佛	獨	米	丁	抹
本	國	國	國	國	抹	抹
一	七	一	三	四	一	一
四	四	五	四	八	三	三
					六	六
					一	一
					頭	頭

人口千人に對する養豚數

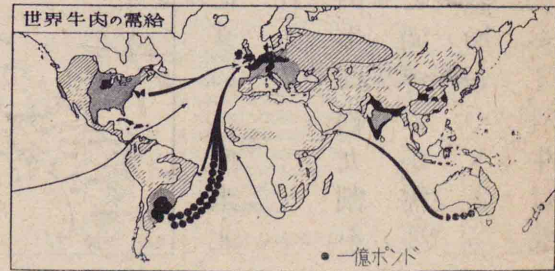
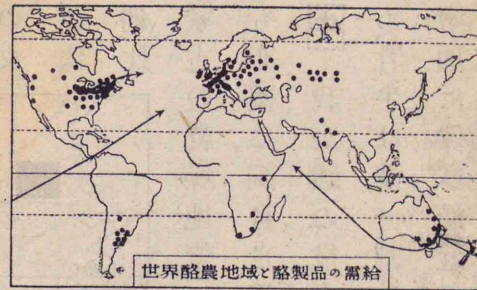
養豚率の首  
一致するが、  
鈴薯産地と  
る玉蜀黍馬  
國で、飼料た  
國は米・獨兩  
多し。世界の養豚



亦盛である。  
我が内地の飼養戸數  
は農業戸數の約一割で、副業  
としては比較的有利なもの  
で、有畜農業の一つとして急  
進的に増加し、沖繩縣・臺灣の  
外、京濱・阪神の大都市附近に

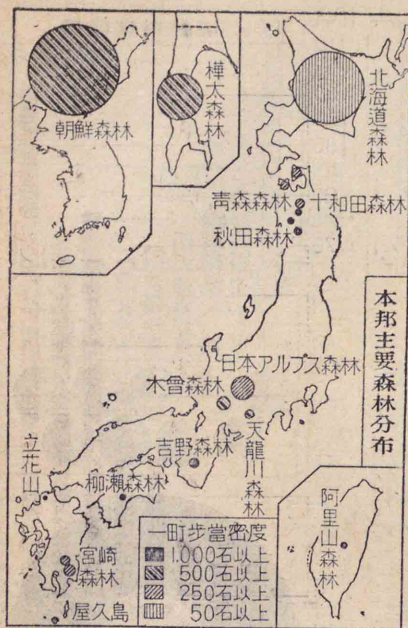


海道と京濱・阪神の大都市附近に多い。  
盛に移入される。搾乳高は大正初年  
頃の三倍となり、煉乳は輸入から出超  
へ轉じてゐる。世界の牧牛地は北半  
球では英・印・蘇・獨・佛・英・米・支の諸國で、南  
半球では亞爾然丁・伯刺西爾・濠洲等で、  
降水量・氣温の適度な地



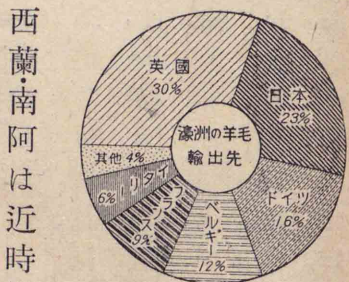
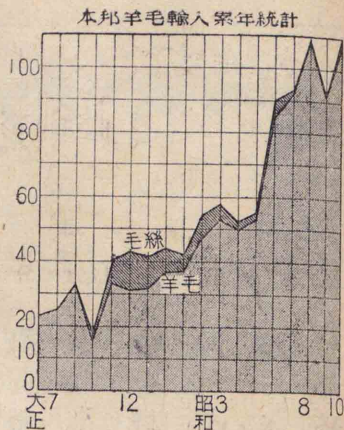
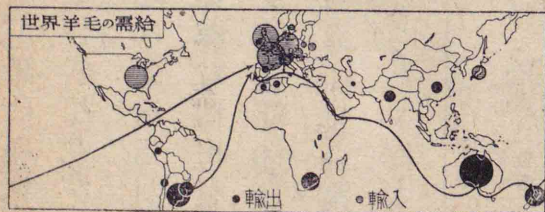
域である。肉類は亞爾然丁・濠  
洲から歐洲へ輸出し、乳製品は  
濠洲・新西蘭から歐洲へ輸出す  
る。バター最大の供給國は丁  
抹で、酪農工業が進歩し、和蘭も

朝鮮牛は内地へ

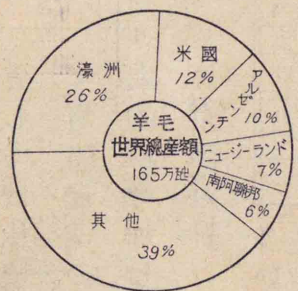
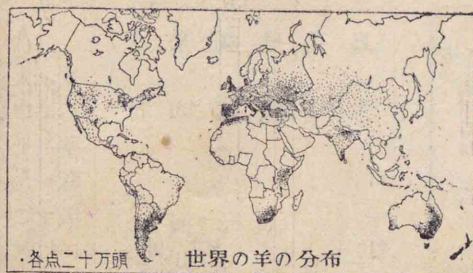


第三節 林産

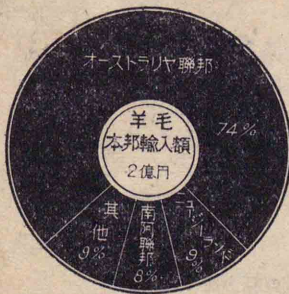
**木材木炭** 世界の森林は北部寒帯性針葉樹林と熱帯原生林とに二大別される。北部森林帯は新舊兩大陸に長く互り朝鮮樺太北海道はその延



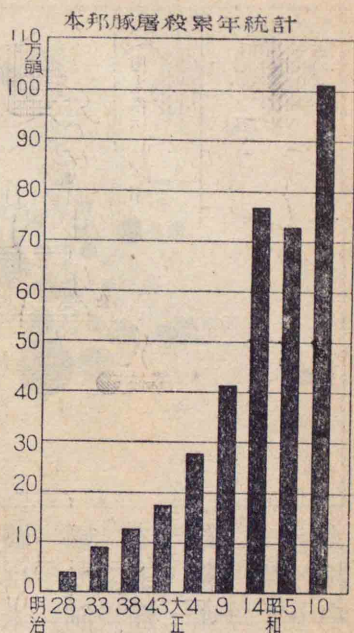
蘭南阿の順位である。英領内の産額は世界總産額の半に達し、濠洲は羊毛供給國として第一位である。我が輸入羊毛は濠洲が首位で、新



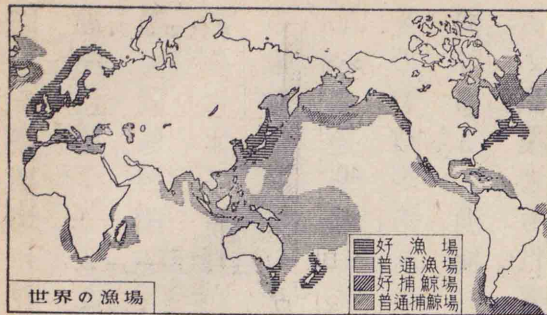
米國、南半球では大草地に放牧する亞爾然丁濠洲南阿の三地方で、羊毛の産額は濠洲が首位で、米國、亞爾然丁、新西



歐洲と、放牧によるは舍飼を主とする。滿洲では緬羊飼育の計畫中である。世界の羊毛の産地は、北半球で



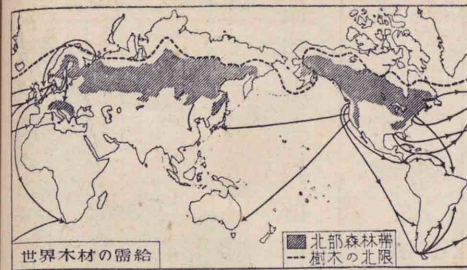
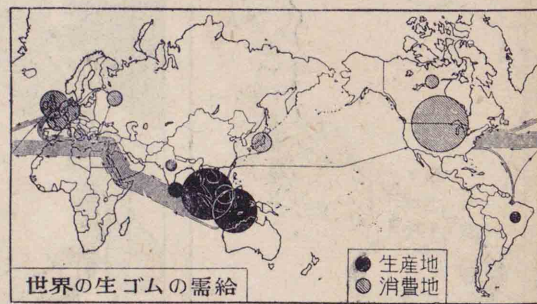
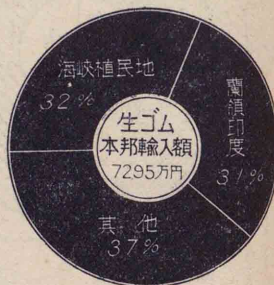
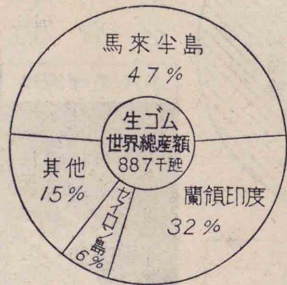
位は丁抹で、我が國とは著しい差がある。亞細亞では支那及び滿洲に多い。近時我が國の羊毛需要は激増したが、棉と共に國內生産が極めて少いたため、棉花に次ぐ重要輸入品で、我が輸入總額の七%を占めるに至った。滿洲では緬羊飼育の計畫中である。世界の羊毛の産地は、北半球で



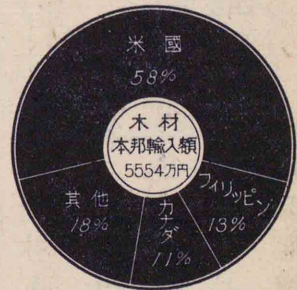
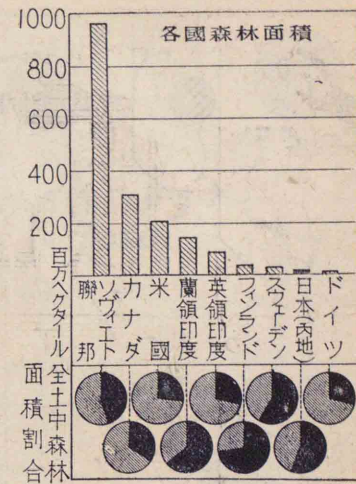
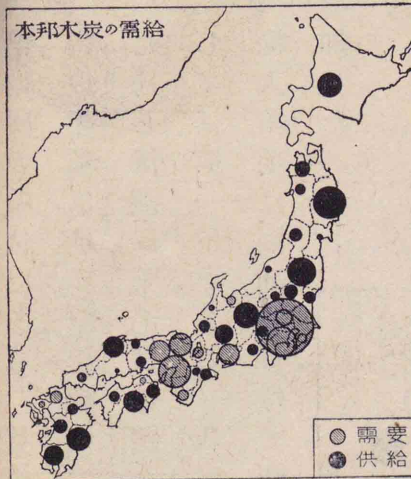
手・福島等の森林縣が主で、多く農閑期利用の副業的生産物である。ゴムは熱帯多雨地に産し、近時邦人の活動する馬來・蘭領印度と錫蘭島とに多い。最近我が國は米・英獨に次ぐ世界第四位のゴム工業國になつたが、原料の生ゴムは總て海峽植民地及び蘭領印度に供給を仰いでゐる。我が國はもとゴム靴製造が主であつたが、最近ではタイヤの製造が多くなつた。

#### 第四節 水産

水産業は主に臨海地域の住民の營むもので、漁場に



材等があるが、出材量は必ずしも多くない。たゞ樺太のみが相當のパルプ・製紙原料を供給してゐる。本邦に不足な巨材及び特殊材は米材・沿海材・南洋材を輸入する。我が國の木炭主要消費地は六大都市で、供給地は岩



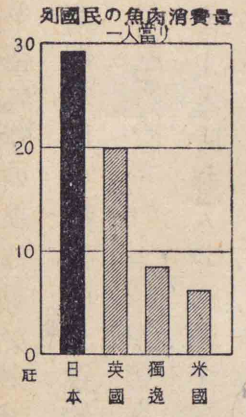
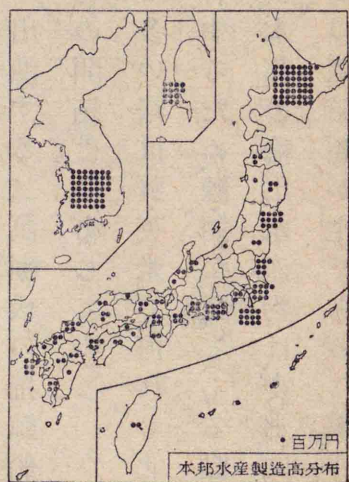
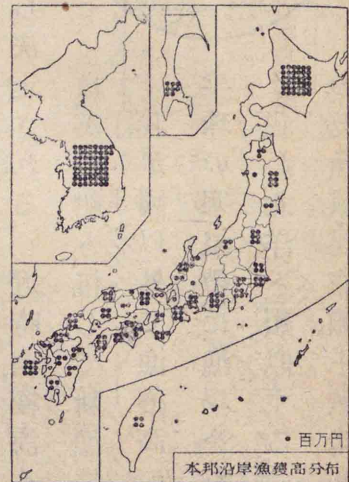
崎材、外地では樺太材・北鮮材・鴨綠江材・臺灣

材等があるが、出材量は必ずしも多くない。たゞ樺太のみが相當のパルプ・製紙原料を供給してゐる。本邦に不足な巨材及び特殊材は米材・沿海材・南洋材を輸入する。我が國の木炭主要消費地は六大都市で、供給地は岩

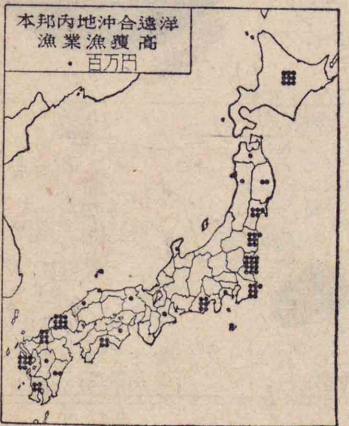
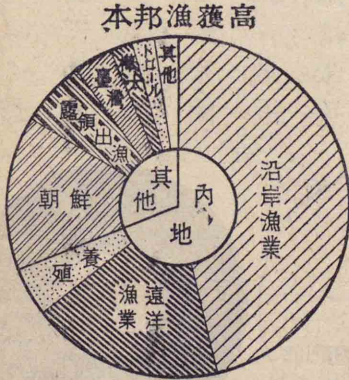
長である。我が國は森林地が總面積の半を占める森林國で、内地は北海道材を首位とし、青森材・秋田材・天龍川材・木曾材・吉野材・宮



の水産國である。我が近海は歐洲の北海、ニューファウンドランド近海と共に世界三大漁場の一である。本邦の漁業には沿岸漁業、内地沖合、遠洋漁業、汽船トロール漁業、工船蟹漁業、汽船捕鯨業、水産養殖業、外地出漁漁業等があり、漁獲

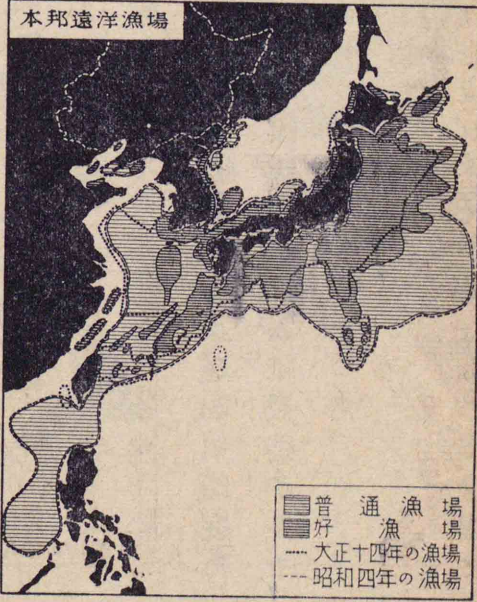
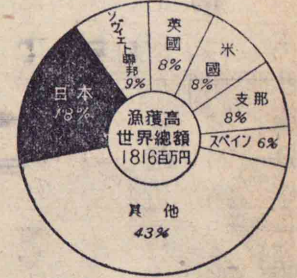


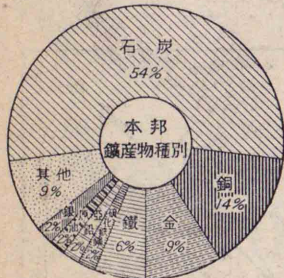
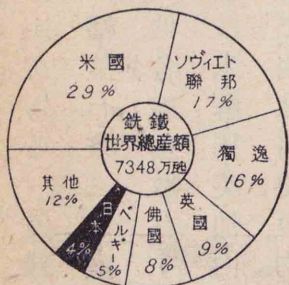
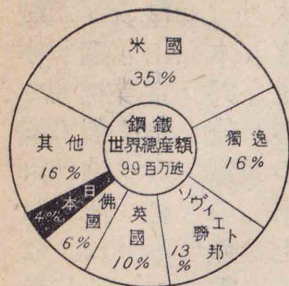
三分の一に當り、世界一



占め、漁業者も世界の約三分の一に當り、世界一の魚肉消費

適する陸棚、溺れ谷、漁港に適する入江等に關係が深い。船車による冷蔵魚の輸送は斯業の著しい發達を促した。我が國は夙に魚食の習慣があり、世界第一の魚肉消費國である。漁獲高は世界の約二割を





以上昭和十年年度統計

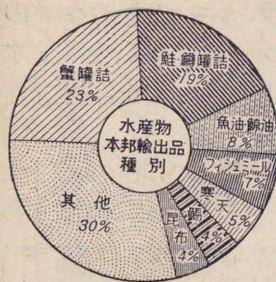
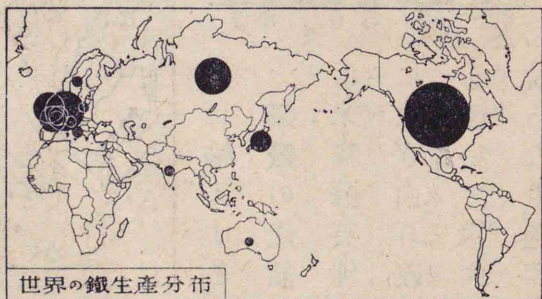
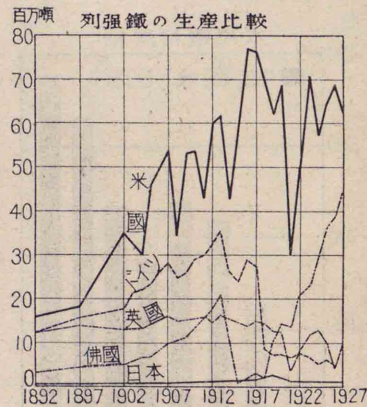


内に於ける製鹽は内地の食鹽を自給し、外地滿支に於ける天日製鹽は工業鹽として移輸入される。歐米に於ては多く岩鹽を利用する。

### 第五節 鑛産

#### 鐵

鑛産は地體構造の複雑な地域に多く、採鑛能率は深度運輸の便否、政情資本技術等の優劣に依る。本邦の鐵鑛山は釜石、俱知安、朝鮮の利原、下聖

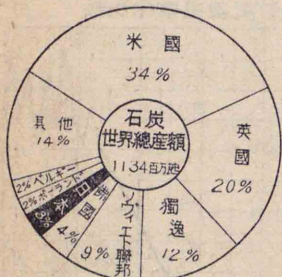
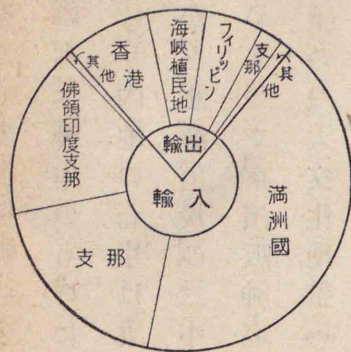


は、英諾船と伍して新漁場の開拓に従事してゐる。我が國以外で漁獲高の多い國は蘇、英、米で、何れも北半球の寒温帯に漁場を有するため、鯨、鯧が主である。我が北洋と類似する。本邦の輸出水産物は、支那向の乾魚、貝、昆布類と、歐米向の罐詰類が主である。瀬戸

高は沿岸漁業が首位を占め、遠洋漁業が之に次ぐ。遠洋漁場は最近著しく擴大し、南は比律賓、蘭領印度は勿論、濠洲、北米海岸、更に伯刺西爾まで、北はオホーツク海、ベーリング海、カムチャツカにまで及んでゐる。北洋蟹工船の活動は目ざましいものがあり、南洋群島にも漁業が新に興りつゝある。鯧、鯧、鯧等の漁場は水温等の關係によつて自ら決定される。近時南極海へ出漁する二萬噸級の捕鯨船



本邦石炭輸出入國別

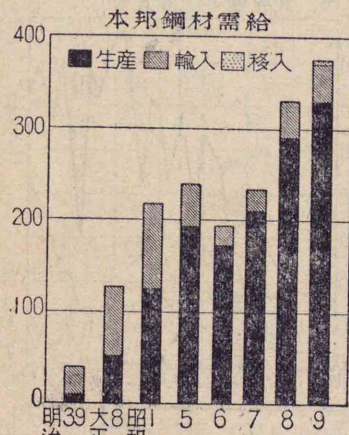
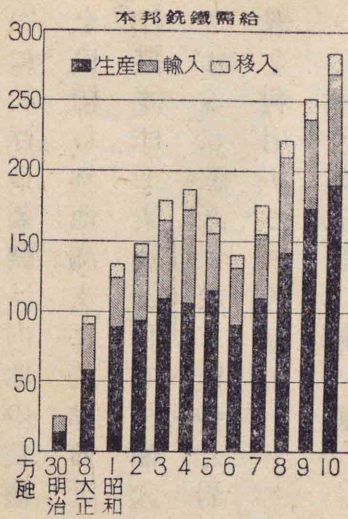


**石炭**

本邦の石炭産額は總鑛産額の半を占めてゐる。産額は米英獨蘇佛に次ぎ世界の第六位を占め、國內需要を略充してゐるが、尙撫順炭・開灤炭・山東炭等を輸入する。本邦産石炭は第三紀層中

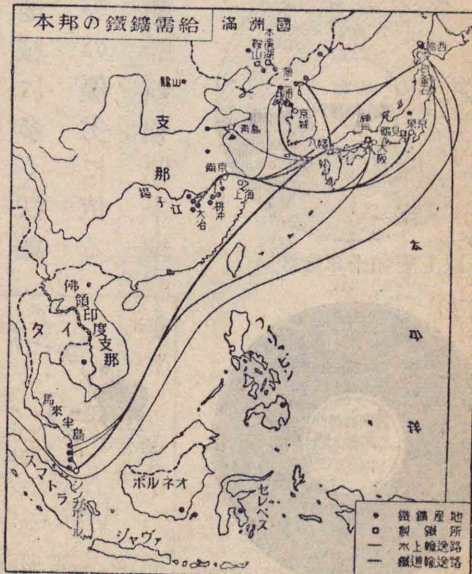
の輸入超過を防止して出超に轉じた。世界列強の鐵生産の競争は一面列強勢力の消長を示すもので、古くは英國が第一位であつたが米國が之に代り、獨國に代つて佛國が第二位となつた。我が國はこれ等競争國に近づかんと努力しつゝある。瑞典は良鑛を産するが、石炭に乏しいため原鑛のまま輸出し、英國は鐵石炭の夾在する點が強味である。

内地の鉄鐵の産額は福岡縣約七割が首位で、北海道約一割五分、岩手縣約一割五分、これに次ぐ。



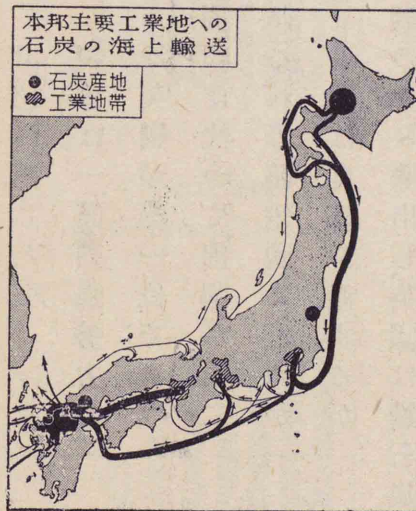
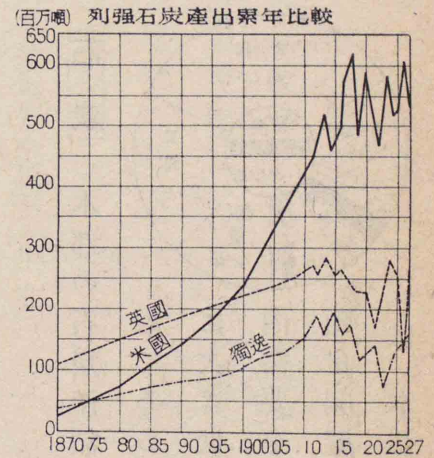
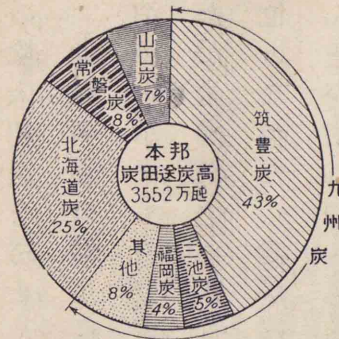
量に輸入する。鋼鐵の産額は米獨蘇英佛に次ぎ白耳義を凌いで第六位となり、連年

載寧で、滿洲には鞍山がある。鉄鐵及び鋼材製造所は八幡釜石兼二浦、室蘭、鞍山、京濱、阪神その他各地に散在する。本邦鉄鐵の産額は米蘇獨英佛白に次ぎ世界の第七位で、内地需要の約六割に當る。不足は外國からの輸入に依存し、鋼材製造の一原料として屑鐵を米英印より、鉄鐵を滿洲、英印より多

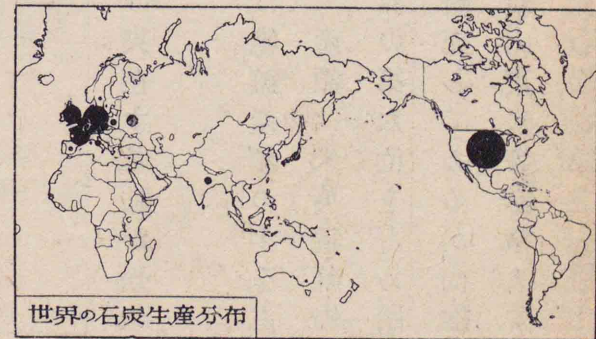




のもので、支英獨佛白米等の古生層中のものに劣る。内地の石炭は九州炭と北海道炭の二中心があつて、京濱・阪神・名古屋の三大文化地帯へ兩方面から供給する。殊に九州炭は總出炭



量の約三分の二を供給し、その内筑豊炭は最も多い。米國は自國消費が大であるか

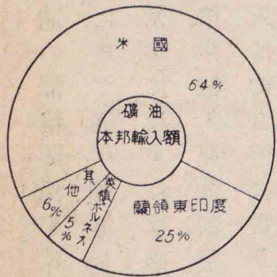
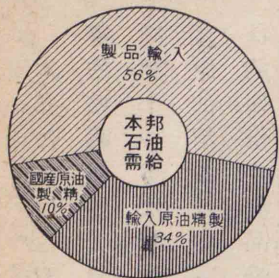


ら、輸出國としては第三位に當り、英國が首位を占め、歐洲大陸諸國への供給の中心地をなしてゐる。

**石油** 我が油田地帯

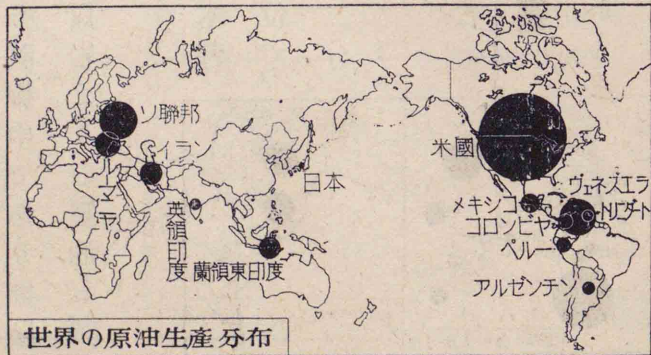
は樺太より北海道裏日本臺灣に通ずる第三紀層の

地域を主とし、我が石油の需給は國産原油からの精製が甚だしく、他は輸入に仰いでゐる。需要の大部分が海外資源に



**石油(原油)の産出は**  
秋田縣が約六割、新潟縣が約三割五分を占める  
(昭和十年)

分が海外資源に依存してゐる點は、棉花及び生ゴムに類似する。世界の産額は米國首位を占め、蘇聯、ヴェネズエラ、ルーマニヤ、イラン等之に次ぐ。



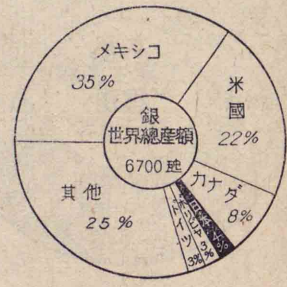
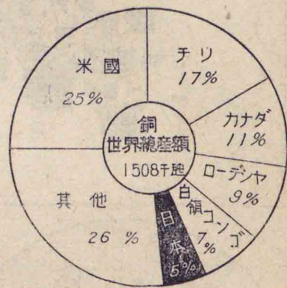
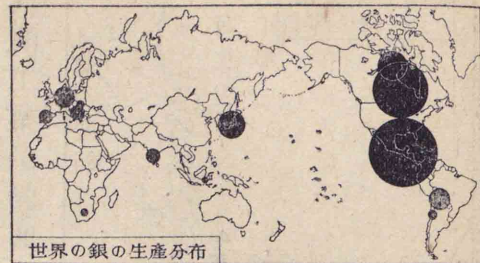
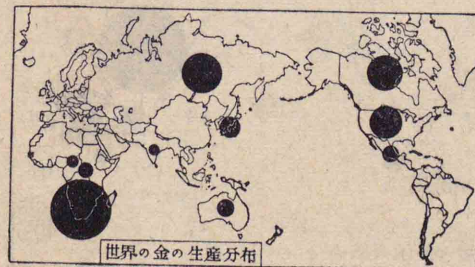
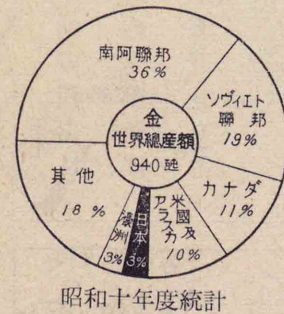
本邦に於ける石油の需給關係を累年の視れば大體に於て逐年増加し、昭和十一年は昭和元年に比すれば國産原油(精製)は約一倍半、輸入原油(精製)は約四倍半、製品輸入は約五倍に當り、この三種の總量は約四倍に達してゐる。

我が國への輸入は米國が過半を占め、蘭領東印度、英領ボルネオが之に次ぐ。北樺太油田も試掘中であり、撫順に於ては油母頁岩よりの製油も試みられてゐる。

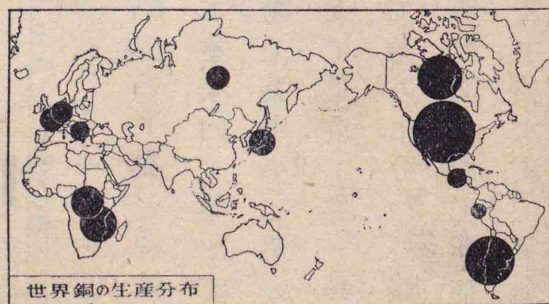
**金・銀・銅** 本邦

金の産額は本邦が首位で、茨城縣・北海道・秋田縣・愛媛縣がこれに次ぎ、朝鮮は平安南北道が主で、咸鏡北道・忠清南道がこれに次ぐ。銀の産額は秋田・茨城・愛媛・大分の四縣が略等しく、北海道がこれに次ぐ。

金の産額は世界の第五位で、第一位の南阿聯邦の一二分の一に當る。銀産額は墨西哥に次いで第一位の南阿聯邦の一二分の一に當る。



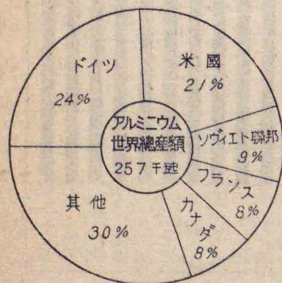
以上昭和十年度統計



つたが、第一次大戦後智利・白領コンゴ等に大鑛床が発見されるに至つて第六位となつた。

**アルミニウム**

我が國はアルミニウムの原料たるボーキサイトの資源に乏しいため、外國より輸入を仰いでゐたが、最近アルミニウムの製造が起り、輸入を軽減するに至つた。

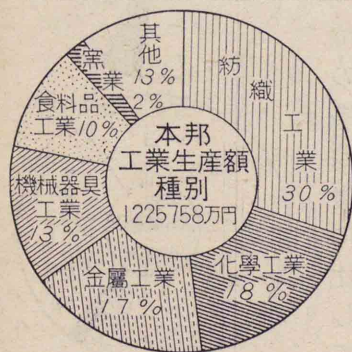
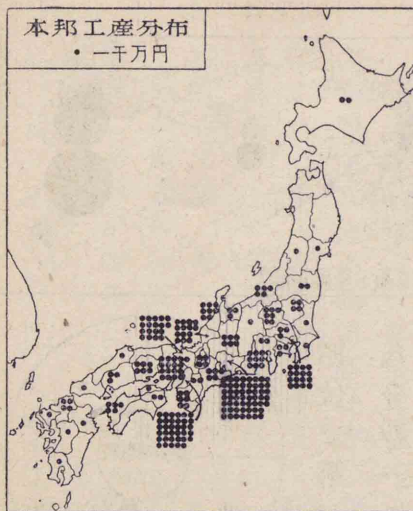


域に見出される。世界の工業地帯は歐米に各大中心地があり、他の一中心地が東亞に於ける。

(世界重要原料資源主要生産國百分率)

資源名	主要生産國(世界産額に對する百分率)
石炭	獨逸 28%
石油	獨逸 61%
鉄	獨逸 17%
鋼	獨逸 17%
銅	獨逸 17%
鉛	獨逸 17%
亜鉛	獨逸 17%
アルミニウム	獨逸 17%
錫	獨逸 17%
羊毛	獨逸 17%
棉花	獨逸 17%
絹	獨逸 17%
人造絹	獨逸 17%

屬工業等にも分けられ、又紡織工業・金屬工業・機械器具工業・窯業・化學工業・製材及び木製品工業・食品工業等にも分類される。工業の發達は文化と相關的關係にあり、地勢氣候が良好で、動力・原料・勞力・資本が豊富であり、消費地に近く、交通運輸に便利で、科學の進歩せる地域に見出される。



昭和十年度統計

工業は各種の標準から手工業と機械工業、家内工業と工場工業、中小工業と大工業、重工業と輕工業とに分つ外、農産工業・畜産工業・林産工業・水産工業・金

亞鉛鉛錫・ニッケル 亞鉛鉛は米國、錫

は英領馬來、ニッケルは加奈陀が主で、何れも國産少く歐米より輸入してゐる。

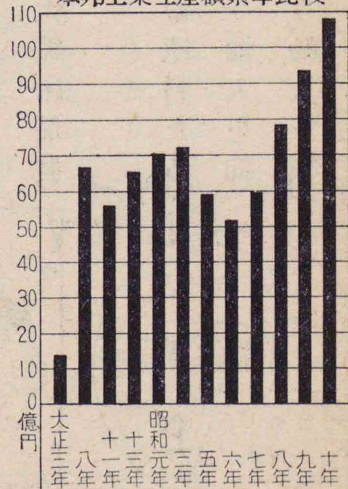
第六節 工業

工業

工業は十八世紀の産業革命以來急激に變化して、各國に大規模な近代工業が勃興した。

工業は各種の標準から手工業と機械

本邦工業生産額累年比較



る我が國で  
ある。歐洲  
に於ける英  
獨佛白蘭の  
諸國及び米  
國は世界有  
數の工業國  
で、殊に英米  
獨は世界に  
覇をなす國

係關の需給關係  
(國內需要に對し國産を以て充し得る%)

資源名	石炭	石油	鐵鑛	銑鐵	銅鑛	鉛鑛	亞鉛鑛	錫鑛	羊毛	棉花(綠綿)	亞麻	人造絹絲	生ゴム	國名
英	一三〇	一〇四	七〇	一〇	六二	一	一	一	一	一	一	一	一	英
米	一〇〇	九七	九七	九七	七九	五七	九八	八八	二六	二九	二九	一〇	一〇	米
佛	七二	一一	〇〇	〇〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	佛
獨	一〇七	四〇	三〇	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	獨
伊	一五	一〇	九〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	伊
蘇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	蘇

である。我が國の近代工業は僅か半世紀の間に驚くべき長足の進歩を  
なして、世界一流の工業國の壘を摩しつゝある。我が工業地帯には阪神  
京濱名古屋北九州の四大中心地がある。

原料資源

世界各國の原料資源について考察すれば、本國のみに於

ては米蘇兩國を除き、  
錫・ゴム・石油・棉花・羊毛  
麻・銅・亞鉛等の共通不  
足を見る。又本國に  
植民地を加ふる時に  
は、英(帝國)・米・蘇三國の  
重要原料資源生産は  
世界生産に對して支  
配的地位を占めてゐる。

強列を含む原料資源に對する自國領及び植民地世界の生産百分率

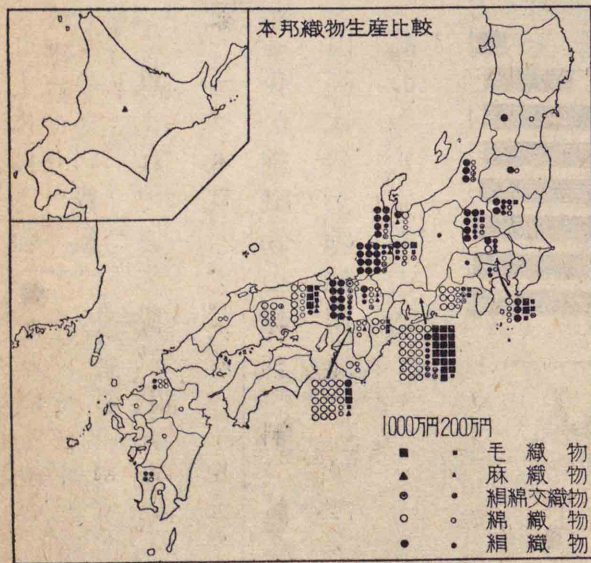
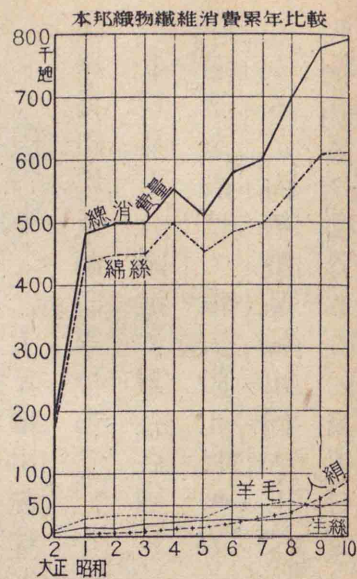
資源名	石炭	石油	鐵鑛	銑鐵	銅鑛	鉛鑛	亞鉛鑛	錫鑛	羊毛	棉花	亞麻	生ゴム	國名
英	二四%	一	二八	四三	三一	四二	三	四	五	一	一	五	英
佛	四%	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	佛
蘭	一%	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	蘭
米	三四%	五九	一五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	米
蘇	一八%	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	蘇

本邦工業原料國産の割合は甚だ小で、多くの輸入を必要とするが、島國  
で低廉な運賃で遠隔の地から原料を輸送し得る便宜を有する。かくて  
米國・英領印度・濠洲・南洋・歐洲・滿洲・支那・埃及等の各地より工業原料を輸入  
して我が工業の驚異的發達をはかつた。

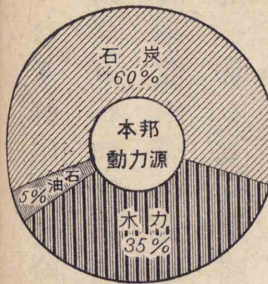
動力源

我が工業の動力源としては石炭が最大で、水力電氣が之に

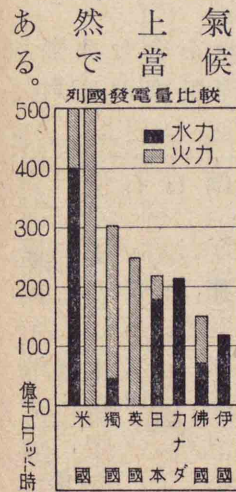
原料棉消費割合に於ては我が國は世界の第二位を占め、英國は第四位に當る。世界關係市場に於て我が綿織物の輸出量は既に英國を凌ぎ、棉花の消費高、綿絲、綿織物の生産高共に英國に優つてゐる。たゞ綿絲の輸出高のみは英國が著しく多い。我が國が亞細亞及び阿弗利加に於ける未開市場を



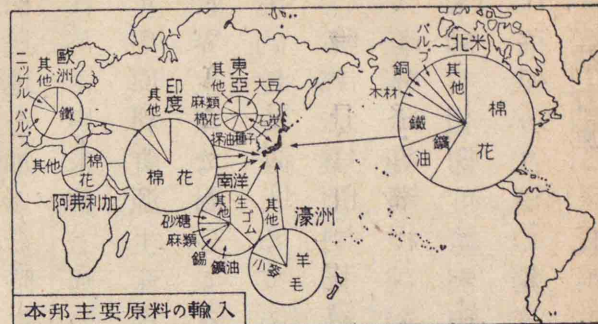
我が内地に於ける水力発電は中央日本の日本海斜面がすぐれてゐる。  
**綿絲・綿織物** 我が紡績錘數は最近佛獨を凌いで、英・米に次ぐ第三位となつた。



昭和十年度統計

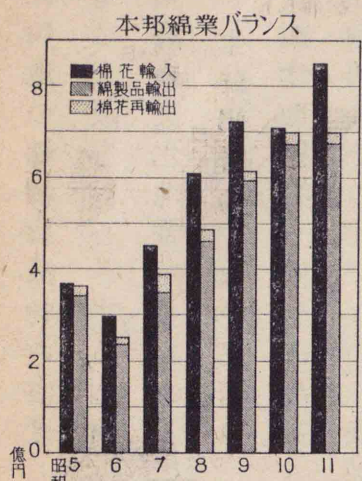


本邦の電力の用途は化學工業が首位を占め、機械工業、染織工業、飲食品製造工業、採鑛及製鍊業等これに次ぐ。



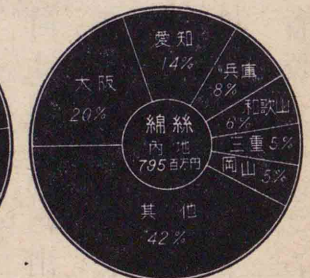
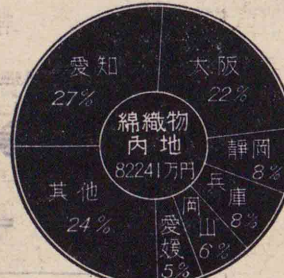
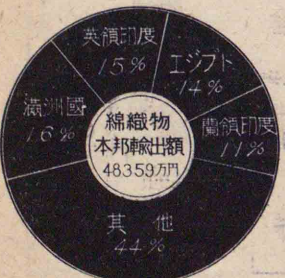
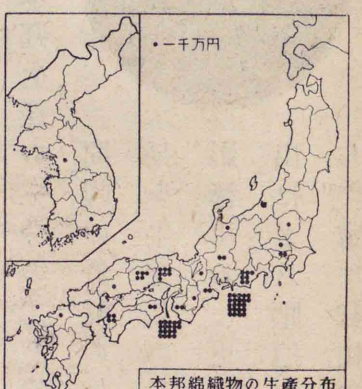
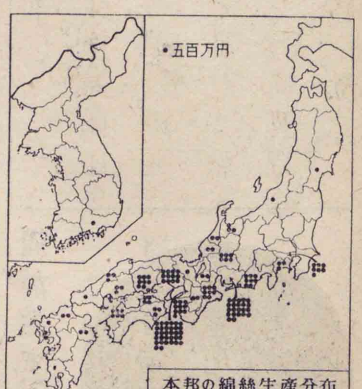
本邦の工業原料の需給については一三八頁の「本邦重要資源の國內需要額に對する不足又は過剩額の割合」を参照。その外國産にて全額を充すものは人絹、約四分の三を充すものは小麥・パルプ・木材、漸く約四分の一を充すものは採油種子、鹽・麻等である。その内採油原料は約二分の一は滿洲より輸入し、鹽は外地と滿洲とから約六分の一を輸入し、その他は廣く海外から輸入する。

次ぐ。我が電力は累年激増し、米・獨・英に次ぐ世界の第四位で、發電所の大部分が水力發電であることは地勢。

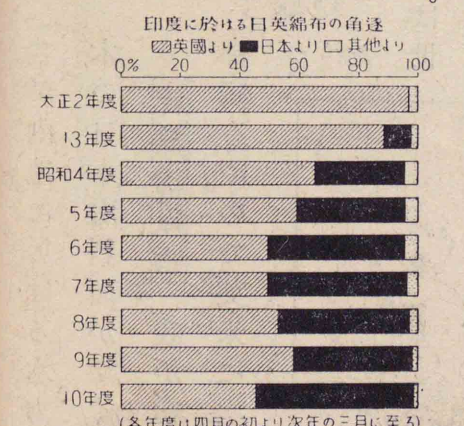
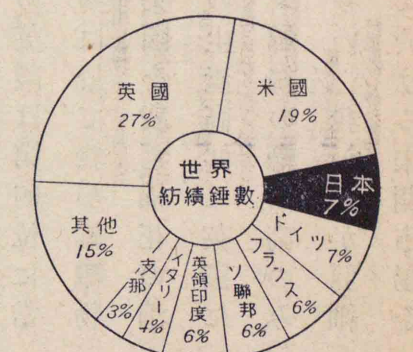
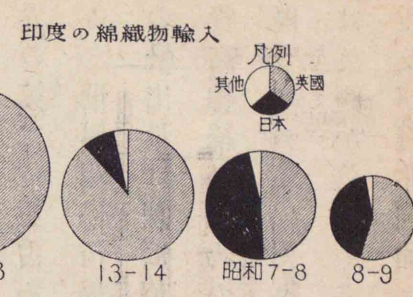


岸に於ける我が勢力は圧倒的である。輸入棉花の金額は甚だ大であるが、大部分は綿製品の輸出によつて相殺されてゐる。現在我が輸入棉花の約六割は輸出製品原料である。

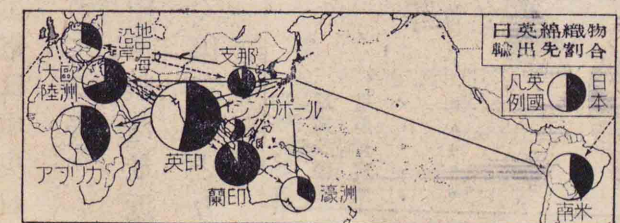
の綿織物の競争は激しく、英領印度に於てさへ、本邦綿織物の進出は顯著であり、蘭印支那地中海に於ける我が勢力は圧倒的である。輸入棉花の金額は甚だ大であるが、大部分は綿製品の輸出によつて相殺されてゐる。現在我が輸入棉花の約六割は輸出製品原料である。



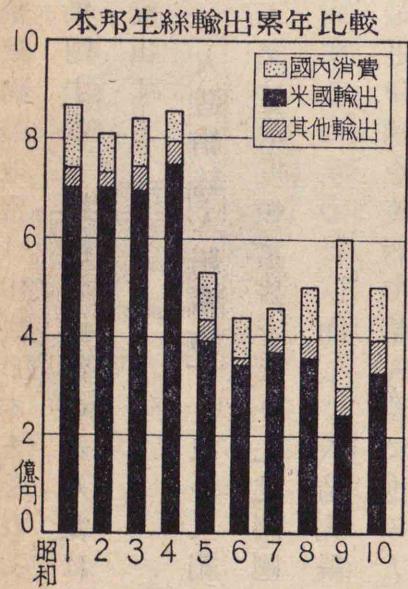
世界の第一位である。最近日英満洲英印埃及蘭印等である。かかる貿易上の躍進に對し、各國は防退策を設けて輸入阻止に努めてゐるが、尙綿製品輸出國として



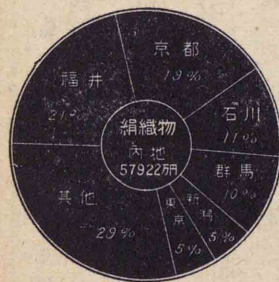
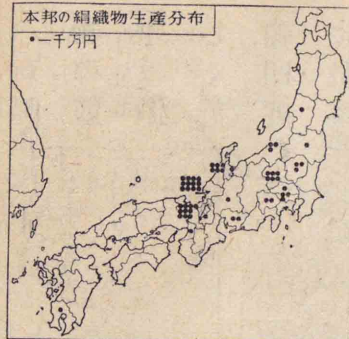
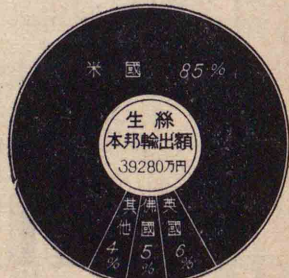
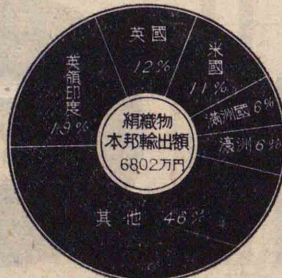
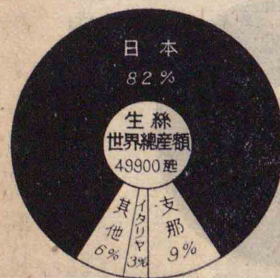
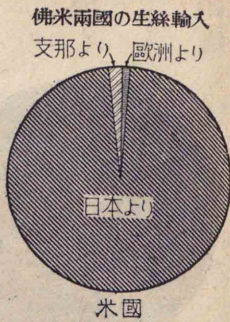
近くに持ち、湿度の多い氣候に恵まれてゐる點は、我が強味の一つである。我が綿織物の輸出高は我が總輸出の一八%を占め、



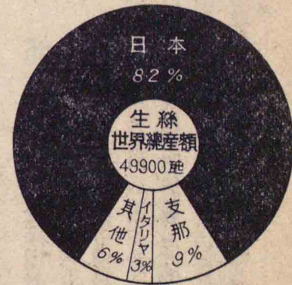
物の輸出は比較的少く、人絹織物の半にも及ばない。輸出先は英印英米満濠の諸國である。佛國は自國産の生絲の外多量の生絲を日支伊より輸入し、優良な絹織物を製造する。本邦の



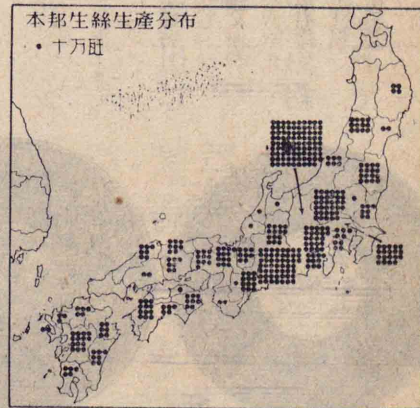
た生絲は最近綿織物に次いで第二位となつた。内地に於ける製絲區域は中央日本を核心とし、奥羽以南に普遍することは養蠶地帯の場合と類似する。生絲の輸出は大であるが、絹織

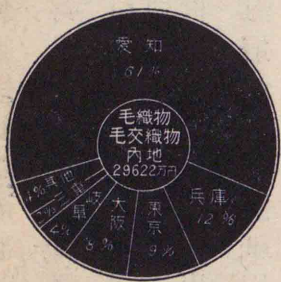
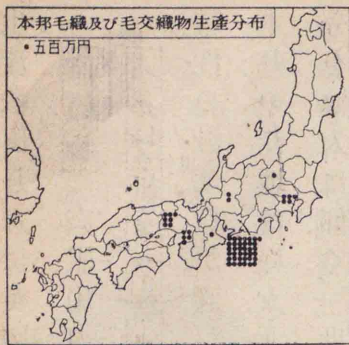


内地の綿絲・綿織物の多産地は、大阪を核心とする關西・東海の文化地帯が主である。生絲絹織物 我が生絲の産額は世界第一位を占め、支伊兩國はその比でない。我が生絲の原料は自給自足し、我が資源の内独立性の強固なものである。世界の主要消費地は米國で、歐洲之に次ぎ、我が生絲の輸出先は米國が主で、本邦生産の三分の二を輸出する。従つて



同國の景氣の如何は輸出量に消長を生ぜしめ、我が農村の經濟に影響する。更に最近是人絹の進出による壓迫も甚だしい。かくして常に輸出の首位を占めてゐる。



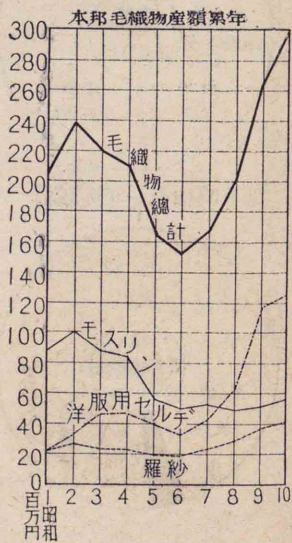


著しく増加して輸入を防退し、却つて輸出をさへなすに至つた。従つて原毛の輸入量も激増した。我が國の毛織物業地帯は愛知縣を首位とする。歐米各國は自國産の羊毛の外、多量の輸入によつて毛絲毛織物を

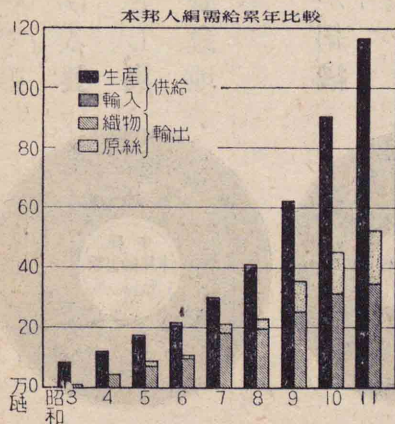
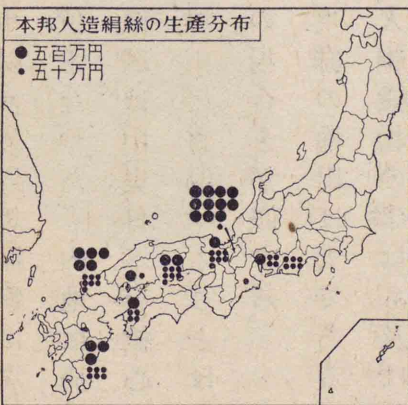
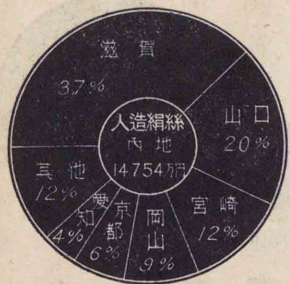
毛絲毛織物

我が毛絲工業は毛絲類の輸入を抑へ、毛織物業は製造

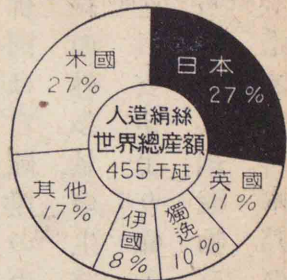
物輸出額は絹織物輸出額を凌駕し、綿織物生絲に次ぐ重要輸出品となつた。その輸出先は英印滿濠を主とし、蘭印之に次ぎ、世界各地に進出しつゝある。人絹工場は大津岩國延岡等の各地に設けられ、人絹織物業は在來の紡績工業地と略一致し、絹織物業・綿織物業からの轉向又は兼業のものも少くない。又人絹絲と絹絲綿絲との交織も行はれる。



絹織物  
て人  
かく  
る。  
であ  
ては  
夙に  
世界  
第一  
位



を抜いて米國と比肩するに至つた。而して人造絹絲の輸出國としても、最近伊國を凌いで第一位に進み、人絹織物の輸出國としては夙に世界第一位



人造絹絲人絹織物

我が人絹

絹織物業地帯は中央日本と、それに接續する京都府に集團する。絹織物業額の約八割は國內消費で、二割は輸出する。





生産輸出し、殊に英國製品は品質産額共に世界第一位である。

**麻織物** 衣服用の亞麻工業は英・白蘇の諸國に盛である。

**パルプ・紙・スフ・薬品・人造染料・化学工業製品** パルプ用材は寒

帯性の針葉樹が適し、世界のパルプ産出國は米・加・瑞・獨・芬・蘭等である。

本邦の産地は樺太・北海道が主で、製紙用は略自給し、上質の人絹用は大部分を輸入に仰ぐ。世界の製紙國は米・加・獨・英・瑞・典・日・の順である。我が國

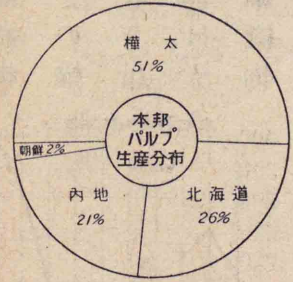
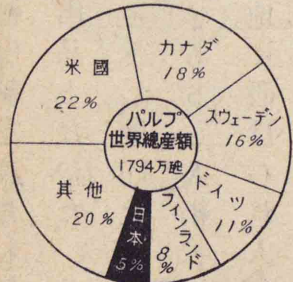
は新聞用紙を輸入し、諸種の紙を東洋諸國に輸出してゐる。國內の産地は樺太・北海道と東京・静岡の諸府縣で、在來の和紙は本邦の特産であり、高知・岐阜・静岡等の諸縣に産する。近時興つたスフ（ステープルファイバー）は時

局の影響で著しく利用されつゝある。

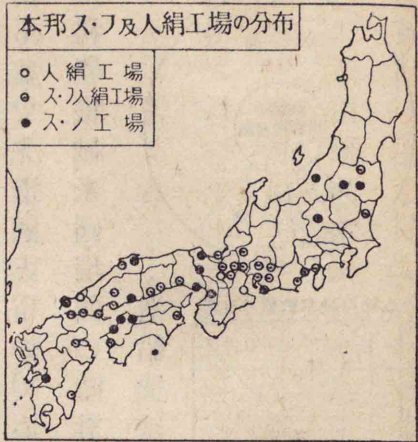
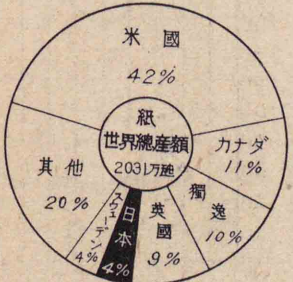
醫藥用藥品は獨瑞

西・工業用藥品は獨

米・英・佛が主産國で、



以上昭和十一年度統計



人造染料は獨逸が世界の半を産し、これ等は何れも國産も激増したが今尙輸入も行はれる。人造肥料の硫安・石灰・窒素・磷酸肥料等の生産は米・獨兩國が主で、我が國は自給に近づきつゝある。

**硝子・セメント・陶磁器** 硝子工業は米國の

大量生産の外、白耳義の板硝子は我が國が米・白を凌いで首位に達し、精巧な光學用のもののみ輸入してゐる。セメント

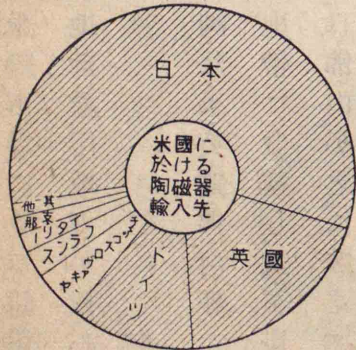
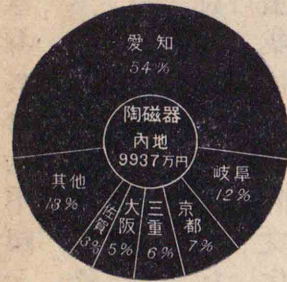
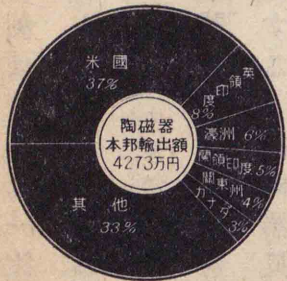
は米國に次ぎ

世界第二位で、

輸出も多い。

陶磁器は我が

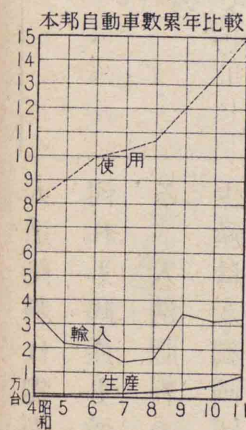
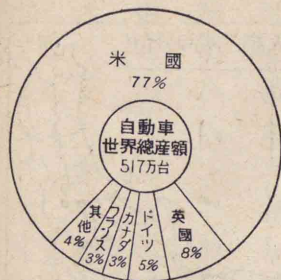
國の傳統的工



業の一つで、輸出額は世界第一位を占め、英・獨兩國と米國市場に於て競争し、英・印・蘭印等にも進出してゐる。本邦の陶磁器産地は濃尾地方が核心地である。

**金屬及び機械器具**

金屬精鍊（製鋼精銅等）の盛な國は米・英・獨・佛・白等で、英・獨は良品を産する。機械器具工業は科學的文化地帯に發達し、鐵・石炭の産出とも關係する。英・米・獨の三國が最も發達し、日・佛・白が之に次ぐ。我が電機工業は自給し、且つ米・英・獨に迫つてゐる。紡績機械も自給し、輸出も盛で先進國と争つてゐる。米國のタイプライター・ミシン機械、獨國の科學機械、米國、瑞西の時計等は世界的に有名で、我が國へも輸入される。造船業は英・米・獨・日等が盛で、殊に英國は卓越し、我が造



船業も自國の需要を充してゐる。自動車工業は米國が世界の大部分を占め、我が國も年々自動車及び部分品を

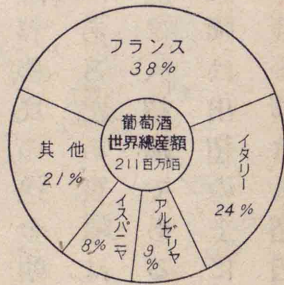
輸入してゐる。國産は部分品と小型自動車に特色がある。又我が國は英・獨兩國と共に世界の三大自動車輸出國である。航空機工業は米・獨・英・佛等に盛であるが、我が國も最近は技能に於て遜色がない。

**食料品**

製粉工業は歐米諸國に盛である。酒類の國際市場に現れるものには、佛國の葡萄酒、獨逸の麥酒等がある。葡萄酒の醸造は、佛・伊兩國が過半を占め、輸出が多い。麥酒の醸造も我が國は輸出の地位にまで發達した。我が罐詰工業は水産罐詰が半を占め、輸出品多く、果實・蔬菜・畜産物等に次ぐ。

第七節 貿易

原始時代には各民族は自給自足であつたが、後分業が起つて物々交換が行はれ、遂に現在の如き貨幣媒介の商取引が行はれるに至つて、商業は大いに進歩し、今や國內商業のみならず國際商業即ち外國貿易が世界各

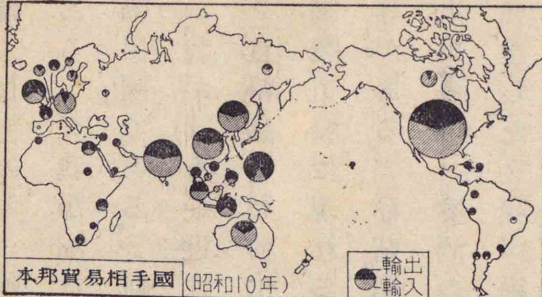


國の間に行はれるに至つた。外國貿易の盛否はその國の産業の外、關稅政策、貨幣制度の如き國家の政策も關係する。

往時は市場が各地に定期に開かれたが、次第に衰へ、今は舊定期市がそのまゝ残存する所もあるが、多くは常時店舗となり、都市には魚市場、青物市場等の新市場も開かれてゐる。かゝる市場、店舗、都市等はそれぐ一

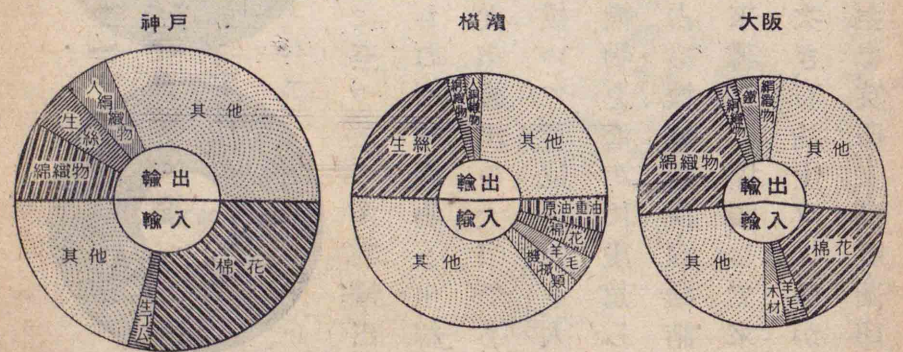
定の商圈を有する。倫敦、紐育兩都は世界に於て、東京、大阪兩都は國內に於て、各大商圈を所有する。

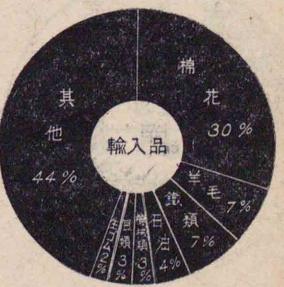
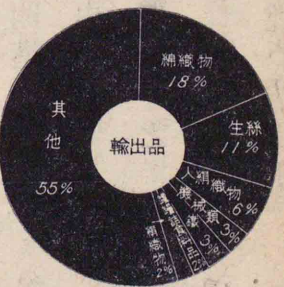
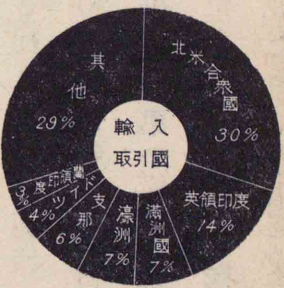
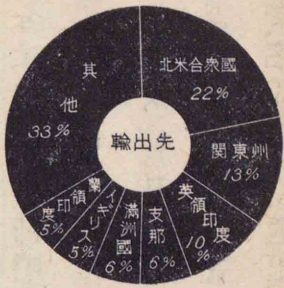
輸出超過は原料供給國に多く、輸入超過は工業國の場合に多い。然し國際間には貿易收入の外、外債の利子、海外投資の元利金、汽船の運賃、保險料、移民の送金、觀光事業の收入等貿易外の收支勘定があるため、實際は入超も調節されることが多い。英國は入超國であるが、貿易外の收入によつて調節され、米國は出超の上に、貿易外の收入もある投資國である。我が國は入超國



であるが、貿易外収入を加へると受取超過になる。又輸入品を再輸出して、通過貿易又は仲繼貿易を行ふ英、蘭、白等の如き國もある。開港場又は開市場に稅關を設けて自國産業(國內産業)を保護する保護貿易主義の國もあれば、稅を課さない自由貿易主義の國もある。しかし最近は經濟的國家主義が盛となり、自國産業を保護するため、各國とも保護貿易主義をとらざるべからざる國際情勢となつた。従つて片貿易を避けるため求償主義(バスター主義)が高唱されるに至つた。開港場には眞の仲繼貿易のために設けられた自由港もある。世界の貿易額は英國が第一位で、米、獨佛等之に次ぎ、我が國は第五位である。我が國は近年國際市場に著しく進出したので、各國は各種の防遏手

神戸・横濱・大阪三港の主要輸出入品割合





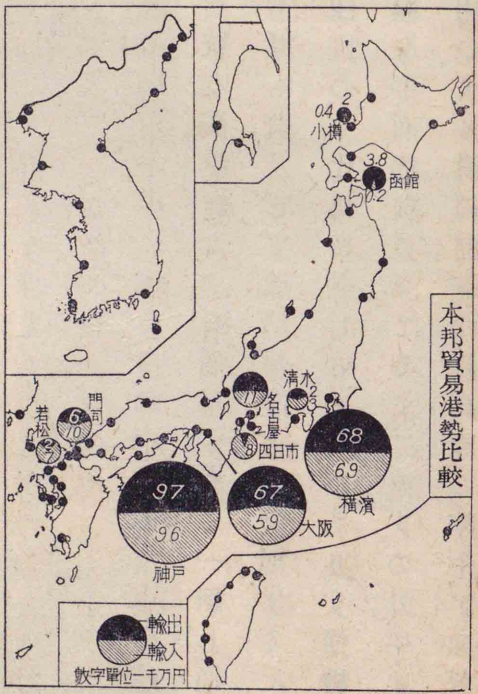
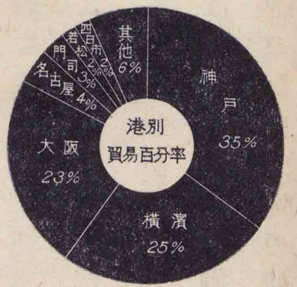
列國貿易(再輸出を含む) — 金貨換算額單位百萬圓 —

國名	輸出	輸入	合計
英國	二、四七九	四、〇八四	六、五六三
米國	二、六六二	二、四二〇	五、〇八二
獨逸	二、〇四〇	一、九八七	四、〇二七
佛國	一、二一二	一、六四一	二、八五三
日(内地)	八三六	八二六	一、六六二
伊國	三六二	五五六	九一八
蘇聯	三七八	二四八	六二六

た。輸入品は棉花が依然首位を占め、羊毛、鐵が之に次ぎ、石油、生ゴム等が新に進出して來た。本邦の輸出先は米國、關東州が主で、英印、支、滿、英、蘭印

段を講ずるに至つた。本邦輸出品の主要なものは綿織物と生絲で、綿織物は從來輸出の大宗であつた生絲を抜いて首位となり、人絹織物は絹織物を遙かに凌駕して第三位を占め、機械類、鐵、罐、罐詰食料品が近來著しく擡頭して來

之に次ぎ、輸入取引國は米・英印が主で、滿濠・支、獨、蘭印之に次ぎ、原料資源の輸入が多い。輸出入總額から見ると米國が首位を占め、英印、關東州、滿濠、支、蘭印等が之に次ぎ、歐洲諸國は大でない。國際市場に於ける我が國と英帝

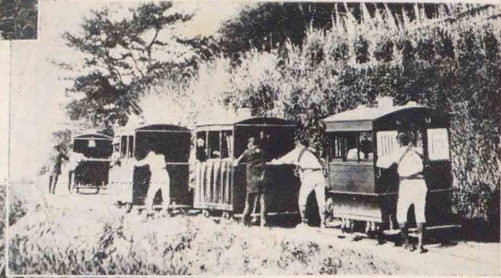


國とは競争の立場にあり、英印、濠洲等では既に問題を惹起した程である。英帝國は從來の自由貿易主義を捨てて、近年保護貿易主義に轉じた。近來は日、英兩國共に西部亞細亞、阿弗利加、東西岸、中南米等に新商圏を開拓せんと努力しつゝある。我が内地の貿易港は神戸、横濱、大阪の三大港が主で、名古屋、門司、關門、若松、四日市、清水、函館等之に次ぐ。

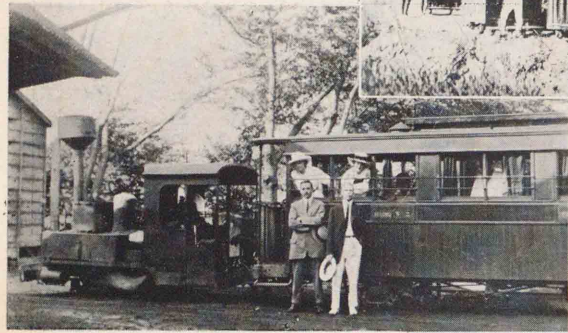
交通機關の變遷  
(小田原・熱海間)



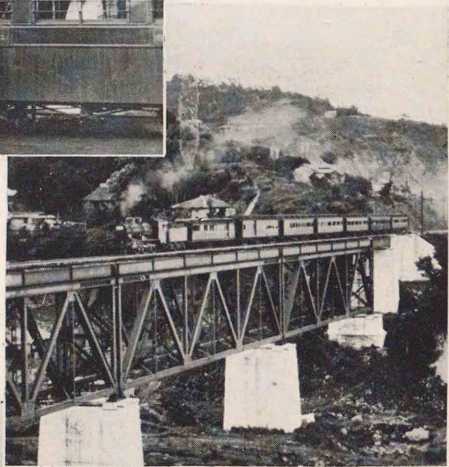
← 駕籠



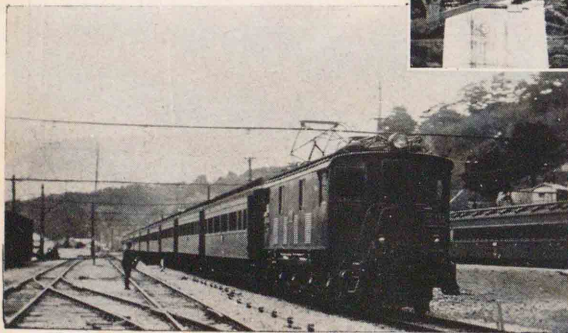
人車 →



↑ 軌道



汽車 →



← 電化

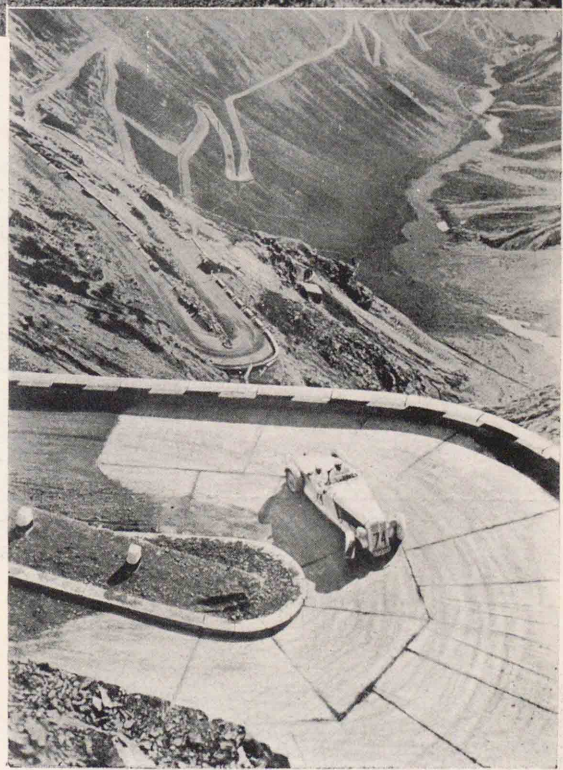
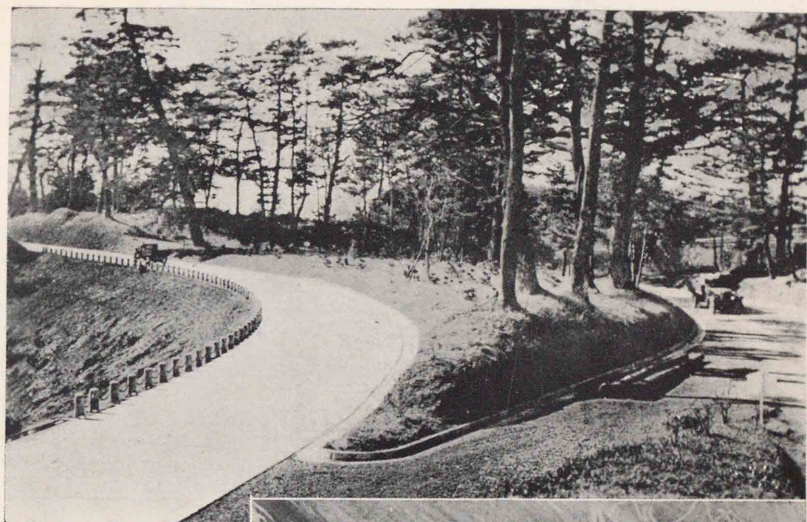
第六章 交通

交通の變遷

近時の交通は家畜馬車牛車に代る自動車汽車電車卓越風利用の帆船に代る汽船新たな航空機等によつて面目が全く一新し、通信制度も進み、有線無線の電信電話も普及して敏活な能力を發揮するに至つた。然し今尙世界各地の住民の文化には著しい差異があり、交通機關の種々相は、歴史的發達の過程を平面的に見せてゐる。擔夫の外、牛馬、熱帶の象、寒帶の馴鹿、北地の橇用の犬、沙漠の駱駝、西藏高原の犛牛、アンデ

觀光事業

觀光事業は國際收支の一産業と認められ、世界各國は競つて國策的立場より之が發達にとめてゐる。我が國も亦國際的觀光事業に力をつくし、民間の觀光協會と提携して觀光宣傳、觀光施設の完備、觀光客の接待等に努力してゐる。本邦入國外人數は一年約四萬人を算し、その消費額は九千萬圓の多額に上つてゐる。渡來外人の四割は觀光客で、その内米人が最も多く、英人が之に次ぐ。



(上)舊道の松並木と新装の東海道  
(下)瑞西アルプス山中の新山道

列國の鐵道

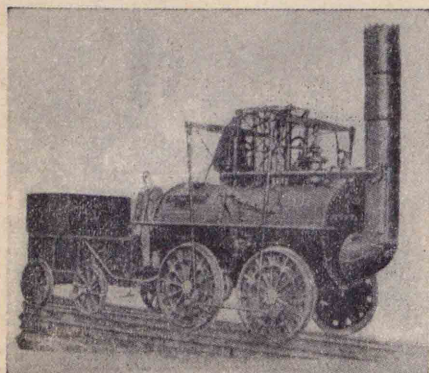
列國名	總延長 (千 秆)	面積萬方 秆につき	人口萬に つき
日本(内地)	二・三・二	六・一	三・四
米 國	四一・五・九	四・四	三・二・九
蘇 聯	八一・五	一・七	六・四
佛 國	六四・六	一・一・七	一・五・四
獨 國	六八・七	一・四・六	一・〇・三
英 國	三二・八	一・三・六	七・一
伊 國	二・三・〇	七・四	五・四
白 國	一・〇・二	三・三・六	一・二・四

ス山地のリヤマ等の使用は原始的で且つ地方色を表してゐる。現代の交通は實に世界的で、各國とも各種機關の交通路の延長、回数、増加、高速化、設備の改善等に最善の努力をしてゐる。

鐵道

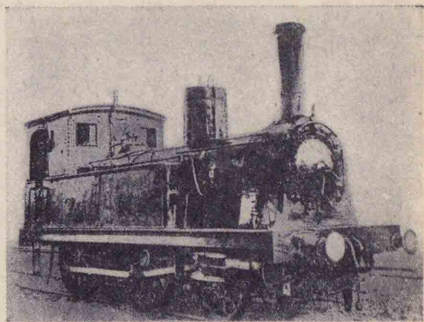
鐵道の延長距離は米

國が第



世界最初の機關車

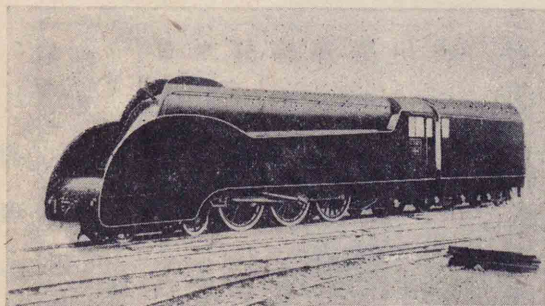
第一位で、露・英・印之に次ぎ、我が國は第一一位である。又面積に對する延長の割合も人口當りの割合も共に列國に比して遜色がある。たゞ鐵道の利用率から見れば、世界第一位であるが、各國の貨物收入の大なるに比し、我が國は乗客が主である。



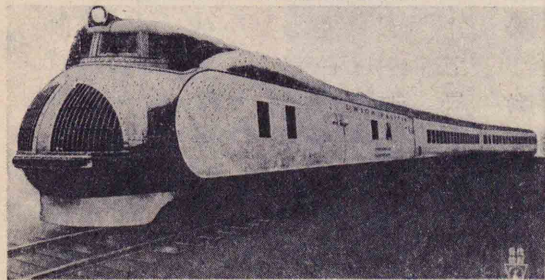
我が國最初の機關車

我が國は歐米の廣軌に對して狹軌であり、山地が多く、カーヴ・トンネル・勾配等、列國に比して不利な點が少くない。最近特急の速力も増大し、鐵道の電化も行はれてゐる。各大陸には横斷縦貫の鐵道があり、世界の各主要都市を結んでゐる。

る。北米の横斷鐵道・歐洲の急行線・西比利亞鐵道・滿鐵・京義・京釜・山陽・東海道の諸線等は世界の幹線の一部を形成する。主要都市には路面電車が普及し、又世界的の大都市には地下鐵も盛に敷設されつゝある。



本邦最初の流線型機關車



世界最新の流線型列車

本邦自動車分布は東京府最も多く、大阪府これに次ぎ、その他は神奈川・兵庫・愛知・静岡・京都・福岡等の諸縣に多い。

本邦自動車數は累年増加し、昭和十年は昭和元年に比すれば約三倍半に、大正十年に比すれば約一倍に増加してゐる。

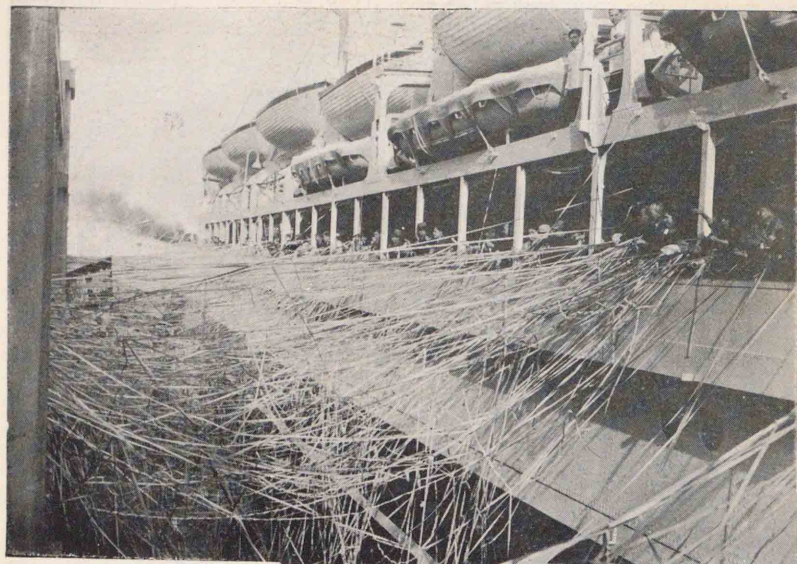
道路

我が國には京都及び江戸を中心として、全國に通ずる放射狀主要街道と脊梁山脈横斷路とが發達してゐた。各大

陸には海岸平野及びアルプス・ロッキーマンデス等の脊梁山脈通過の主要路があつた。然るに鐵道の發達に伴つて一時荒廢したが、最近自轉車自動車の發達につれて復活し、道路も鋪裝され、却つて鐵道交通を侵略するに至つた。

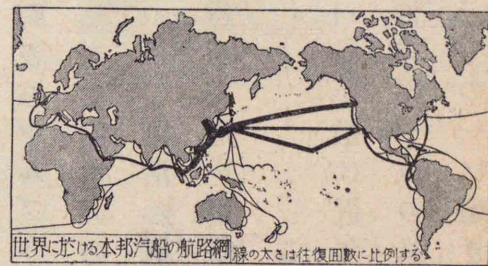
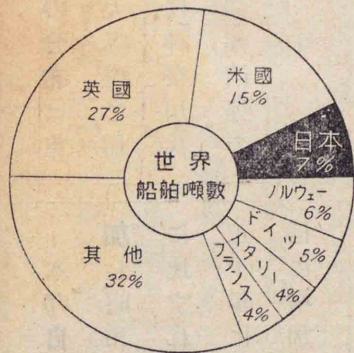
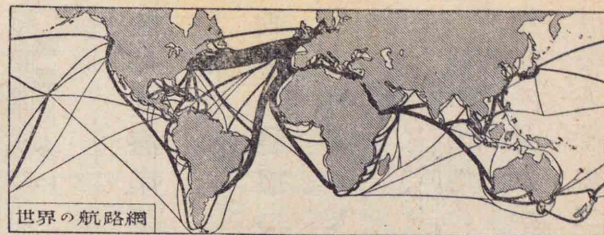
我が内地の自動車數は近年急速の増加を見たが、世界第一位の米國に比するとその二三分の一に過ぎない。

列國	自動車數	一人當口
米國	二六、一六九千臺	一五人
佛國	二、一八二	一九
英國	二、〇二八	二三
獨逸國	一、一〇四	六〇



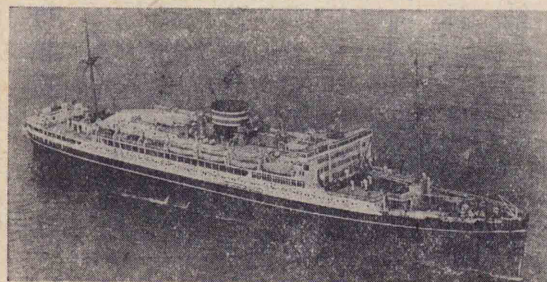
(上)横濱に於ける客船の出帆  
(下)シカゴ市ミシガン通の交通相

歐米兩文化地帯を連絡することが出来る太平洋の交通

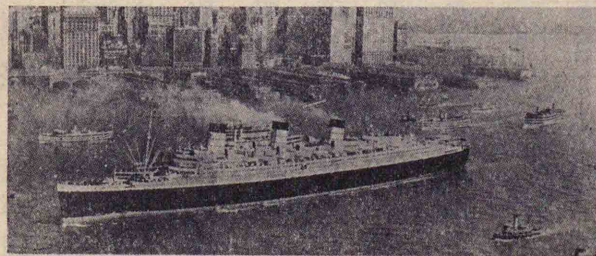


内地の自轉車は人口一人につき一臺の割合で比較的普及してゐるが、各國に比すれば尙發達の餘地がある。

**航路** 大西洋の交通は最も頻繁で、且つ巨大な快速船を有し、僅か四日間、



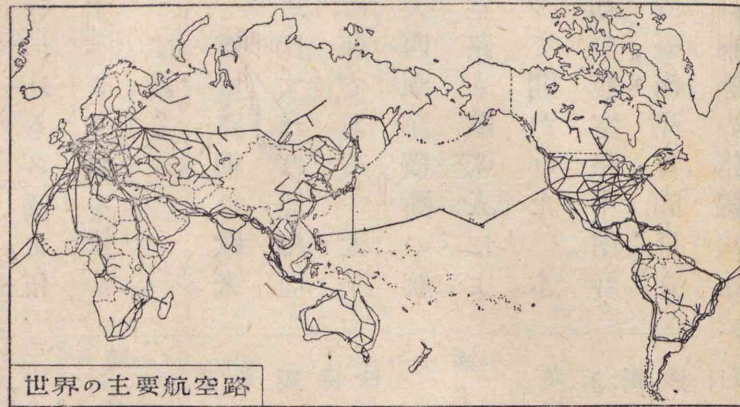
アメリカ航路の鎌倉丸



紐育埠頭に於けるクインメリー號

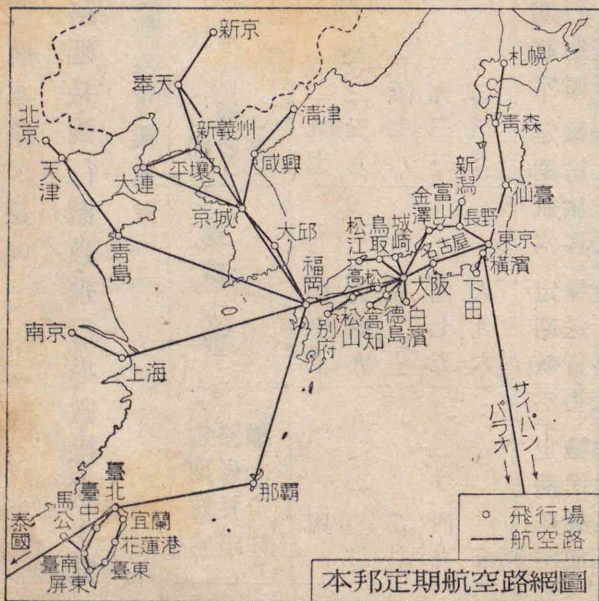


ては日英海運の競争さへ生じてゐる  
内陸水路交通としては運河北米の



世界の主要航空路

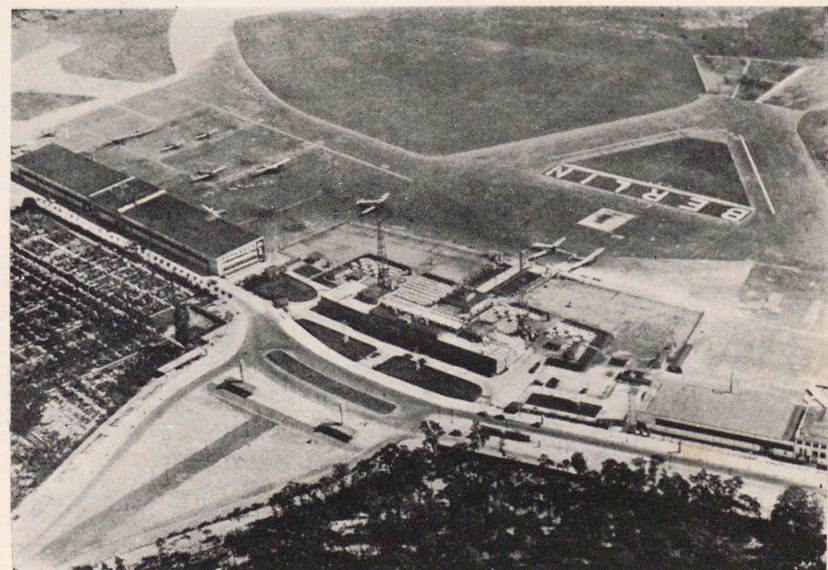
は日米兩國が中心で、將來の太平洋時代の出現が期待されてゐる。スエズ・パナマの兩運河の開通は世界の航路を著しく短縮せしめた。英國は世界船舶總噸數の三割を占め、米國之に次ぎ、我が國は第三位を占めてゐる。我が國は世界に廣く航路を有し、亞細亞及び濠洲に於ては日英海運の競争さへ生じてゐる。内陸水路交通としては運河北米の



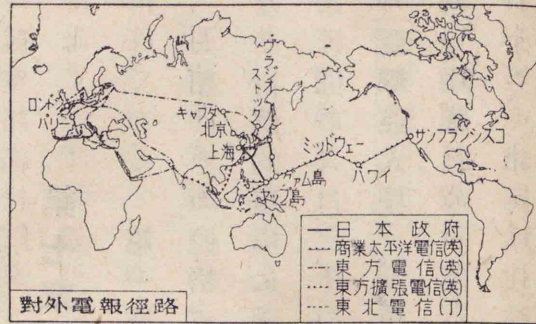
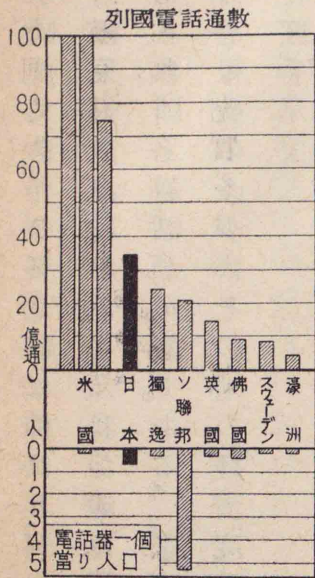
本邦定期航空路網圖



上空より見たる米國式都市景觀

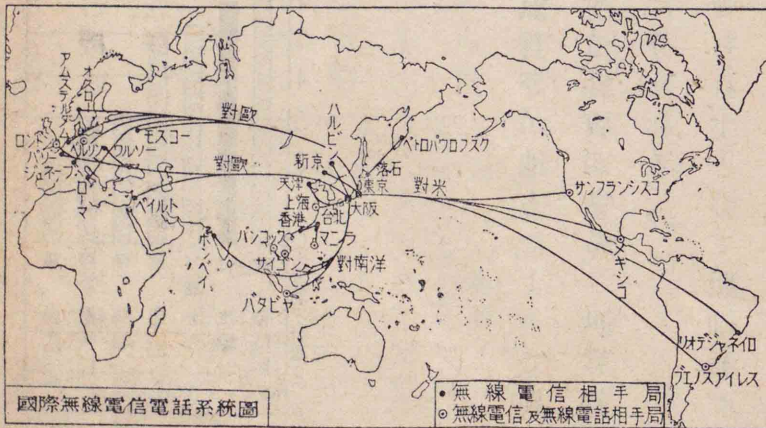


伯林の航空港



ある。三國亞印は西比利  
 徑路通過の米  
 がある。我が

通信 我が國の郵便  
 電信電話は萬國聯合の條  
 約に加盟し、列國に遜色な  
 き發達を遂げてゐる。郵  
 便は歐洲へは西比利亞ス  
 エズ、北米三經由により郵  
 送し、歐洲への有線電信路



五大湖の外、世界の大河、國際河川等は可航水路が長い。  
**航空路** 我が航空事業は定期航空路延長、飛行機數、飛行場數、操縦士數  
 等何れも各國に伍  
 すべく充實をはか  
 つてゐる。  
 航空路網は歐米  
 に比すれば亞細亞  
 は疎である。太平  
 大西兩洋横斷の航  
 空路も歐米人によ  
 つて開かれた。本  
 邦の航空路中、内鮮  
 内臺南洋、日滿、日支  
 日泰等の諸線は比

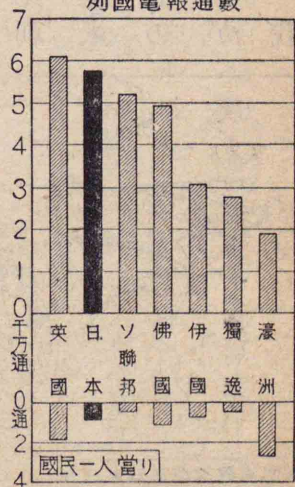
較的長距離で、利用の最も大なのは東京・大阪間であ  
 る。

日	佛	獨	米	英	國名	日	佛	獨	米	英	國名
二	一	二	三	三	飛行場數	二	八	二	二	一	民航空(百萬圓)
二	一	一	六	七	定期航空(萬軒)	二	一	二	三	一	飛行機數(臺)
一	一	一	四	二	定期航空(千客)	二	一	三	三	二	操縦士數(人)
一	一	一	五	一	定期航空(萬噸)	六	一	四	五	一	定期航空(千軒)
二	一	二	三	三	定期航空(萬噸)	五	四	五	〇	四	定期航空(千軒)

列國民間航空事業比較

が國は又世界の無電網に加はり、對米・對歐・對極東・對南洋局があり、又我が國の電話は殆ど各國と通話が可能である。都市の發信電報數の多少はその地の經濟度及び文化度を示す。

列國電報通數



## 第七章 住 民

### 第一節 人 種

人類はその體格・皮膚・毛髮・容貌・言語・風俗・習慣・氣質等が地方によつて異なり、自然的環境に適應し、又異なる氣候に馴化する性質がある。世界約二〇億の人口は、その特性に應じて次の五種族に分たれる。

#### 亞細亞人種

黄色人種又は蒙古人種とも稱せられ、主として亞細亞に住し、歐羅巴の一部にも分布し、總數約六億五千萬、世界總人口の三分の一を占め、大和民族・朝鮮族・滿洲族・蒙古族・土耳古族・フィン族・ラップ族・マジヤール族等は北蒙古族に屬し、漢族・西藏族・印度支那族等は南蒙古族に屬する。

我が國民は大和民族が核心をなし、他の諸族を同化融合し、亞細亞人種中最も文化が進み、世界最優等人種の一であり、漢族は東洋文明の開發者で、印度支那及び馬來諸島その他に移住民として優勢である。マジヤール族・フィン族等は歐羅巴に於て、歐羅巴人種と伍する民族として存在する。

#### 歐羅巴人種

白色人種・ユーラフリカ人種又はコーカシヤ人種とも稱せられ、主として歐羅巴、地中海に沿ふ北部・阿弗利加、南部・亞細亞の印度、南西・亞細亞等を主要本據とするも、現今では世界各地に廣く分布し、米國・加奈陀・南米・南阿・濠洲・西比利亞及びその他各種民地に互る。總數約九億八千萬で、世界總人口の約半に及ぶ。アリアン族は最も主要なもので、チュートン・ラテン・スラヴの三族は之に屬し、高度の文化を有する。ハム族とセム族とは古い文化の歴史を有し、印度族（ヒンヅ族）

亞細亞人種は顔が平たく、鼻低く、頭髮黒く、太く直く、鬚髯少く、皮膚は黄色を帯びてゐる。歐羅巴人種は一般に身長大で、顔長く、鼻高く、眼は大きく、凹み虹彩は概ね蒼く、頭髮は細く、柔かく、波状をなし、鬚髯多く、皮膚は白色である。

は印度に於て原住民たるドラヴィダ族を南方に壓迫し、  
亞細亞人種と伍して古代文化を開發した。

**阿弗利加人種** 一名黑色人種とも稱せられ、阿弗利  
加大陸のサハラ沙漠以南に住し、曾て奴隸として亞米  
利加に送られ、それ等の子孫が今尙亞米利加に在住す  
る。彼等は熱帯及び亞熱帯に居住し、總數約一億五千  
萬で、世界總人口の一三分の一を占め、文化の程度は一  
般に低い。

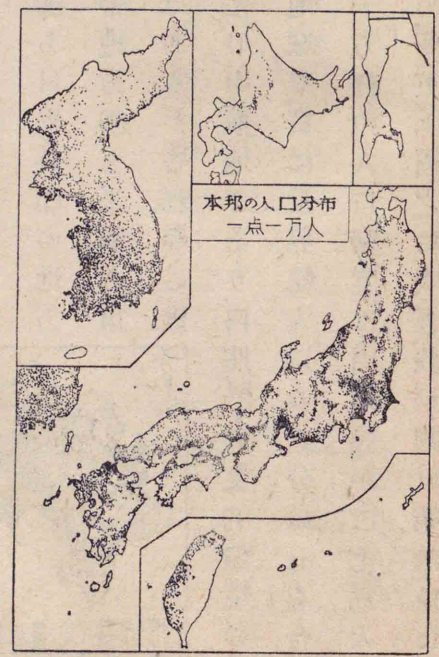
**亞米利加人種** 銅色人種又はアメリカインディアン  
とも稱せられ、南北兩米の原住民で、總數約四千六百萬、  
世界總人口の三%に充たず、亞米利加發見以來白人に征服され、一般に文  
化の度は低く、漸次減少の傾向がある。

**馬來人種** 海岸島嶼民族とも稱せられ、亞細亞の東南部及びその附近  
の島嶼大洋洲等に住する諸民族の總稱で、總數約四千九百萬で世界總人

阿弗利加人種は  
頭髮は黒く縮れ、鼻  
は扁平で、唇厚く突  
出し、皮膚は黒色で  
ある。  
亞米利加人種は  
頭髮は黒く直く、皮  
膚は赤銅色を帯び  
てゐる。  
馬來人種は頭髮  
は黒く直く又は波  
状で、虹彩は褐色で  
皮膚は暗色又は黄  
色である。

口の三%に當る。我が南洋及び  
臺灣の原住民も之に屬する。文  
化の程度は極めて低く、原始的生  
活を營む者が多い。

人類は政治的・宗教的・經濟的又  
は民族的の理由により、一地方か  
ら他地方へ移動し、その原住民を  
驅逐し、或は之と混在し、又は混血する。現在世界を通じて白人又はその  
子孫が勢力を占めてゐることは争へない事實である。



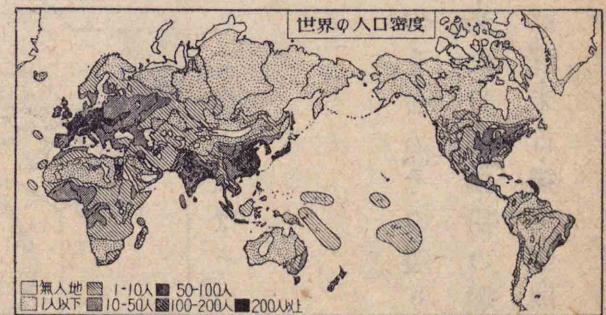
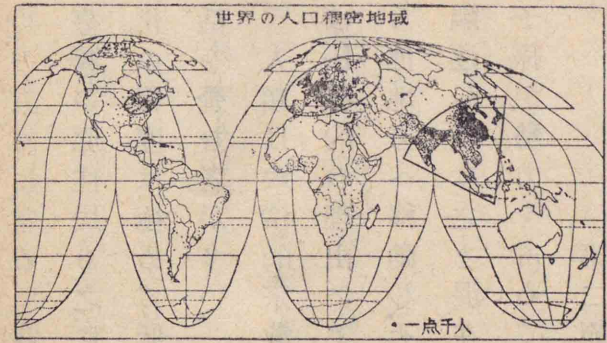
第二節 人口

**人口總數と人口増加** 亞細亞洲は世界總人口の過半を占め、その残り  
の二分の一は歐羅巴洲に住む。列國の人口は英・支・蘇・米・佛・日・蘭・獨・伊の順  
位で、我が國は第六位である。これ等の内、本國のみでは蘇・米・日・獨・英・伊・佛  
の順位である。人口の自然増加率は我が内地が列強の首位を占め、米の

二倍、英の五倍に當つてゐる。英、米、佛等の如きは年々低下の傾向にあり、將來憂慮すべき問題とされてゐるのに反し、日、獨兩國は著しく増加の趨勢を辿り、我が内地は年々約九〇萬の増加を示してゐる。

**人口分布と人口密度**

世界の人口の密な地方は、歐洲の溫帶地方即ち英、佛、白蘭の地方と、亞細亞の季節風帶即ち日、支、英、印の地方と、北米の溫帶地方即ち米國の東北部地方とである。これ等の地方は世界文化の中樞地であり、自然的・人文的環境の最も優れた地域で、實に世界總人口の六分の五を含んでゐる。一方、糧の人口密度は白耳義が二七三人で首位を占め、蘭、英兩國之に次ぎ、我が國は第四位に



當る。而して我が國市部の人口は總人口の約三分の一を占め、六大都市が殊に大で、東京は紐育に次いで第二位、大阪は伯林、倫敦、モスコ、シカゴに次いで第七位を占める。我が國人口密度の大な地方は京濱より名古屋、京阪神を経て北九州に至る地域である。

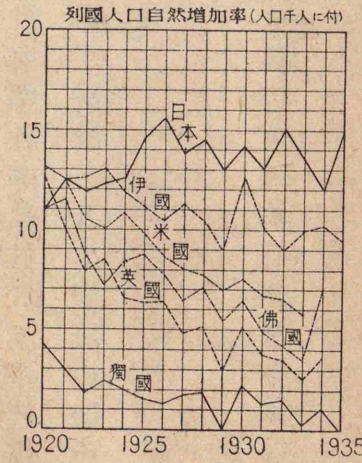
第三節 言語・宗教

**言語**

言語は人種・民族の種類と密接な關係があり、従つて種類も多く、又有力なる民族の言語は他の民族の間にも特殊の目的のために併用される。英語は廣く世界の商業語及び通用語として重要視され、獨語は學術語、佛語は外交用語として各國に重んぜられる。西語は葡語系の伯刺西爾を除く、ラテンアメリカに廣く行はれる。

**宗教**

宗教の分布は人種・民族・言語等と密接な關係を有することは勿論であるが、又一人種一民族が異なる宗教上の勢力圏に屬することも



ある。世界の大宗教は凡て亞細亞に起つた。佛教は東漸し、キリスト教は西漸して歐米に移り、回教は亞細亞、阿弗利加の乾燥地帯に、ヒンヅー教（印度教）は印度半島にそれ／＼傳播した。佛教は亞細亞の代表的宗教であるが、發祥地の印度に於てはヒンヅー教に勢力を奪はれ、今は我が國と印度支那とに最も盛である。キリスト教は歐羅巴人種の分布と略一致し、舊教、新教、希臘教等の諸分派がある。その他ユダヤ教、喇嘛教も特殊の勢力圏をもつてゐる。我が國は大部分佛教で、神道、キリスト教も一部行はれる。別に我が國固有の祖先崇拜から生れた神社崇拜の美風がある。我が國の神社は皇大神宮を始め、官幣社、國幣社、府縣社、郷社、村社、無格社等約十一萬社が全國に分布し、聚落の存する所必ず神社ありて、國民の敬神の念の深きは世界にその類を見ざる所である。

#### 第四節 衣食住

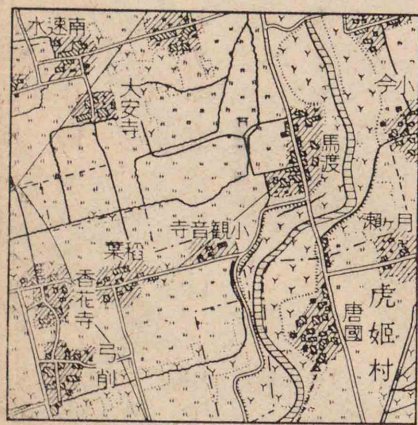
衣食は氣候、風土と關係が深く、衣服原料たる棉花、生絲、羊毛、麻布等の資源の過不足によつて各地の需給が行はれる。

食物も衣服に於けると等しく、その地の氣候、風土と關係深く、米食と小麦食、菜食と肉食等の習慣性が生じ、その資源の過不足によつて、必然的に需給が行はれる。

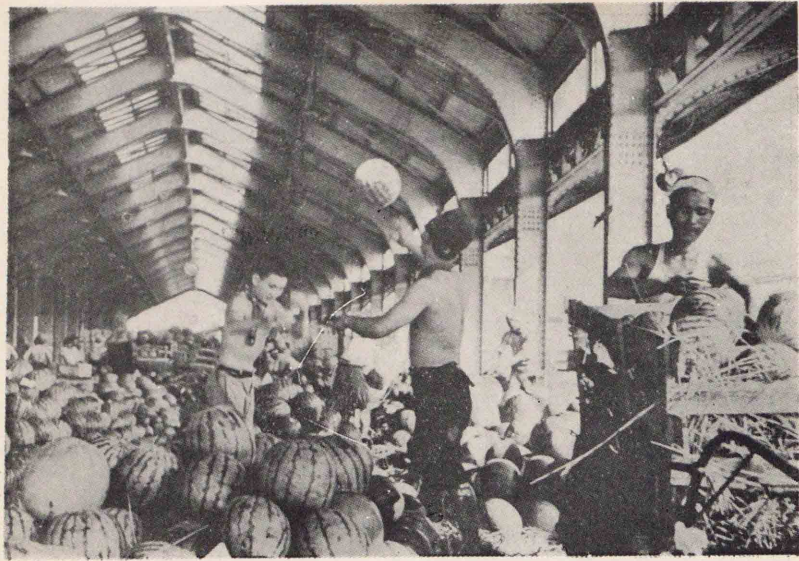
住居もその地の得易き原料又は環境によつて地方色を有し、毛皮の蒙古人、氷雪のエスキモー人、泥土のシリヤ人、高粱の滿洲人、木材、藁、瓦の邦人、石のアンデス人、煉瓦の歐洲人、コンクリートの歐米人等種々ある。氣候の乾濕及び風力により構造の相違もあり、沙漠、熱帯、原生林中に見る住居、防風林に圍まれた居構等もある。又樹上、水上、穴居の別があり、更に圓屋根、平屋根、尖屋根等の諸型式がある。

#### 第五節 聚落

村落は機能から農村、漁村、山村に、發生から親村子村（新田、新開）に、形態から集村、散村、街村等に分たれる。農村は農業の外、各種農産物



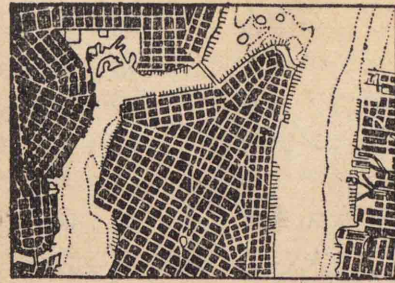
集村の一例(日本)



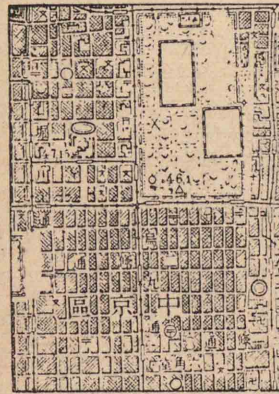
東京中央市場の青物市場



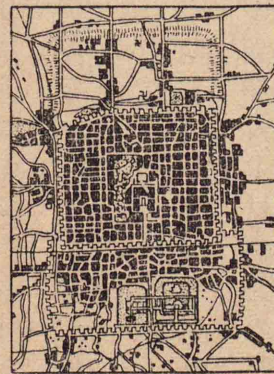
東京中央市場の魚市場



紐育の一部

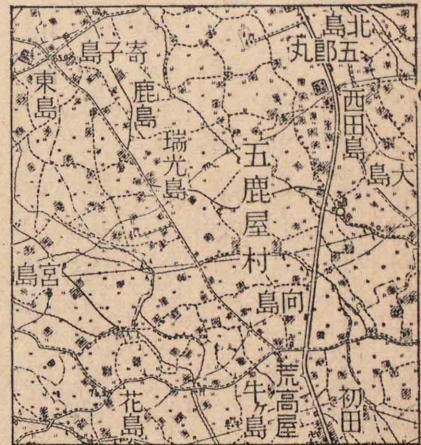


京都市の一部



北京市街

の加工業を、漁  
村は漁業の外  
各種水産物の  
加工業を、山村  
は林業の外、林  
野産物等の加  
工業を副業と



散村の一例(日本)



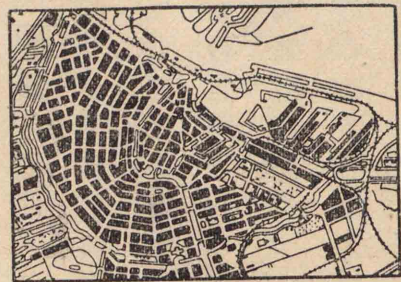
街村の一例(日本)

するものが多い。

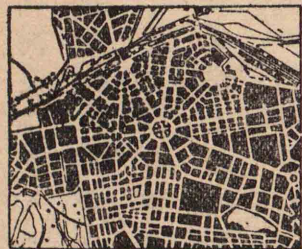
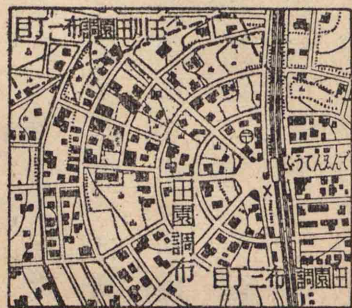
都市は機能から經濟都市市場都市商業都市交通

市放射状式都市同心圓状式都市城郭都市衛星都市等に分たれる。近代の都市計畫によれば、一都市が商業地域工業地域住宅地域風致美觀地域に分たれ、又田園都市と稱せられる特殊な住宅地域もある。

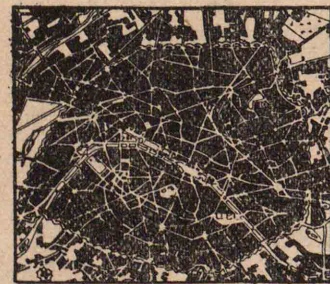
第六節 世界の文化地帯  
世界の文化地帯は最初黄河が



アムステルダム



大連の一部

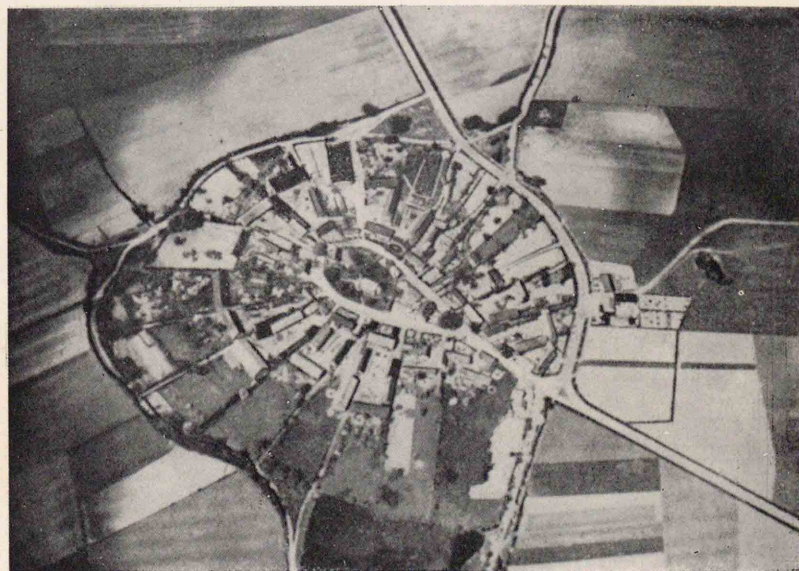


巴里の一部

から自然都市人為都市混合都市に形態から直交式都市(港町・宿場町の如き)工業都市(鑛山都市政治都市軍事都市)古くは城下町の如き)學術都市(宗教都市(神都佛都門前町の如き)遊覽都市觀光都市の如き)田園都市溫泉都市等に發生



街村(北獨逸平野)



集村(北獨逸平野)

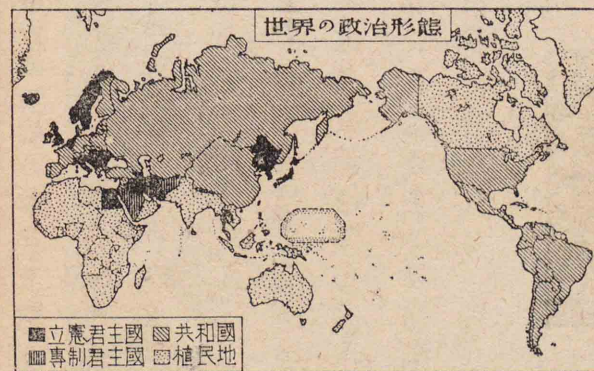


ンデス河、チグリス、ユーフラテス兩河及びナイル河の四大河流平野に發生し、その後發展して東亞、印度、西歐、東歐、アンゴロ、アメリカ、ラテンアメリカ等の各文化地域を形成した。これ等の地域の文化は略氣候に基く能力の高度に比例し、主要農牧業より觀たる文化型も亦氣候に依存することが大である。

## 第八章 政治

### 國家と國民

獨立國は世界に約六〇あり、國體によつて君主國と民主國(共和國)とに、政體によつて立憲國と專制國とに分たれる。日英兩國は立憲君主國であり、米佛兩國は立憲共和國である。又最近獨國のナチス、伊國のファッシヨ、蘇聯の政治等の如き政治形式の新傾向も生じて來た。國家は民族、宗教、言語等必ずしも單一ではない。



従つて主要民族は他民族の同化につとめ、國民の團結により國勢の發展を期してゐる。又各國民はその國の地理的環境の影響を受け、各特有の國民性を有する。

### 國境と領海

國境には山脈、河川、湖海、森林等の如き自然的事物又は宗教、言語、民族等の如き人文的事象による自然的國境と、經緯線、城壁、柵、林、空、塹壕、土壘等による人爲的國境との二種がある。これ等國境附近には中立地帯が設定され、或は緩衝國が成立することがある。又海岸から三浬以内の海面をも領有し、これを領海と稱する。

### 植民地

主要國は過剰人口の解決、原料品、食料品の獲得、加工品の販賣等を行ふため植民地を領有する。植民地には移住、植民地、投資、植民地、商業、植民地等の別がある。植民地所有國は歐洲に多く、英、佛、伊、蘭、白はそれで、歐洲以外では日、米兩國がある。英國は最大の植民地所有國で、世界各地に所有するが、我が國は本國の外縁に準本國として外地を有する點が特色である。植民地は統治上の性質により租借地、委任統治地、勢力範圍



カリフォルニアの新住宅区



獨逸マンハイムの計畫的都市

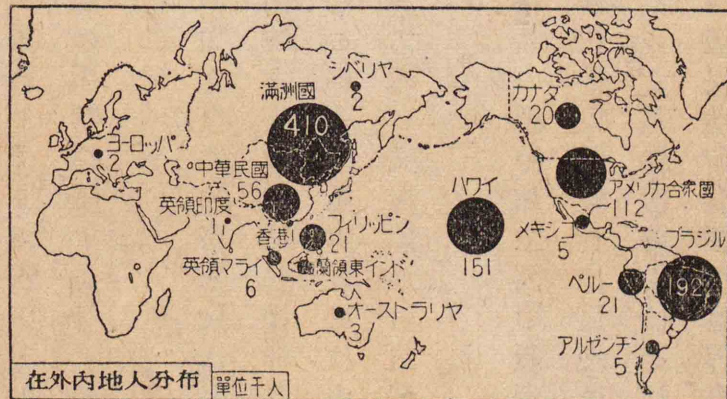
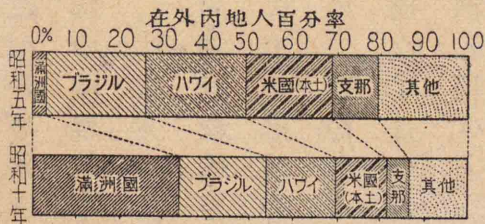
保護國・自治領・直轄地等の區別がある。

**移民**

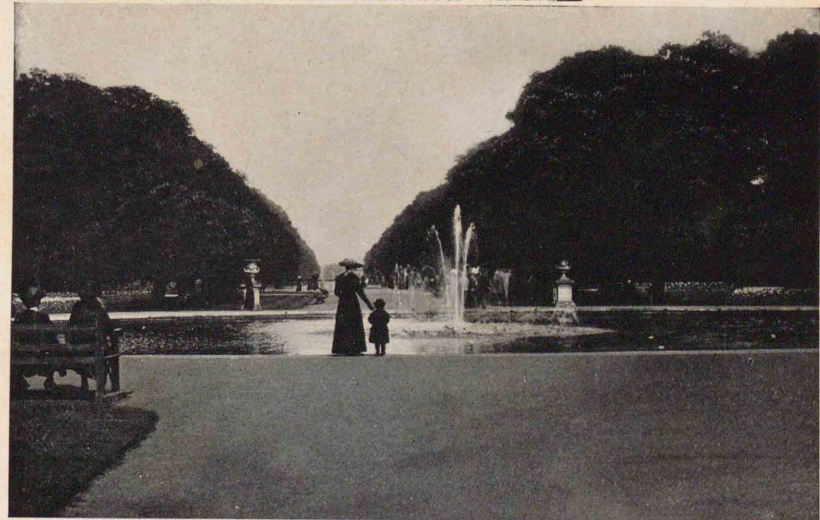
移民現象は、人口の過剰國で生活の困難な地方から、人口稀薄國の生活安易な地方へ一時的又は永久的に移住する時に起るもので、最近一ヶ年間の出移民數は英國が首位で、我が國は第二位を占め、伊波西獨之に次ぎ、入移民數は伯刺西爾が首位で、米國亞爾然丁・加奈陀之に次ぐ。最近

我が移民の渡航先は滿洲國が大部分で、伯國・比島之に次いでゐる。

在外内地人總數は約九三萬人で、内滿洲國が最も多く、伯國・布哇・米國・支那等之に次ぎ、その他比較的多いものに比島・秘露・加奈陀等



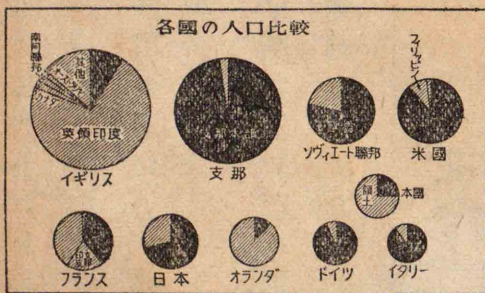
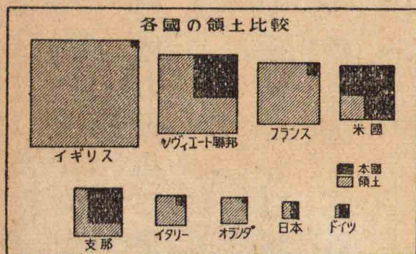
櫻 時 の 上 野 公 園



樹 梢 濃 き 倫 敦 の 公 園

がある。在外外地人の主なものは満洲に於ける約八〇萬の朝鮮人である。海外在留邦人の送金額は國際收入の一要素で、毎年約二千萬圓に達する。伯國移民には珈琲園行の契約移民と自作農移民等がある。伯國に於ける過去五〇年間の外國移民總數は約四〇〇萬人で、内伊國移民が最も多く、我が移民は一九萬人に過ぎない。米國に於ける我が移民は米國籍の子孫を加ふればその數約三〇萬に達する。馬來諸島に於ける我が移民の企業はゴム・マニラ麻栽培の外各種産業に及んでゐる。滿洲移民は我が對滿政策の一基調をなすもので、政府は二十ヶ年間百萬戸(五百萬人)入植の目標を立て、集團移民・自由移民・青少年義勇軍共に極力奨励してゐる。

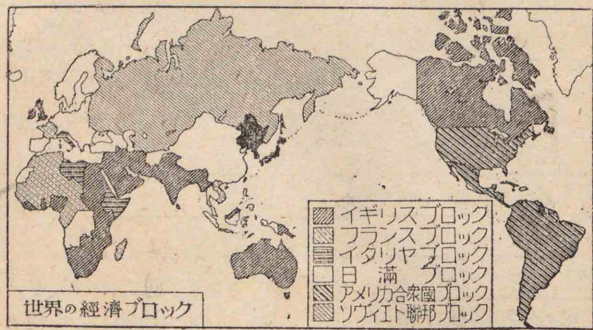
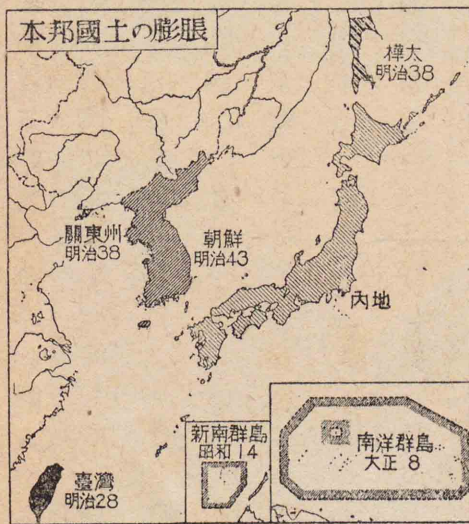
**領土と人口** 本國の面積の大なる國は伯・米・蘇支等で、植民地に於ては英



佛が最大で、伊・白蘭が之に次ぎ、全領土に於ては英國が最大で、世界陸地の五分の一を占め、蘇佛支米が之に次ぐ。人口・人口密度及び人口増加率は國により大小があり、人口過剰國は植民地の獲得、移民移出の形に於て擴大しつゝある。

**國土の膨脹** 英國は世界各地に領土を獲得し、蘇聯は漸次亞細亞に進出し、極東・中亞に及び、殊に海洋（不凍港）への進出に努め、佛國も亦大なる領地を有し、蘭國は過去の探檢の形見として、蘭領東印度を有する。我が國は日清・日露の兩役の直接間接の結果として、臺灣・樺太・朝鮮を領有し、關東州を租借し、第一次世界大戰後は南洋群島に延び、滿洲事變後は大陸方面にも勢力を扶植するに至つた。

**國家の自給自足と經濟ブロック** 國家



は主要産業により、農業國・工業國等に分れるが、各國は一朝有事の際、自給自足をなし得る經濟的國家主義の確立に腐心する。こゝに於てブロック經濟運動が勃興した。英吉利ブロック・北米合衆國ブロック・佛蘭西ブロック・蘇聯ブロック及び我が日滿支ブロック等の如きはその有力なものである。我が國と滿洲國とは經濟的に不可分關係を有し、彼の原料資源の輸入と我が工業品の輸出とは、彼に對する資本の投資と技術の進出等と相俟つて緊密な日滿の有機的關係を示してゐる。日支の關係も略之と等しく、極めて豊富な資源を持ちながら未だ開發にいたらず、我が國は優秀な工業力を持ちながら資材の不足に悩むこととなり、茲に密接な經濟提携をなし、以て日滿支三國の國利民福を計るべきである。東亞新秩序建設の必要な所以は實にこゝに存する。南洋との關係にも重大な關心を有するのはこ

のブロック強化のために外ならない。

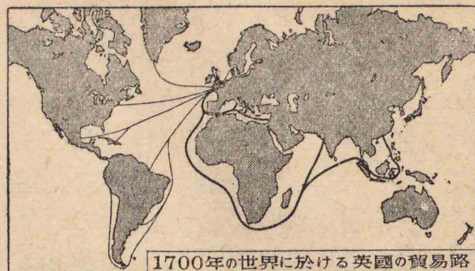
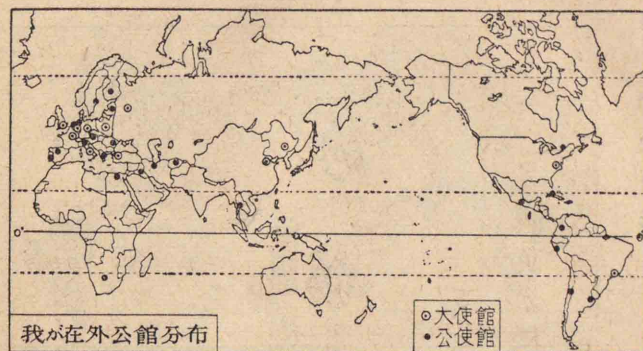
**軍備** 我が國は列強と共に陸海空軍の強化につとめ、極東及び太平洋の平和の確保と國威の發揚のため、之が擴大充實を計つてゐる。

### 國際關係と外交

國際關係の中心となる國々は、歐洲では英獨佛伊蘇、北米では米國、極東では日本で、これ等諸國は世界及びその地方に於ける有力國家である。この有力國家相互の勢力均衡が世界平和の鍵となる。我が條約國約五〇國は全世界に分布し、大使公使領事等を交換して主要地に駐在せしめ、政治經濟上の發展に資してゐる。

### 第九章 世界に於ける我が國の地位

我が國は歐米と隔絶した東亞の季節風帶に位置し、世界最大の大陸と大洋とに抱かれてゐる。かゝ



る自然的好位置に恵まれた我が國は、萬世一系の天皇を戴く立憲君主國として、世界無比の國體を有し、而もその國民は忠君愛國の念強く、よく東西兩洋の文化を咀嚼融合して、獨特の新文化を建設した。かくして我が國運は進展の一路を辿り、國土も亦次第に膨脹し、英佛米獨伊蘇の諸國と伍して世界の強國の一に列したが、その大陸に近き島國なると、資源に乏しい輸入國なる等の諸點に於て、我が國は英國のそれと極めて類似する。

又持てる國英米に對し、持たざる國獨伊の最近の進出は、同じく持たざる國たる我が國にとつては重大な關心事である。

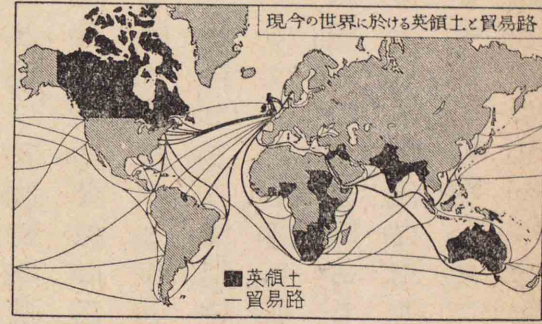
彼が大西洋時代の覇者として光輝ある過去の歴史を展開し來つた事實に鑑み、我は來るべき太平洋時代の王者として國際競争場裡に活躍すべき重大な使命のあることを痛感する。

我が國が過去半世紀に於て内治外交教育軍事産業何れの方面に於て

も驚歎すべき躍進を遂げ、遂に東亞第一の強國として英米獨伊に比肩するに至つた事績は、以て我が國將來の進展に期待するに十分なものがある。

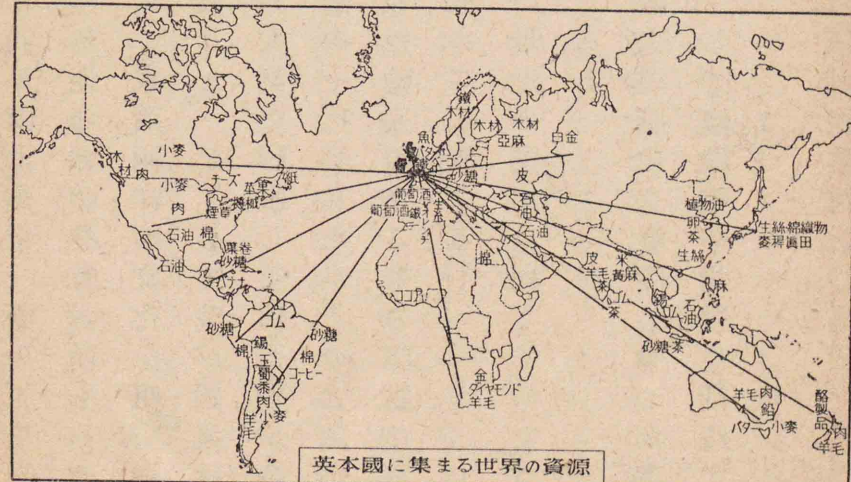
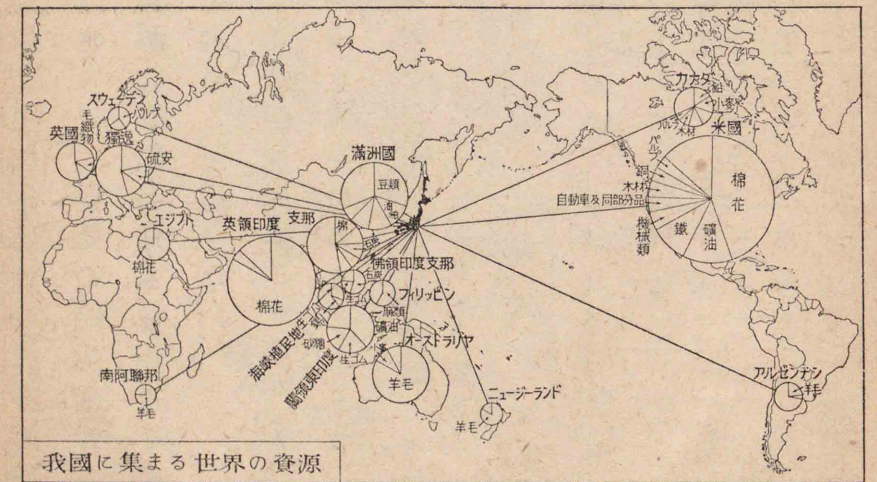
我等はこの重大な使命と、我が國土の實情とを認識し、英米の世界に於ける地位と、我が國のそれとの對比に鑑み、之が對策を考慮しなければならぬ。

我が國の領土面積は世界第二四位で、未だ大なりとは云へぬが、南北緯度五〇度に



互り、海面上の面積は著しく大である。従つて寒溫熱三帯の性質を具有し、利用價値は大であるが、土地は狹隘で山地が多い。加ふるに本國の人口・人口密度共に甚だ大で、何れも世界の第四位を占め、人口増加率に至つては、世界の第一位を占める状態である。一人當りの耕地面積は列強に比して極めて小で、集約的方法に依つて僅かにその缺陷の一部を補つてゐるが、到底之を以て國家を維持するには十分でない。

國民の食料問題・生活問題が叫ばれ、移民植民の問題が論議せられる所以は即ちここに在る。



れば、一般に保有量甚だ乏しく、輸出超過の資源は生絲・絹・硫黄の三者で、内  
 生絲のみが世界第一位の産額を占めるに過ぎない。需給の略均衡せる  
 資源は銅・石炭・黒鉛、一部分外國に依存する資源は鐵・鉛・木材等で、その  
 内銅・石炭・鋼鐵の三者が共に世界の第六位を占めるに過ぎない。

之に反して大部又は全部を國外に依存する資源は、錫・ボーキサイト・ニッ  
 ケル・石油・白金・ゴム・棉花・羊毛・亞麻・黃麻・大麻・マニラ麻等の多きに上り、その  
 内石油の消費額は世界第九位、羊毛の  
 消費額は世界第六位、生ゴムの消費額  
 は世界第三位、棉花の消費額は世界第  
 二位の多額に上つてゐる。

かくの如く棉花・羊毛・鐵・ゴム等の近  
 代工業に必須な原料品の凡ては輸入  
 に仰がざるを得ず、殊に綿織物・人絹絲  
 人絹織物等の世界第一位を占める輸

本邦重要資源の國內需要額に  
 對する不足又は過剩額の割合

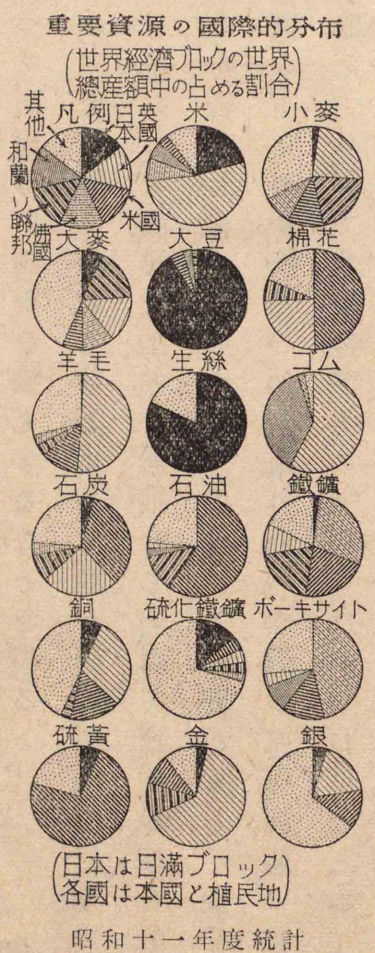
品種	%	品種	%
鐵(一)	八四	錫(一)	九三
鉛(一)	三一	棉花(一)	七六
鋼材(十)	五	羊毛(一)	〇〇
石炭(一)	七	生絲(十)	二〇
石油(一)	九二	ゴム(一)	〇〇
亞鉛(二)	三六	生絲(十)	〇〇
	五〇		一

(昭和十一年度統計)

出品の原料の殆ど全部を輸入に俟つことは、原料資源に乏しい我が國の  
 産業の特異性を示すものと謂ふべきである。

鐵・石油の重要資源に至つては、その保有狀況甚だ寒心すべき状態に  
 あり、比較的豊富に埋藏されてゐる石炭すら、世界炭量の八〇〇分の一を  
 産するに過ぎない。たゞ動力源としては、水力電氣のみが比較的豊富に  
 恵まれてゐる。

米は大量に生  
 産されるが、自國  
 消費量大なるた  
 め、輸出品となり  
 得ない。生絲は  
 價格の變動甚だしく、且人絹の壓迫を蒙り、輸出品の第二位に落ち、將來を  
 憂慮されてゐる。



かくて、我が國は日・滿・支及び南洋を合せた東亞ブロックの形成によつて、

鐵・石炭・石油その他の重要礦物資源、米・小麥・大豆・甘蔗等の食料資源、棉・生・ゴ  
ム・麻等の工藝用農産資源、羊毛・皮革等の畜産資源、木材・パルプ等の林産資  
源、食鹽等の水産資源等を、他の大陸に依存することなしに自給し得て、そ  
れ等の製品によつて、同地方に商圏を擴充することを得る。

土地・人口・資源の三者が、敍上の如き状態にある我が國は、農・山・漁村を更  
生し、中小商工業を振興し、大商業・大工業を發展せしめ、以て産業の綜合的  
發達を計り、原料品を輸入し、輸出品の生産を増進する必要がある。我等  
は宜しく國際協調の下に、外國貿易の伸展、海外原料資源の確保、海運の發  
展、海外移民の奨勵に力め、以て我が國が經濟力の充實をはからねばならぬ。

現下の我が國の使命は、東亞の新秩序の建設にあつて、國を擧げて興亞  
の大業に全力を傾注してゐる。亞細亞諸國の提携は、政治的・經濟的・文化  
的に見て、極めて自然の歸趨である。日滿支を樞軸としての東亞を中心  
とした、全亞細亞の有機的結合こそ、我が國家の生存圈の確立に於て、最も  
重要な要素である。こゝに於て、我が國は世界の事態に對應し、亞細亞

の安定勢力を確保するため、國防・外交・經濟の新體制を整へ、國民精神の發  
揚に力め、以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉り、國勢の發展を企圖すべきで  
ある。かくして國民精神を昂揚し、國民經濟を充實するは、たゞに我が國  
運發展に貢獻するばかりでなく、實に八紘一宇の皇謨を、宇内に宣揚すべ  
き、我が國の崇高な使命を全うする所以に外ならない。



昭和十二年十月十九日 印刷  
 昭和十二年十月二十五日 發行  
 昭和十三年一月十五日 修正再版印刷  
 昭和十三年一月二十日 修正再版發行  
 昭和十六年一月五日 修正三版印刷  
 昭和十六年一月十五日 修正三版發行

女子  
 中等地  
 理概說  
 (改訂版)

定價金 八拾一錢

改訂田中女概說

版權  
 所有



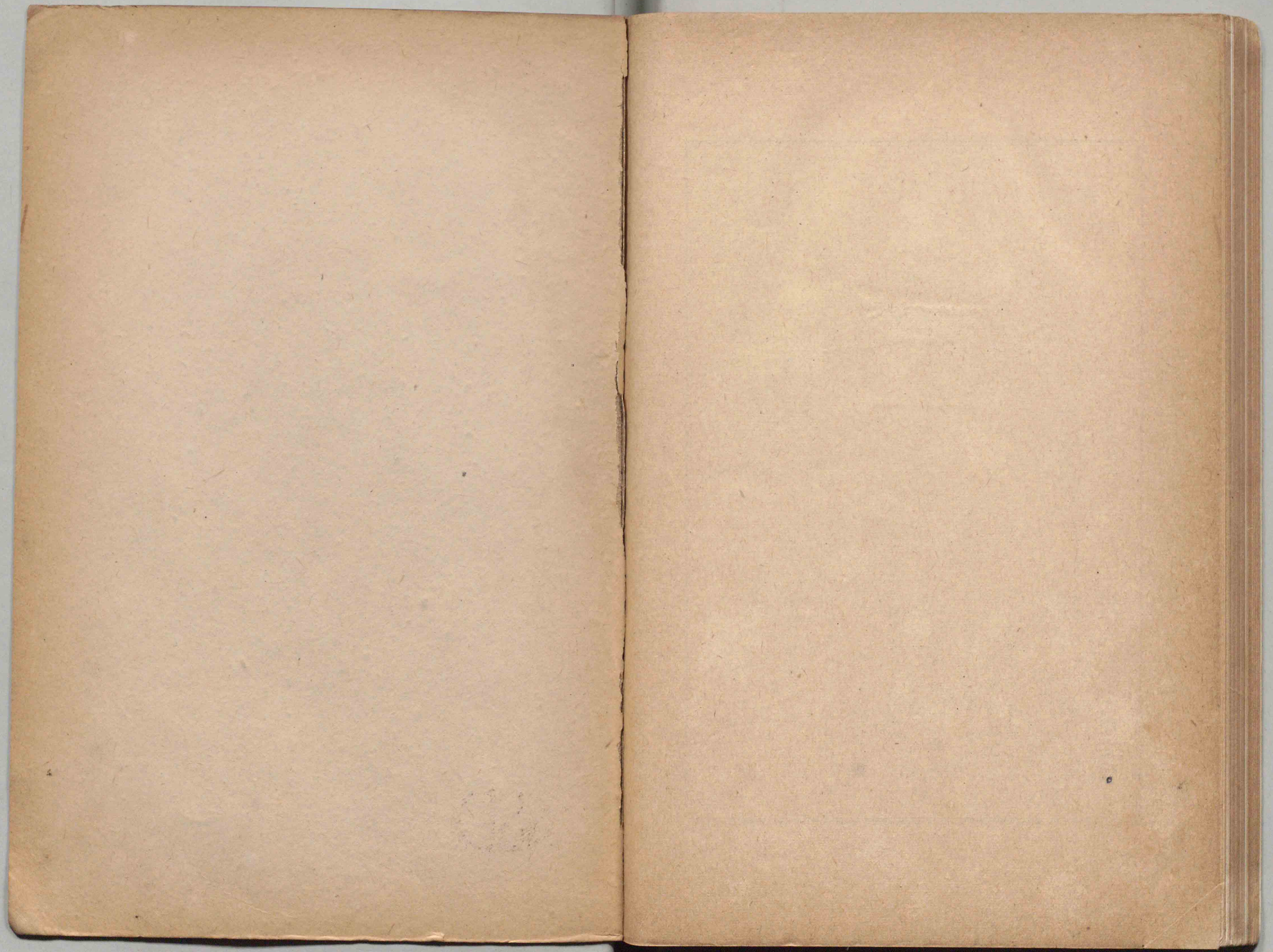
著者 田中啓爾

發行者 株式會社三省堂  
 東京市神田區神保町一丁目一番地

印刷者 株式會社三省堂蒲田工場  
 東京市蒲田區仲六郷一丁目五番地  
 代表者 喜多見昇

發行所

株式會社三省堂  
 (東京市神田區神保町一丁目一番地)  
 (振替東京三一五五五番)  
 株式會社三省堂大阪支店  
 (大阪市西區阿波座下通二ノ六)



第四學年虹組  
山科敦子

広島大学図書

2000023816



庫  
41  
316